

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東海大学
設置者名	学校法人東海大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	文明学科	夜・通信	58			58	13	
	歴史学科 日本史専攻	夜・通信				58	13	
	歴史学科 西洋史専攻	夜・通信				58	13	
	歴史学科 考古学専攻	夜・通信				58	13	
	日本文学科	夜・通信				58	13	
	英語文化コミュニケーション学科	夜・通信				58	13	
文化社会学部	アジア学科	夜・通信				58	13	
	ヨーロッパ・アメリカ学科	夜・通信				58	13	
	北欧学科	夜・通信				58	13	
	文芸創作学科	夜・通信				58	13	
	広報メディア学科	夜・通信				58	13	
	心理・社会学科	夜・通信				58	13	
教養学部	人間環境学科	夜・通信				58	13	
	芸術学科	夜・通信				58	13	
児童教育学部	児童教育学科	夜・通信				58	13	

体育学部	体育学科	夜・通信	58			58	13	
	競技スポーツ学科	夜・通信				58	13	
	武道学科	夜・通信				58	13	
	生涯スポーツ学科	夜・通信				58	13	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科	夜・通信				58	13	
健康学部	健康マネジメント学科	夜・通信				58	13	
法学部	法律学科	夜・通信				58	13	
政治経済学部	政治学科	夜・通信				58	13	
	経済学科	夜・通信				58	13	
経営学部	経営学科	夜・通信				58	13	
国際学部	国際学科	夜・通信				58	13	
観光学部	観光学科	夜・通信				58	13	
情報通信学部	情報通信学科	夜・通信				58	13	
理学部	数学科	夜・通信				58	13	
	情報数理学科	夜・通信				58	13	
	物理学科	夜・通信				58	13	
	化学科	夜・通信				58	13	
情報理工学部	情報科学科	夜・通信				58	13	
	コンピュータ応用工学科	夜・通信				58	13	
	情報メディア学科	夜・通信				58	13	
建築都市学部	建築学科	夜・通信				58	13	
	土木工学科	夜・通信				58	13	
工学部	航空宇宙学科 航空宇宙学専攻	夜・通信				58	13	

	航空宇宙学科 航空操縦学専攻	夜・通信	58			58	13	
	機械工学科	夜・通信				58	13	
	機械システム工学科	夜・通信				58	13	
	電気電子工学科	夜・通信				58	13	
	医工学科	夜・通信				58	13	
	生物工学科	夜・通信				58	13	
	応用化学科	夜・通信				58	13	
医学部	医学科	夜・通信			40	98	19	
	看護学科	夜・通信			15	73	13	
海洋学部	海洋理工学科 海洋理工学専攻	夜・通信				58	13	
	海洋理工学科 航海学専攻	夜・通信				58	13	
	水産学科	夜・通信				58	13	
	海洋生物学科	夜・通信				58	13	
人文学部	人文学科	夜・通信				58	13	
文理融合学部	経営学科	夜・通信				58	13	
	地域社会学科	夜・通信				58	13	
	人間情報工学科	夜・通信				58	13	
農学部	農学科	夜・通信				58	13	
	動物科学科	夜・通信				58	13	
	食生命科学科	夜・通信				58	13	
国際文化学部	地域創造学科	夜・通信				58	13	
	国際コミュニケーション学科	夜・通信				58	13	
生物学部	生物学科	夜・通信				58	13	
	海洋生物科学科	夜・通信				58	13	

(備考)

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページ TOP>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>「修学上の情報等」 についての公表>授業について>シラバス又は年間授業計画の概要
--

https://tips-syllabus.u-tokai.ac.jp/campusb

「シラバスを検索する」をクリックする。時間割年度を入力し、対象の学部を選択する。キーワードに「実務経験のある教員」と入力し、「検索開始」をクリックする。
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東海大学
設置者名	学校法人東海大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.tokai.ac.jp/about/trustee/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社新宿高野代表 取締役社長	2025.6.18 ～ 2029.6	法人運営の執行管理
非常勤	上田運輸株式会社代表 取締役	2025.6.18 ～ 2029.6	法人運営の執行管理
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東海大学
設置者名	学校法人東海大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
本学では、教育課程年度ならびに開講授業科目毎にシラバスを作成・公表している。シラバスの内容は、学科目、科目キーワード、科目と関連する実務経験、アクティブラーニング科目、地域志向による学修内容、他科目との関係、科目の要旨・概要、実務経験に基づく学修内容、アクティブラーニングによる学修内容、地域志向による学修内容、大学全体レベルの DP、学位プログラムレベルの DP、本科目の学修成果目標(ラーニングアウトカム)、成績評価の基準・方法、課題・試験・レポート等のフィードバック方法、履修上の注意点、教科書、参考図書・その他の教材、授業スケジュールである。 シラバスは、担当教員がシラバスデータベースシステム上で上記項目を入力後、科目管理者が点検・承認するというプロセスを経て公開される。 公表時期については、当該授業科目開講前に本学ホームページへ掲載し、広く周知している。	
授業計画書の公表方法	https://tips-syllabus.u-tokai.ac.jp/campus/b
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各科目の成績評価の客観性や厳格性を担保するために、シラバスに成績評価の基準が明記され、適性に成績評価がなされている。 また、学修成果の評価のひとつとして GPA 制を導入しており、修得単位数と合わせて、学修の評価基準となっている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学ではGPA制度を導入している。GPA制度の評価方法は、科目の成績を5段階で評価したものに、S=4.3、A=4、B=3、C=2、D・E=0のグレード・ポイント(GP)を付与し、その科目のGPに各授業科目単位数を乗じて、その総和を登録科目総単位数で割って算出する。 学生ポータルサイトの学生個人画面にて、セメスターごとに履修した対象科目を基にした「学期GPA」と、入学後から現在までに履修した全ての科目(累積成績)を基にした「通算GPA」を表示している。大学生生活全般の履歴は「通算GPA」が、現在の学修状況を確認するには「学期GPA」が参考になる。GPA値により得られる評価は下記のとおりとなり、学修状況を把握することができる。「学期GPA」のセメスターごとの推移を見ることで、「上り調子」「下降している」等が判断できる。 4.3～4.0 S評価～A評価を平均的に修得 非常に優秀。問題はない。 3.9～3.0 A評価～B評価を平均的に修得 問題はないが、セメスターごとに下がってきている場合は注意が必要。 2.9～2.0 B評価～C評価を平均的に修得 ぎりぎり合格しているレベル。本人の学修姿勢により、急激に不合格が増える可能性もあり注意が必要。 1.9～ 不合格の割合が多い 学習面、生活面で問題を抱えている場合が多い。指導対象にもなるため、学修状況や生活面での見直しが必要となる。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.u-tokai.ac.jp/education-research/gpa/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学は、創立者松前重義の示した建学の精神を受け継ぎ「明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てること」を目指している。そのために、大学として、教育目標と学位授与方針及び育成する人材像（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）として明確に設定している。 ディプロマ・ポリシーの内容は次の通りである。 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解し、文理融合の幅広い教養を身につけ、学則に定める修了要件を満たすとともに、自らの考えをもち、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく自主性や創造性を身につけたと認められるものに学位を授与する。 学位授与方針を、本学の学修をとおして身につけるべき社会的実践力「4つの力(12構成要素)」は下記のとおりである。 <自ら考える力> 対象を見据え、その本質を掘り下げ、可能性を広げる力（学習力、思考力、探求力） <集い力> 多様な人々の中で生き、その集団の形成・維持に寄与する力（関係構築力、コミュニケーション力、アイデンティティ獲得） <挑み力> 困難な問題に主体的に向き合い、解決・達成に向け踏み出す力（問題発見力、構想力、行動力） <成し遂げ力> 目標達成の途中で生じる失敗や挫折を乗り越えて、目標に近づく力（セルフマネジメント、継続力、改善・修正力） なお、卒業要件については、学則並びに授業要覧に、卒業単位数を修得し、所定の試験に合格すること等が明示されている。学部及び大学での卒業判定会議を行っており、卒業判定を適切に行うための措置がなされて、適切な学位授与が行われている。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy-history/policy/ 及び各学部ページに掲載

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東海大学
設置者名	学校法人東海大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/
収支計算書又は損益計算書	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/
財産目録	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/
事業報告書	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/
監事による監査報告(書)	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:	https://www.u-tokai.ac.jp/about/hyoka/annual-report/
-------	---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:	https://www.u-tokai.ac.jp/about/hyoka/accreditation/
-------	---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法：各学部学科ページに記載 https://www.u-tokai.ac.jp/education-research/undergraduate-department/ ）
（概要）
文学部 文学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した 4 つの力を踏まえ、人文科学に関する幅広い教養と高度な専門的知識及び的確な分析法を身につけ、現代社会が抱える多様な諸問題と向き合い、問題の根幹はどこにあるのかを正しく理解して課題を見据え、対処策や解決法を導き出せる創造力と実行力をもった人材を養成することです。 以上の目的を達成するために、文学部では 4 学科 3 専攻に学士（文学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。 【文明学科】 文学部文明学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、文明論・比較文明的な視野を養いつつ、古来人類の知的営為が生み出してきた東西の優れた哲学や思想についての基礎的な素養を身につけることにより、悠久の時間軸の中で人間の生き方や社会のあり方を根本的に捉え、現代の社会が抱える地球規模の多様な問題の一端を自分にとっての切実なものとして受け止めることにより、感性豊かな適切な言葉でそれを的確に他者に伝えることのできる市民としての人材を養成することです。 【歴史学科 日本史専攻】 文学部歴史学科日本史専攻の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、史・資料を客観的に分析し、歴史事象を論理的に思考する能力や、分析・思考の成果を他者に的確に伝える能力を鍛え、過去から現在に至る日本史の流れや人々の営みを正しく理解することによって、歴史的な視点で現代社会の課題を認識し、他者を公正に理解しながら、よりよい社会の形成に主体的に関与しようとする人材を養成することです。 【歴史学科 西洋史専攻】 文学部歴史学科西洋史専攻の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、ヨーロッパとその関連地域から構成される西洋世界について歴史的視点から多角的に学ぶことによって、幅広い知識を習得するとともに、思考力や判断力を養い、異文化の特質を正しく理解し、教育や文化をはじめ、様々な分野で国際的にも活躍できる優れた人材を養成することです。 【歴史学科 考古学専攻】 文学部歴史学科考古学専攻の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、考古学と周辺諸科学に関する幅広い教養と高度な専門的知識および考古学的な分析法を身につけ、広く人類史を見つめ、その視点から現代社会が抱える多様な諸問題にも向き合い、問題の根幹はどこにあるのかを正しく理解して対処策や解決法を導き出せる創造力と実行力をもった人材を養成することです。 【日本文学科】 文学部日本文学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、永い伝統を

持ち、また現代日本の社会や文化とも密接に関わっている日本の文学や日本語について学ぶことで、日本の文化に関する幅広い教養の上に立って現代の社会に対して新しい文化的提案ができる人間、また伝統をふまえつつ次世代の社会に向けて創造的に関わってゆける人材を養成することです。

【英語文化コミュニケーション学科】

文学部英語文化コミュニケーション学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、英語による実践的コミュニケーション能力と、それを支える教養や専門研究の力を兼ねた人材を養成することです。

文化社会学部

文化社会学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、人文社会系の研究・教育の成果を土台としつつ、(1)多文化理解の促進、(2)高度な言語表現力の育成、(3)メディアの理解・利用・創造、(4)自立と共生を実現する知識と力、を柱とする研究教育を通じて、人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与できる人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、文化社会学部では6学科に学士（文化社会学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【アジア学科】

文化社会学部アジア学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、多様性に満ち、グローバル化のなか急速な変化を遂げているアジアについて学識を深めることで、異文化に向き合い中長期的な展望をもって現代のさまざまな課題に取り組み、国際社会、地域社会に貢献できる人材を養成することです。

【ヨーロッパ・アメリカ学科】

文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、西洋世界について古代から現代までの包括的な理解を深め、さらに「文学・芸術」「宗教・思想」「歴史・社会」という多角的な視点からの学びを通じて、第一に、変動する世界情勢の中でも揺るがない洞察力を持ち、新たな文明を創造するエネルギーに溢れた人材を養成します。第二に、多様性を尊び、共生を志向する精神を持って未来を切り開き、暮らしを豊かにする知恵をもつ人材を養成することです。

【北欧学科】

文化社会学部北欧学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、「共生社会の構築に貢献できる自立した人材の育成」という目的へ向け、(1)北欧社会の先進的な取り組みや文化について学ぶことで広い視野と柔軟な発想力を備え、多様な価値観を受容することのできる人材、(2)言語学習や留学・海外研修などを通じて自らの考えを発信する力を高めた人材、(3)日本という視点から北欧を研究することで批判的考察力を身につけた人材、(4)自己と社会との関わり方や自立した生き方を主体的に構想し、日本社会が抱える課題の克服に積極的に取り組むことのできる人材を養成することです。

【文芸創作学科】

文化社会学部文芸創作学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、文芸の創作と批評を通じ、(1)現代社会で通用する正確な言葉によって論理的かつクリエイティブに個々の感性と経験を表現する力、(2)人間と世界に関する情報や事象を柔軟かつクリティカルに読み取り、的確に分析し、本質を洞察する力、(3)広く諸芸術を鑑賞して培った教養を未来に向かって総合的に生かしてゆく力、という三つの力を備えた人材を養成する

ことです。

【広報メディア学科】

文化社会学部広報メディア学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、単なる技術の習得にとどまらず、メディアに関する理論的・歴史的・制度的な研究成果を土台としつつ、混沌としたメディアの現状に対応できる人材、社会的価値のあるメッセージを創造・発信できる人材、メディアや企業・行政の広報・広告部門で活躍できる人材を養成することです。

【心理・社会学科】

文化社会学部心理・社会学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、心理学・社会心理学・社会学の学び、そして組織された実験やフィールド実習を通じて、人間関係の充実に必要な社会的スキルである“コミュニケーション能力”と社会的な課題や問題に対して具体的な解決策や行動計画を提案できる“社会的構想力”を有する人材を養成することです。

教養学部

教養学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、幅広い教養を身につけるとともに、学科における専門性を基礎としながら、同時に学科を繋ぐ学際的かつ実践的な教育を通して、社会の変化に柔軟に対応し、社会での自らの役割を自覚するとともに、様々な問題に対応できる創造力、独創力や実践力を有した人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、教養学部では2学科に学士（教養学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【人間環境学科】

教養学部人間環境学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、私たち人間を取り巻く環境について「自然環境領域」、「生活文化領域」、「社会環境領域」の異なる領域から分析し、それらをトータルに把握するとともに、その専門性を基礎として、自らの社会的役割を自覚し、国際性と独創性、創造性を有した人材を学際的かつ実践的な教育を通して養成することです。

【芸術学科】

教養学部芸術学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、「身体指向」「社会指向」「発表指向」を目標とする芸術教育の実施により、音楽・美術・デザインなど個々の適性に合わせた専門能力、かつ「学際芸術」のコンセプトの下にそれらを統合する能力をも兼ね備え、様々な場面に対応できる判断力・行動力を持った視野の広い人材を養成することです。

児童教育学部

児童教育学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割を理解し、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識・技能を基盤として、子どもの多様な発達と学びを総合的かつ連続的に捉える視野を持ち、そこで見出した社会・地域の課題に他者と協働的に向き合い、解決に向けて取り組むことのできる人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、児童教育学部では児童教育学科に学士（児童教育学）の

学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【児童教育学科】

児童教育学部児童教育学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、社会について幅広く学び、“子どもに係る諸課題は社会全体の課題である”ことへの理解を深めながら、「教育・保育の基礎的な知識と技能」と、「多様な子どもに向き合い、見通しを持った教育・保育を展開できる力」に加え、「教育・保育の課題を地域の課題として実際に向き合い、他者と協働してその解決に向けて主体的に行動できる力」を教育体系の中で養成し、「多様な子どもを、継続的に見通す力」を身につけ、教員や保育者といった専門職において活躍するだけでなく、広く子どもに関わる各分野（公務員、一般企業）において、身につけた人間性や能力を活用して、これからの社会に貢献する人材、共生社会の実現を目指す人材を養成することです。

体育学部

体育学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、体育・スポーツ科学の学修を通じて、その知識・技能・態度を修得すると同時に心身を錬磨し、これらの英知を生かして柔軟な思考力と総合的判断力を有する人材を育成すると共に、体育・スポーツ科学の専門家としての指導力及び実践力をもった、平和で健康的な社会の創造に貢献することのできる人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、体育学部では5学科に学士（体育学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【体育学科】

体育学部体育学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、身体を多面的に把握・理解する能力の育成に重点を置き、体育・スポーツ科学の学修を通じて、人文社会科学や自然科学など体育・スポーツに関する幅広い知識・技能・態度を修得し、学校・企業・地域社会などあらゆる場面において、体育・スポーツに関する学問研究の文化的諸成果を、周囲の人々や未来を担う子どもたちに発展的に継承することのできる実践力・指導力ある人材を養成することです。

【競技スポーツ学科】

体育学部競技スポーツ学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、自己及び他の競技者の競技力向上に寄与しうる能力を高めるに留まらず、アスリート、コーチ、トレーナーを目指す活動を通して、自己の専門分野における理論と実践面におけるリーダーとしての資質向上を目指し、国内はもとより世界のスポーツ界をリードしていくことのできる、より高度な知識と実践力を有する人材を養成することです。

【武道学科】

体育学部武道学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、武道の特性を踏まえ、体育・スポーツ科学の視点から武道を科学的に研究することにあります。そして、武道実践を通して武道の精神と専門的な知識を身につけ、技術を体得し、国際性に富んだ広い視野を培い、自己開発能力に長けたリーダーシップのとれる、社会に積極的に貢献する人材を養成することです。

【生涯スポーツ学科】

体育学部生涯スポーツ学科の研究教育上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、生涯にわたり健康で豊かな生活を送ることのできる社会の実現に寄与するため、生涯スポー

ツに関する理論及び実践を科学的に探求することを通じて、人々の健康の維持増進と生活の質の向上を促す確かな知識と技術を修得し、優れたコミュニケーション能力を持ち、スポーツ・健康増進施設、教育機関、企業など、地域社会で幅広く活躍できる人材を養成することです。

【スポーツ・レジャーマネジメント学科】

体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、思想・歴史・文化など幅広い教養と豊かな見識を持ち、平和で豊かで美しい地球社会の発展に役立とうとし、人間が人間らしく生きていくために必要不可欠な人権の一つである「スポーツ&レジャー」分野において、自他に対してその実現に寄与し、科学的・創造的思考に卓越し、英語でのコミュニケーション能力を有して国際的に活躍できる人材を養成することです。

健康学部

健康学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、未来に向けて「健康社会」を実現するために、多様な分野から成る総合学問としての健康学を学び、“専門領域や職種を超えてネットワークを構築し市民と協働する力”、併せて”国境も超えて多様な人々とも連携、協働できる力”、“複合的な視点で解決策を創造する力”を備え、マネジメントできる人材を養成することです。

健康学部は、これらの教育研究を進めることによって、身体的、精神的、社会的な側面から「健康」を総合的に捉え、実践的かつ専門的な教育と研究を通じて、国内外の健康に関わる諸問題の解決に貢献します。

以上の目的を達成するために、健康学部では健康マネジメント学科に学士（健康マネジメント学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【健康マネジメント学科】

健康学部健康マネジメント学科の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、未来に向けて「健康社会」を実現するために、多様な分野から成る総合学問としての健康学を学び、“専門領域や職種を超えてネットワークを構築し市民と協働する力”、併せて”国境も超えて多様な人々とも連携、協働できる力”、“複合的な視点で解決策を創造する力”を備え、マネジメントできる人材を養成することです。

健康学部健康マネジメント学科は、これらの教育研究を進めることによって、身体的、精神的、社会的な側面から「健康」を総合的に捉え、実践的かつ専門的な教育と研究を通じて、国内外の健康に関わる諸問題の解決に貢献します。

以上の目的を達成するために、健康学部では健康マネジメント学科に学士（健康マネジメント学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

法学部

法学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、社会の諸問題を法的に分析し、その解決方法を構築・説明することのできる法的素養（リーガル・マインド）を涵養することにより、人間の尊厳と人権の尊重を基調とする現代の社会において、責任ある行動をし、ジェンダー・障がい者差別等のないインクルーシブかつ平等な社会を志向することのできる自立した人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、法学部では法律学科に学士（法学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッシ

ン・ポリシー」を定めています。

【法律学科】

法学部法律学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、法学的素養（リーガル・マインド）と能力を活かして自分自身を人間的に成長・発展させ、法律専門職・公務員・ビジネスパーソンその他さまざまな団体の構成員として、そして地域社会、日本、ひいては世界の一市民として、自身の活動を通して平和でインクルーシブな社会の形成・発展に寄与しうる人材を育成することです。

政治経済学部

政治経済学部教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、我が国および国際社会の一層の発展と向上に寄与しうる「冷静な頭脳と温かい心」に立脚し「社会力」をもった人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、政治経済学部では3学科に学士（政治学・経済学・経営学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【政治学科】

政治経済学部政治学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、21世紀におけるグローバリゼーション、情報化、少子高齢化を視野にいれると同時に、環境、人権等、現代の政治課題に対応できるよう、地域社会から国際社会に及ぶ複雑な政治現象を客観的、多面的に分析し、現実社会の諸問題に取り組み解決を図る態度と能力を身に着けた人材を養成することです。

【経済学科】

政治経済学部経済学科の教育研究上の目的は、①経済現象の仕組みや因果関係を理論的に解明できる力（理論的に考える力）、②経済現象について資料を集め科学的に分析できる力（実証分析する力）、③経済問題を多面的に検討して政策提言できる力（政策提言する力）、以上3つの力を備えた人材を養成することです。これら3つの力は、社会で求められる状況判断と意思決定の能力と密接に関係すると考えています。

経営学部

経営学部教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、複雑化する課題解決に対し、スキルと強い意志をもって行動できる人材を育成していくことを目的に、経営学の理論・知識とデータ分析能力を持ち、問題解決に向けた新しいプロセスをデザインしながら新しい解決策を模索することができる人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、経営学部では経営学科に学士（経営学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【経営学科】

経営学部経営学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、複雑化する課題解決に対し、スキルと強い意志をもって行動できる人材を育成していくことを目的に、経営学の理論・知識とデータ分析能力を持ち、問題解決に向けた新しいプロセスをデザインしながら新しい解決策を模索することができる人材を養成することです。

国際学部

国際学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、グローバル化の加速する社会において必要な「地球規模の課題を理解するための幅広い知識と思考力」、「言語・文化を超えて協働できるコミュニケーション力」、「高い倫理観をもって積極的に行動する実践力」を持つ人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、国際学部では国際学科に学士（国際学）の学位プログラムを設置し、「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【国際学科】

国際学部国際学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、頭で学ぶだけでなく、体とそして心を使った実践的に使える知識と人間力を身につけ、複雑化するグローバル社会における課題を発見するとともにその解決に寄与し、多文化社会の中で活躍できる人材を養成することです。

観光学部

観光学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、社会科学系の研究・教育の成果を土台として、変化が著しい現代社会を生き抜く力をもった自主的・創造的人材を育成することです。すなわち、文化・社会・自然の多様性ならびに観光の諸現象に関する知識と理解、問題発見・解決力、創造力、日本語や英語等多言語でのプレゼンテーション・コミュニケーション力をはじめとする汎用的な能力と技能、協調性を保ちつつ独自性を発揮できる自己管理能力等、学士の学位をもって社会で生きる基礎的な力を有し、観光・サービス産業やそれらの研究分野の発展に貢献することができる独創的人材を養成することを目的としています。

以上の目的を達成するために、観光学部では観光学科に学士（観光学）の学位プログラムを設置し、「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【観光学科】

観光学部観光学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、変化が著しい現代社会を生き抜く力をもった自主的・創造的人材を育成することです。すなわち、文化・社会・自然の多様性ならびに観光の諸現象に関する知識と理解、問題発見・解決力、創造力、日本語や英語等多言語でのプレゼンテーション・コミュニケーション力をはじめとする汎用的な能力と技能、協調性を保ちつつ独自性を発揮できる自己管理能力等、学士の学位をもって社会で生きる基礎的な力を有し、観光・サービス産業やそれらの研究分野の発展に貢献することができる独創的人材を養成することを目的としています。

情報通信学部

情報通信学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、人々の生活の質的变化・価値観の変化に大きな影響を与えている情報通信技術をどのように発展させ、イノベーションを起こすためにどのように活用し、持続可能な社会を構築していくかの解決を目指し、多様性と国際性を兼ね備えた広い視野とコミュニケーション能力を有するとともに、情報通信に関する専門知識と技術を身につけ、それらを社会で十分に活用できる柔軟な思考力と活用力を備えた、情報通信技術者としての使命感、倫理観をもった人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、情報通信学部では情報通信学科に学士（情報通信学）の

学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【情報通信学科】

情報通信学部情報通信学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、「グローバル社会の中で活躍できる語学力と多様化する価値観を受容できる”コミュニケーション力”」を有し、「社会に生じる諸問題に対して”情報通信の専門性と技術力”に基づき、”柔軟な思考力と活用力”をもって他分野との協働により解決を目指す”コーディネート力”」を身に付け、「”情報通信技術者としての使命感と倫理観”をもって”自ら考え行動し、解決を目指す”」ことができる人材を養成することです。

理学部

理学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、理学部独自の内容を教育に生かした指導を行い「専門性に対応できる基礎力」「総合的な判断力」「協力し合って問題に対処できる能力」をもった人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、理学部では4学科に学士（理学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【数学科】

理学部数学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、現代数学の基礎を教授し、「数学に関する基礎的知識、専門性に対応できる基礎力」「数学の最新の研究動向に精通した総合的な判断力」「様々な分野において数学特有の論理的思考法で諸問題に対処できる能力」をもった人材を養成することです。

【情報数理学科】

理学部情報数理学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、高度情報化社会に対応するため、「数理科学および情報科学の基礎知識と専門性に対応できる基礎力」「数理から情報にかけて蓄えた知識を応用する力」「幅広く現象や情報を収集・解析し、人と協力して問題に対処する能力」をもった人材を養成することです。

【物理学科】

理学部物理学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、あらゆる物質、素粒子、宇宙、生命の謎に挑み、現象を支配する法則の解明のため、実験と理論の両面から学問を深め、現代物理の幅広い領域にわたる教育・研究を通して、「物理学への知的探究心」「物事の本質を知る習慣と能力」「自ら考え他者と協力する力」をもった人材を養成することです。

【化学科】

理学部化学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、化学の基礎から専門までを学び研究することを通して「知識を応用する力」「問題を解決する力」「社会で協調して生きる力」をもった人材を養成することです。

情報理工学部

情報理工学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、情報に関する幅広い基礎知識と高度な専門知識と技術を備え、現代の情報社会が抱える多様な課題を正しく理解し、それらの課題に対する解決策を的確に導き出せる創造力

及び実践力をもった人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、情報理工学部では3学科に学士（工学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【情報科学科】

情報理工学部情報科学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って普遍的な科学研究と革新的な着想を追求し、情報分野に関するグローバルな視野と新しい情報処理技術を創成する素養を持った国際社会に貢献する人材を養成することです。

【コンピュータ応用工学科】

情報理工学部コンピュータ応用工学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、これからの高度情報化社会、高福祉化社会の技術的基盤として必要とされている、実社会における機器やシステムへコンピュータを高度に応用するための知識と技術を蓄積・開発することにあります。本学科では、「コンピュータ工学」および「知能ロボティクス」の専門的な基礎知識と実践的技術の習得を目指し、グローバル化した社会での急速な技術革新に対して、自らを進歩させ柔軟に対応できる幅広い知識と応用力、リーダーの資質と英語コミュニケーション能力を養い、国際的にも活躍できるような人材を養成することです。

【情報メディア学科】

情報理工学部情報メディア学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、日々変化していく技術や新しい価値を捉える力を受容し、社会を支えていく人材を社会に排出することを目指し、「超スマート社会実現のために解決が急務の課題を発見する力」、「情報メディアに関する幅広い知識を用いてその解決方法を創造する力」、「情報メディア技術を駆使して実現、実践する力」を持ち、世界が今後直面するであろう課題を発見し解決していく力を有する人材を養成することです。

建築都市学部

建築都市学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、従来の「工学」の枠組みを越え、最新かつ高度な専門知識・技術力と、人間・社会・生活・文化・歴史に対する幅広い視野と柔軟な発想力を持ち、ソフトとハードの両面から建築・都市の未来に向けて抱える課題に対し、自ら調査・発見し、地域と協働して解決を図ることができる「柔らかな技術者」の育成を目的とします。

地域に根ざした建築・都市のあり方を、既存の建築・土木分野のみならず、社会学・経済学など文系分野の教員の参画等により多角的に学ぶことで、住環境から都市環境、地球環境まで及ぶ広い視野と高い技術力を備え、持続可能な社会システムの構築をめざすグローバルな人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、建築都市学部では2学科に学士（工学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【建築学科】

建築都市学部建築学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、技術の進歩、環境の変化、社会の変化を捉える幅広い視野と、建築学の幅広い専門性を兼ね備えた「柔らかな技術者」の育成を目指し、「建築計画」「建築工学」「地域デザイン」をカリキュラムの柱とし、文系・理系の枠にとらわれず、社会・生活の「変化を捉える力」を備え、新しい視点を持って地域と社会の発展に継続的に寄与できる人材を養成することです。

【土木工学科】

建築都市学部土木工学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、従来のライフラインの整備、国土保全、社会基盤の建設から、自然環境の保全、災害の軽減、エネルギーなど、持続可能社会の構築を視野に入れた土木工学の幅広い専門性を有し、社会経済や自然環境の変化に加え、想定外の環境変化にも対応できる柔軟性をもった人材を育成します。具体的には、「都市と防災」、「都市と環境」をカリキュラムの柱とし、身に付けた技術力をもって、地域の発展に還元することができる技術力と実行力を伴った人材を養成します。

工学部

工学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれを具現化した4つの力を踏まえ、工学に共通する基本的知識と、学科固有の専門知識に加え、世界の趨勢に目を向ける国際性および多様化する価値への寛容性をもって、世界が直面する技術的課題や現代社会が内包する社会的問題に対し、科学技術者の視点から積極的かつ創造的に取り組み、持続可能な社会の発展に寄与する志をもった人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、工学部では7学科2専攻に学士（工学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【航空宇宙学科 航空宇宙学専攻】

工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、飛行機に関わる工学やロケット・人工衛星に関わる工学に加え、宙空環境の科学を含めた学際的複合領域も学修して、幅広い知識・技術を修得するとともに、国際的センスと豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成を目指しています。近年の先端科学技術は、多くの課題が生じ困難に直面していますが、航空宇宙学専攻の目的は、学生諸君が自ら問題意識を持ち、考え、主体的に課題に取り組んでこれらの問題を解決出来る能力を持った人材を養成することです。

【航空宇宙学科 航空操縦学専攻】

工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、航空機操縦と運航に関する知識と技術を修得し、豊かな人間性と確かな操縦技倆を兼ね備えて社会の負託に応え、常に向上心を持った信頼されるプロフェッショナル・パイロットを育成することで、あわせて米国留学の機会も活用し国際性と語学力を身に着けた人材を養成することです。

【機械工学科】

工学部機械工学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、国際化が進んだ現代社会で積極的に課題解決ができ、かつ独創的な機械エンジニアを養成することであり、また、幅広く社会貢献可能な全人的教育を行うことです。さらに、アクティブラーニング科目や卒業研究などの実践的教育を通して、機械工学を学ぶ上で必要とされる基礎知識を広く修得すると共に、専門科目の学修を通して高度な専門知識を身に付け、技術者としての倫理観をもった人材を養成することです。

【機械システム工学科】

工学部機械システム工学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、加速化する高齢化社会を支えながら人と共生する機械システムを創造するために必要な専門知識を習得するとともに、機械工学とシステム工学の融合に立脚した先進的な考え方や確固たる技術者倫理観、そして人と人、人と情報を結びつけるコーディネート力を身に付け

ることで、生活の質向上に資する機械システムの在り方や社会との関わりを正しく理解し、目まぐるしく変貌する現代社会が抱える諸問題に対し技術的かつグローバルな視点より解決策を導き出すことができる人材を養成することです。

【電気電子工学科】

工学部電気電子工学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、豊かな人間性を備え、技術者としての使命を理解し、電気電子工学および情報・通信工学分野の技術を活用して、調和のとれた社会の構築に寄与できる能力を備えた人材を育成することです。また、今後ますますグローバル化が進む社会を見据え、論理的な思考によって主体的に課題の発見と解決に取り組むことができる人材を養成することです。

【医工学科】

工学部医工学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、現代の医療・福祉問題に対して、科学・技術に携わる者としての使命と社会との関係を、工学の規範に則した志をもって考える教育を行います。それを基礎として、先端医療・福祉を支え、さらに発展させるための技術・機器・システムの研究・開発、応用および工学的評価など複眼的視野から、工学分野と医学分野の確かな知識・技術を持ち、社会の変化に柔軟に対応しながら、有機的かつ継続的に問題解決に向かうことができる技術者及び臨床工学技士としての人材を養成することです。

【生物工学科】

工学部生物工学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、医薬品・食品等の人間に直に接する産業・業種において、社会に貢献できる人材を育てるとともに、関連する分野の進展に寄与することです。カリキュラムとしては、生物工学の基幹科目をベースに、有機化学や生物学の各分野を学修することで、基本的事項を習得します。その後、応用的な一連の科目で生物学の知識・技術を医薬品・食品等と関連付けて学ぶことで、社会展開に結びつける力を養います。また、習得した知識を現場で利活用できるように、安全面も含めて多様な技能を実験科目・卒業研究科目において身につけます。これらを通して、社会の求めに応じて生物学の知識・技術を提供できる人材を養成します。

【応用化学科】

工学部応用化学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、日本の基幹産業である製造業界において、化学の基礎知識や専門知識及び修得した技能に立脚して論理的判断を下すことができるような人材（技術者・研究者 etc.）を養成することです。また、グローバル化した社会において活躍しうる国際的なセンスを身につけ、高度情報化が進む科学技術を化学的かつ工学的な視点で理解し問題解決に自ら取り組めるような人材を養成することです。

医学部

医学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、“科学とヒューマニズムの融和”の精神のもとで、保健・医療の幅広い知識と確かな技能とともに豊かな人間性を有し、創造的な「生命科学研究」を実践できる人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、医学部では2学科に学士（医学・看護学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【医学科】

医学部医学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、「科学とヒュー

マニズムの融合」の精神にもとづいて、幅広い視野に立ち、広範な知識・確かな技能・豊かな創造性を持ち、社会的役割を認識し人に対する尊厳を忘れない人間性豊かな「良医」を育成するとともに、生命倫理に対する高い見識に裏付けられた、創造的かつ先進的な「生命科学研究」を実践できる人材を養成することです。

【看護学科】

医学部看護学科の教育目的は、大学・学部教育の目的に沿って、さまざまな健康レベルの人々が、あらゆる生活の場で、その人らしく過ごすことを支援する看護が実践でき、温かな人間性をもつ専門職を育成することです。そのための幅広い教養、知識、技術を持ち、人権擁護を基盤としたヒューマンケアが実践できる人材の育成を目指します。

海洋学部

海洋学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、海洋に関わる社会科学、理工学などの幅広い基礎知識と、高度な専門知識と技術をもって、地球と人類が抱える多様な諸問題に対して、海洋を通じてその全体像を正しく理解し、さらに、これらの問題に対する対処・解決の方策を導き出せる創造力及び実践力をもった人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、海洋学部では3学科2専攻に学士（海洋学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【海洋理工学科 海洋理工学専攻】

海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、海洋科学にかかわる幅広い知識と、海洋を利用するための高度な技術をもって、自然科学的な視点とともに、社会科学的な眼差しを兼ね備えた、海洋に関する諸問題の対処と解決の方策を導き出せる思考力及び実践力をもった人材を養成することです。

【海洋理工学科 航海学専攻】

海洋学部海洋理工学科航海学専攻の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、海事に関わる人文社会学、自然科学などの幅広い基礎知識と、高度な海技士としての専門知識と技術をもって、海運界、海事関連産業が抱える多様な諸問題に対して、その全体像を正しく理解し、さらに、これらの問題に対する対処・解決の方策を導き出せる海技従事者となる人材を養成することです。

【水産学科】

海洋学部水産学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、水生生物を食品の源ととらえ、その生態と生活環境、保護育成や増養殖などの水産資源に関する知識を有し、生物の多様性を維持した生物資源の持続的な利用に貢献できる知識と技術を備え、かつ食品の加工・製造、食の安全・安心に関する知識と技術を身に付けた、計画力と実践力に富み、生物と人との関わりを考慮できる社会貢献度の高い人材を養成することです。

【海洋生物学科】

海洋学部海洋生物学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、海洋生物とそれを取り巻く環境に関する正しい知識を身につけ、それを礎として海洋生物の多様性の維持と海洋環境の保全を目指すことのできる情報リテラシー能力を有し、自らの意見を持って海洋生物の有効利用への寄与と人間社会の発展に貢献し得るような社会的責任感のある人材を養成することです。

人文学部

人文学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、私たちが直面する様々な課題に立ち向かい魅力ある未来社会を創造するため、人文学の基礎的知識を修得するとともに多岐にわたる人文社会系の学問分野をつなぎあわせて、社会変化に対応していく人材を養成することです。人間社会が内包する多様な価値観や文化を相対的・総合的に理解したうえで、地域における課題の解決と新たな価値の創出に貢献し、変化する世界に柔軟に対応しうる発想力と行動力をもった人材の育成を目指します。

以上の目的を達成するために、人文学部では人文学科に学士（人文学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【人文学科】

人文学部人文学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、現代あるいは将来において生じるであろう問題や変化に対して、新しい価値観を持って対応していく人材を養成することである。人間の多様なあり方を探求する人文学の専門知識を活用して、身近な地域に存在する歴史や文化、自然を基礎に新たな価値を構築し発信する力、グローバル化や技術の進展に伴う諸問題の実態に迫りその解決法を探る思考力、変化する世界に対応したライフスタイルや社会経済活動のあり方を提案する発想力と行動力を持った人材の養成を目指す。

文理融合学部

文理融合学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、超スマート社会「Society5.0」で必要とされる、情報活用能力と、現代の複雑な問題を文系・理系の枠を超えた視点でとらえ、解決できる能力を身につけ、国連が提唱すSDGs（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）の達成が不可避となった現在の世界の課題解決や21世紀を通した社会づくりを地域の視点で研究するとともに、それを実践していく人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、文理融合学部では、経営学科、地域社会学科、人間情報工科の3学科に、学士（それぞれ、経営学、社会学、工学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【経営学科】

文理融合学部経営学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、「理論と実践」を深化させ、文理融合の学びを生かした複眼的視点から、ビジネスにおける3分野「企業経営分野」、「スポーツビジネス分野」、「アグリビジネス分野」における経営上の「新しい知」を創出していくことです。

この目的を踏まえ、経済的利益の向上だけでなく、社会的利益、環境的利益の向上を考える専門的知識と技術を身に付けた上で、地域社会だけではなく、国際社会で貢献できる人材を養成します。

【地域社会学科】

文理融合学部地域社会学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育目的に沿って、文理融合の複眼的視点を持って地域の諸問題を読み解き、「地域観光」と「心理・広報メディア」の双方から地域の活性化を継続的に推進し、近未来地域づくりを創出していくことです。

この目的を踏まえ、急速に変化している高度情報化社会において多様性とグローバル化の中にある地域社会の可能性を見出し、その継続的な活性化に向けて近未来地域づくりを

プロデュース・マネジメントしていける人材を養成します。

【人間情報工学科】

文理融合学部人間情報工学科の教育研究の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、情報技術による上質な地方社会の実現に向け、自然と調和した快適で健康的な生活環境を構築できる情報及び工学の技術者を養成することです。具体的に、地方の暮らしを文理の枠を超えて深く理解できる知識をもち、さらに、「情報工学」と「医用工学」に関する高度な専門知識と技術を備え、それらの知識と技術を活用し、自然環境に配慮しつつ、地方の暮らしに快適さと心身の健康をもたらす、工学的なシステムを構築できる人材を養成します。

農学部

農学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、食料の生産と利用、生命の仕組みの理解、生態系との調和への探究等について、それらの理論に加え、「活用する実践的技術」や「応用して問題を解決できる能力」を身に付け、地域や国内はもとより世界の持続的発展に「食の重要性」と「生命の尊さ」をもって貢献できる人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、農学部では3学科に学士（農学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【農学科】

農学部農学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、実験・実習を通じて直接植物に触れ、地域の自然や農業に接する体験型の教育を通して、「地域の持続的発展に貢献するための食料生産に関する専門的知識を実践的に身に付けていくこと」に加え、刻々と変化していく社会に対して「確固たる自然観や生命観を有し、揺るぎなく進むべき道筋を見出す創造性」、「自然環境の保全や人類の未来に対して、責任ある社会貢献を継続できる態度と能力」を身に付けた豊かな人材を養成することです。

【動物科学科】

農学部動物科学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、生産科学、動物生命科学、人と動物との共生科学に関する確かな専門知識を持ち、地域の生態系や文化を理解し、持続的かつ安全な動物生産、動物にかかわる新たな技術開発、科学的根拠に基づく人と動物との適正な関係の創出を目指して、実践的な対処・解決の方策を導き出せる力と、複眼的な視点に基づく倫理観を持って責任ある社会貢献ができる人材を養成することです。

【食生命科学科】

農学部食生命科学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、生命現象を科学的に理解し、より良い食品の創造と食を通じた健康について考える力を培うために、「食健康科学・予防医学」、「発酵・食品加工学」及び「生命科学」における専門知識と新しい技術を修得するとともに、様々な課題に対応できる解決能力と向上心や協調性を併せ持つ人材を養成することです。

国際文化学部

国際文化学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、人文科学、社会科学に関する高度な専門的知識に加え、環境適応力、人間関係構築

力、高度な外国語運用能力をもち、国籍や文化の差異を超克して良好かつ平和な人間関係を構築できる「国境なき社会人」としての資質をもった人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、国際文化学部では2学科に学士(教養学)の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【地域創造学科】

国際文化学部地域創造学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、学部が掲げるディプロマ・ポリシーである「国境なき社会人の育成」を実現するため、人間同士の結びつきが生み出す身近な社会である「地域」を基本単位として、国際的な視野から地域の発展に資する人材を養成することです。

【国際コミュニケーション学科】

国際文化学部国際コミュニケーション学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、高度な外国語運用能力を有し、貧困、環境、健康といったユニバーサルな課題に対する理解を深め、当該課題の解決に対して主体的に取り組むことができる人材を養成することです。

生物学部

生物学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、人類が培ってきた文化・文明と自然・地球環境を一体とした視野を持ち、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用を目指す行動型国際人であり、さらに地球と人類の抱える諸問題に対して、陸上と海洋のフィールドにおける理解を深め、文理融合の学際的知識と化学物質から生態系に至る専門知識・技術を主体的・複眼的に活用して、自ら課題に取り組み解決する能力をもった人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、生物学部では2学科に学士(理学)の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

【生物学科】

生物学部生物学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、分子・細胞レベルから個体群・生態系レベルに至る広範な生物学と生物に関する知識と技術を修得し、社会の中で率先して生物の持続的利用と自然環境維持に貢献できる実践力をもつ人材を養成することです。そのため、生命倫理を理解し、自然の成り立ちと人類の関わり方を考える態度の醸成を目指します。そして、実験・実習とフィールド調査等を通じて、生物の機能を総合的に解明して応用できる能力をのばします。

【海洋生物科学科】

生物学部海洋生物科学科の教育研究上の目的は、大学・学部の教育目的に沿って、海洋生物やそれを取り巻く環境に関わる知識と技術を修得し、社会の中で率先して生物の持続的利用と自然環境維持に貢献できる実践力をもつ人材を養成することです。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：各学部学科ページに記載
<https://www.u-tokai.ac.jp/education-research/undergraduate-department/>）

（概要）

文学部

【文明学科】

文学部文明学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文学）」を授与します。

『知識・理解』

人類の叡智と歴史認識とを学び、人文学の各専門分野において自らの問題意識に則して現代社会の諸問題を的確に理解する基礎能力。

『汎用的技能』

主体的に設定した専門分野の課題を論理的に分析・考察し、自らの見解を様々な表現形式を通じて積極的に発信してゆく能力。

『態度・志向性』

激しく変動する現代社会の課題と主体的に向き合い、新たな世界の構築に貢献しようとする姿勢。

【歴史学科 日本史専攻】

文学部歴史学科日本史専攻では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文学）」を授与します。

『知識・理解』

未来に向かって歴史をつくってきた先人の営みに対する共感を基礎としつつ、現代社会もそのような歴史の過程にあることを念頭におき、日本史上のさまざまな歴史事象を体系的に理解する能力。

『汎用的技能』

主体的な問題関心に基づいて、先人の営みに関する史・資料の読解、分析、考察を積み重ねることによって、自らの歴史像を構築し、その成果を適切な方法で表現する能力。

『態度・志向性』

多様な価値観をもつ人々が共存する現代社会の一員であることを自覚しながら、歴史的な視点から現代社会の課題を分析・把握して、よりよい社会の構築に積極的に取り組もうとする姿勢。

【歴史学科 西洋史専攻】

文学部歴史学科西洋史専攻では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文学）」を授与します。

『知識・理解』

未来に向かって歴史をつくってきた世界史的事象に対する理解を基礎としつつ、現代社会もそのような歴史の過程にあることを念頭におき、西洋史上の様々な歴史事象を体系的に理解する能力。

『汎用的技能』

外国語読解能力及び西洋世界における事象に関する史・資料の読解・分析と論理的な思考を、主体的な問題関心をもって鍛えかつ積み重ねることによって、自らの西洋に関する歴史像を構築し、その成果を適切な方法で表現する能力。

『態度・志向性』

多様な価値観をもつ人々が共存する現代社会の一員であることを自覚しながら、異文化への理解と歴史的な観点に立って現代社会の課題を分析・把握し、よりよい社会の構築に積極的に取り組もうとする姿勢。

【歴史学科 考古学専攻】

文学部歴史学科考古学専攻では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文学）」を授与します。

『知識・理解』

考古学を通じて身につけた歴史認識と問題意識に則し、過去はもちろん、現代社会の諸問題を的確に理解する基礎能力。

『汎用的技能』

主体的に設定した課題を論理的に分析・考察し、自らの見解を文章・図表など様々な表現形式を用いて説得力のあるものとし、積極的に発信してゆく能力。

『態度・志向性』

人類史的な視野に立って、激しく変動する現代社会の課題と主体的に向き合い、平和な未来の構築に貢献しようとする姿勢。

【日本文学科】

文学部日本文学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文学）」を授与します。

『知識・理解』

人類の叡智と歴史認識とを学び、人文学の各専門分野において自らの問題意識に則して現代社会の諸問題を的確に理解する基礎能力。特に日本語・日本文学の分野において、充実した知識と理解に関する能力。

『汎用的技能』

主体的に設定した専門分野の課題を論理的に分析・考察し、自らの見解を様々な表現形式を通じて積極的に発信してゆく能力。特に日本語・日本文学の分野において、すぐれた言語活動によって、研究成果を発信できる能力。

『態度・志向性』

激しく変動する現代社会の課題と主体的に向き合い、新たな世界の構築に貢献しようとする姿勢。特に日本文化について鋭い洞察力を有し、現代社会・世界の問題について幅広く考えることができる姿勢。

【英語文化コミュニケーション学科】

文学部英語文化コミュニケーション学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文学）」を授与します。

『知識・理解』

英米文化を含め、世界に存在する様々な文化についての知識と教養を身につけ、グローバル化の進む社会にて円滑なコミュニケーションを行うことができる基礎力。

『汎用的技能』

論理的に物事を考えて分析し、自らの見解を効果的に発表できる表現力。

『態度・志向性』

知的好奇心を持ち、多様な価値観や文化を理解・尊重し、コミュニケーションを通じて他者との良好な関係性を構築・維持しながら協働、共存していこうとする態度。

文化社会学部

【アジア学科】

文化社会学部アジア学科では、以下の能力を備えたと認められる者に「学位（文化社会学）」を授与します。

『知識・理解』

アジアの歴史、文化、社会についての学びを通して、中長期的な展望に立ってものごとを考え、異文化と向き合っていくための基礎的な能力。具体的には、アジアに関する地理的歴史的知識、アジアの文化や社会に対する洞察力、そして異文化コミュニケーションの

基礎となる語学力。

『汎用的技能』

情報を的確に収集し理解を深めていく＜知る力＞。

複雑にして困難な状況に対しても深い思考をめぐらせることのできる力。

グローバル化が進展するなか多様性に満ちあふれたアジアを舞台に＜行動していく力＞。

豊かな言語能力で国際的な相互理解を深められる力。

『態度・志向性』

過去に学び予測不能な時代を楽しもうとする態度、現代の課題に自ら取り組み、自分自身の意見をしっかり持つとともに、多様な人々と協力して世界に貢献しようとする姿勢。

【ヨーロッパ・アメリカ学科】

文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文化社会学）」を授与します。

『知識・理解』

ヨーロッパとアメリカの社会的・文化的・歴史的な知識を身につけ、その知的伝統を読み解き、分析するための基本的な力。

『汎用的技能』

異なった価値観をもつ他者の意見に耳をかたむけ、考察すべき問題の所在を的確に掴み、解決までのプロセスを実践する能力。

『態度・志向性』

さまざまな情報やものごとを批判的にまなざし、何よりも自分自身の思考によって問題の解決を模索し、共存や共生の道を探る姿勢。

【北欧学科】

文化社会学部北欧学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文化社会学）」を授与します。

『知識・理解』

北欧社会の先進的な取り組みや文化の特質を学び、その根幹にある多様な価値観や独自の理念を体系的に理解する能力。

『汎用的技能』

北欧言語の学習や留学・海外研修などの現地体験を通じて習得したコミュニケーション能力を活用し、自らの考えを積極的に発信していく能力。

『態度・志向性』

社会的責任を自覚しつつ個人として自立した生き方を構想し、さらに日本社会が抱える課題の克服に向け積極的に取り組もうとする姿勢。

【文芸創作学科】

文化社会学部文芸創作学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文化社会学）」を授与します。

『知識・理解』

文芸の創作と批評を通じ、人間と世界に関する事象や情報を柔軟に、またクリティカルに読み取り、分析し、問いを立てる力。

『汎用的技能』

文芸の創作と批評を通じ、現代社会に通用する正確な言葉によって自分の思考や感性を論理的かつクリエイティブに表現する力。

『態度・志向性』

広く諸芸術を鑑賞し、文芸の創作と批評を通じて培った教養を未来に向かって総合的に生かしてゆく姿勢。

【広報メディア学科】

文化社会学部広報メディア学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文化社会学）」を授与します。

『知識・理解』

メディアに関する理論的・歴史的・制度的な研究成果を土台として、メッセージの社会的価値（政治的・経済的・文化的価値など）とは何かを理解する力。

『汎用的技能』

各メディアに関する基本的なルールと実践的技術を身につけ、「情報」を付加価値の高い「メッセージ」に変える能力。

『態度・志向性』

現代社会を構成する人々の多様性を理解し、未来のメディアやコミュニケーションの仕事を開拓していこうとする姿勢。

【心理・社会学科】

文化社会学部心理・社会学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（文化社会学）」を授与します。

『知識・理解』

現代社会の仕組みとそこで生きる人間の課題を学び、そこでの課題解決に向けて、心理学・社会心理学・社会学等の各専門分野について自らの問題意識に即して理解する基礎的能力。

『汎用的技能』

現代社会と人間の課題について、豊かな感受性と論理的な思考によって考察し、他者との関係を築きながら、様々な表現形式を通じて発信して、積極的に課題解決を行っていく能力。

『態度・志向性』

上記の二つの能力を発揮して、激しく変動する現代社会と人間の課題に主体的に取り組み、多様性を受容しながら、共生という社会関係の構築に積極的に貢献しようとする姿勢と行動力。

教養学部

【人間環境学科】

教養学部人間環境学科では、以下の能力を備えたと認められる者に「学士（教養学）」を授与します。

『知識・理解』

人間を取り巻く環境に対して自然科学・社会科学・人文科学の視点から基本的内容を理解し、持続可能な社会の実現に向け、広範な知識を有する。

『汎用性技能』

演習や実験に基づく実体験を通して獲得した知識や経験を活かし、持続可能な社会を実現するための問題解決能力を見出す能力を有する。

『態度・志向性』

異なる科学分野の複眼的な視点から知識や経験を蓄積するとともに、持続可能な社会の実現に向けて自ら考え行動する力を有する。

【芸術学科】

教養学部芸術学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（教養学）」を授与します。

『知識・理解』

人文・社会・自然科学に関わる広い視野からの、芸術に関する知識と理解。

『汎用的技能』

変化する現代社会の状況を理解し、修得した芸術の技能を柔軟に活かす能力。

『態度・志向性』

問題発見・解決に向けた社会的役割を自覚し、音楽・美術・デザイン等の専門領域を統合し、創造的な場面において積極的に行動しようとする姿勢。

児童教育学部

【児童教育学科】

児童教育学部児童教育学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（児童教育学）」を授与します。

『知識・理解』

子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割を理解するとともに、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を有している。

『汎用的技能』

個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉えるとともに、適切な教育・保育を構想し、それを実践することができる。

『態度・志向性』

子どもを取り巻く課題に他者と協働して取り組み、新たな価値を創出することで、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献することができる。

体育学部

【体育学科】

体育学部体育学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（体育学）」を授与します。

『知識・理解』

体育・スポーツ科学に関する基礎的・専門的知識やその指導力を有すると共に、論理的な思考・判断によって問題の所在や問題の解決方法が見いだせる能力を有する。

『汎用的技能』

体育・スポーツ科学の方法論や実践的経験を活かし、学校・企業・地域社会などあらゆる場面において対象や場に応じた適切な判断・指導・行動のできる能力を有する。

『態度・志向性』

体育・スポーツ文化の指導的後継者として学ぶ意欲を持ち続け、また、倫理感や社会的責任感を持って積極的に社会貢献ができる能力を有する。

【競技スポーツ学科】

体育学部競技スポーツ学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（体育学）」を授与します。

『知識・理解』

体育・スポーツ科学の基礎知識を理解し、アスリート、コーチ、トレーナーとしての高度で専門的な知識を有する。

『汎用的技能』

“実戦”重視の教育から身につけた理論と実践方法を用い、アスリート、コーチ、トレーナーの各分野での問題解決策を見出す能力を有する。

『態度・志向性』

アスリート、コーチ、トレーナーの使命を理解し、活動を通して社会に貢献しようとする意欲と能力を有する。

【武道学科】

体育学部武道学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（体育学）」

を授与します。

『知識・理解』

体育・スポーツ科学、武道についての専門的知識を有し、かつ、問題の所在や問題解決の方策を探るために必要な理解力や思考・判断力を有している。

『汎用的技能』

社会の変化に対応しつつ、武道の伝統を尊重し、広く国際的な発展に貢献しうる身体・精神・技能を有している。

『態度・志向性』

武道に関心を持って学び続け、礼法を守り武道の精神を社会に活かしていくことができる。

【生涯スポーツ学科】

体育学部生涯スポーツ学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（体育学）」を授与します。

『知識・理解』

生涯スポーツとその周辺領域に関する基礎的な知識と技能を有し、人文・社会・自然科学的視座に立った幅広い知識と情報を活用しながら問題の発見と解決に必要な能力を有する。

『汎用的技能』

生涯スポーツのみならず、人々の身体・心理・社会的な健康と生活の質（ＱＯＬ）に関わる広汎な分野で活用可能な適応能力を有する。

『態度・志向性』

生涯スポーツの指導者となることに意欲と関心を持ちながら、「人」と「環境」の関係を深く理解し、優れたコミュニケーション能力を発揮して生涯スポーツの発展と啓発に貢献できる能力を有する。

【スポーツ・レジャーマネジメント学科】

体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（体育学）」を授与します。

『知識・理解』

人間の文化としてのスポーツ&レジャーおよびマネジメントに関する形式知と、国際感覚を備えた実践的な身体知を有する。

『汎用的技能』

スポーツ&レジャーを通じた社会課題の解決や新たな価値を創造するための科学的・実践的技能を有する。

『態度・志向性』

スポーツ&レジャーという世界共通の文化を学び続け、人間の幸福やゆとり、クオリティー・オブ・ライフを構築し続けようとする思想を有する。

健康学部

【健康マネジメント学科】

健康学部健康マネジメント学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（健康マネジメント学）」を授与します。

『知識・理解』

健康を多角的に捉える知識・技術とデータ分析・コミュニケーションの方法を活用し、未来の健康社会の実現に必要な実践的な能力を有している。

『汎用的技能』

健康をマネジメントするために、多角的な知識・技術・方法を活用し、連携と協働ができるネットワークを築き、創造的な解決策を見いだすことができる。

『態度・志向性』

誰もが自分らしく過ごすことができる未来の健康社会の実現に向け、積極的に協力することができる。

法学部

【法律学科】

法学部法律学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（法学）」を授与します。

『知識・理解』

法学についての知識、時代の変化に対応する法の役割を理解・表現する基礎能力。

『汎用的技能』

社会的諸問題を法的に分析し、解決方法を構築・提示・説明することのできる基礎的な法的技能。

『態度・志向性』

人間の尊厳と人権の尊重を基調とする現代の社会において、平和を希求し、責任ある行動をし、ジェンダー・障がい者差別等のないインクルーシブかつ平等な社会を志向することのできる自立力。

政治経済学部

【政治学科】

政治経済学部政治学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（政治学）」を授与します。

『知識・理解』

政治学・行政学・国際政治学の知識を活用し、政治現象を制度と現実の両面から理論的に考える能力。

『汎用的技能』

国内外の政治・行政の現象を客観的かつ多面的に分析し、政治・行政・国際政治の制度と政策を分析する能力。

『態度・志向性』

グローバル社会において創意をもって現実の諸問題に取り組み、スペシャリストとして問題解決策を提案する能力。

【経済学科】

政治経済学部経済学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（経済学）」を授与します。

『知識・理解』

経済現象を理論的に理解し分析することができる。

『汎用的技能』

経済現象をデータに基づき解析することができる。

『態度・志向性』

経済問題に対して積極的に改善策を提言することができる。

経営学部

【経営学科】

経営学部経営学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（経営学）」を

授与する。

『知識・理解』

経営学の「戦略・組織」、「マーケティング」、「アカウンティング&ファイナンス」、「マネジメントシステム」、「データ分析」についての専門知識および理論の習得・理解。

『汎用的技能』

経営学およびデータ分析に関連する専門知識や理論を土台に、経営の諸課題を見出す力、解決の道筋を繰り返して思考する態度と解決に向けて行動する力、そして多様な変化に対応するために、既成概念にとらわれずに課題解決に向けたプロセスの設計を行うデザイン思考力。

『態度・志向性』

グローバル、すなわち俯瞰的、国際的、複眼的な視点からビジネス活動に参画できる能力と、既成概念にとらわれず問題解決に向けて強い意志をもって行動していく姿勢。

国際学部

【国際学科】

国際学部国際学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（国際学）」を授与します。

『知識・理解』

現代の国際的・社会的諸問題について詳しく学び、国際学・グローバル・スタディーズの基本的な学識を身に付け、地球規模の多様な課題を理解することができる。

『汎用的技能』

地球規模の課題を理解するための情報収集力と社会科学の分析手法を習得し、現代世界の政治・経済・社会・文化的背景を理解して論理的に分析するスキルを身につけている。また、グローバル社会で多様な人々と言語・文化の違いを超えて協働するためのコミュニケーション力を有している。

『態度・志向性』

グローバル市民としての自覚をもち、地域社会から国際社会に至るさまざまなレベルの課題に対して、高い倫理観をもって多様な人々と協力しながら積極的かつ主体的に解決しようとする姿勢を身につけている。

観光学部

【観光学科】

観光学部観光学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（観光学）」を授与します。

『知識・理解』

文化・社会・自然の多様性ならびに観光に関する体系的かつ広範な知識を有し、それらを実践的に応用できること。

『汎用的技能』

コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力などの基本的技能を身につけ、観光・サービス産業の場でさまざまな問題の解決に役立てることができること。

『態度・志向性』

現代のグローバルな状況に対応できるよう、自己管理能力、協調性、社会的責任感をもち、観光・サービス産業の発展に寄与することができること。

情報通信学部

【情報通信学科】

情報通信学部情報通信学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（情報通信学）」を授与します。

『知識・理解』

高度情報化社会が要求する情報通信の多様な先端技術に柔軟に対応できる基礎・専門知識。

『汎用的技能』

グローバル社会の中で活躍できる語学力と、多様化する価値観を受容できるコミュニケーション力を持ち、先端的情報通信技術を活用して、社会に生じる様々な問題に対して他分野との協働により解決を目指すことができる“コーディネート力”と実践的専門能力。

『態度・志向性』

高度情報化社会のあり方を総合的に把握し、情報通信技術者としての使命感、責任感、倫理観をもって、自ら考え行動し、解決を目指す。

理学部

【数学科】

理学部数学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（理学）」を授与します。

『知識・理解』

数学に関する基礎的知識、専門性に対応できる基礎力を有している。

『汎用的技能』

数学の最新の研究動向に精通し、数学を含めた科学、さらに理学を含めた文化を理解できる総合的な判断力を有している。

『態度・志向性』

自由な精神のもとに数学に対する研究心を持ち続け、現代社会の様々な分野において数学特有の論理的思考法で諸問題に対処できる能力を有している。

【情報数理学科】

理学部情報数理学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（理学）」を授与します。

『知識・理解』

数学と情報に関する基礎知識、専門性に対応できる基礎力を有している。

『汎用的技能』

数理と情報についてのセンスを身に着け、蓄えた知識を応用することのできる能力を有している。

『態度・志向性』

現実世界の様々な現象や情報を幅広く収集・解析し、人と協力して問題に対処する能力を有している。

【物理学科】

理学部物理学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（理学）」を授与します。

『知識・理解』

物理学への知的探究心を持ち、多種多様な自然現象の源である物理法則を理解する基礎力を有している。

『汎用的技能』

物事の本質を知る習慣と能力を身に付け、先端科学・技術につながる科学的かつ総合的思考力を有している。

『態度・志向性』

自ら考える力を持ち、他者と協力しながら地道に問題を解決していく力を有している。

【化学科】

理学部化学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（理学）」を授与します。

『知識・理解』

学んだ化学の知識を、物事に対する観察や洞察へ応用する力を有していること。専門的な内容の日本語や英語の教科書や文献を読んで理解し、得られた知識や理解を自らの行動計画に取り入れていくことができること。

『汎用的技能』

化学を通して問題を発見し、解決する力を有していること。実験などを通じて種々の技能を身につけ、現実の問題を解決する際に役立てることができること。

『態度・志向性』

自らの意見をまとめ、相手の意見を聞き、社会で協調して生きる力を有していること。卒業研究を継続して行い、得られた結果を文書などの形式でまとめて発表できる力を有していること。

情報理工学部

【情報科学科】

情報理工学部情報科学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

理学と工学の両面から情報に関する幅広い基礎知識と人工知能、計算科学、数理工学、情報計測・可視化等に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有している。

『汎用的技能』

情報分野の技術を応用し、時代の多様なニーズに対して理学および工学的な立場から解決策を見出すことができる。

『態度・志向性』

情報技術者のモラルと使命を理解し、情報分野の理学および工学的な発展に寄与し、社会に貢献することができる。

【コンピュータ応用工学科】

情報理工学部コンピュータ応用工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

情報に関する幅広い基礎知識と「コンピュータ工学」、「知能ロボティクス」に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有する。

『汎用的技能』

情報分野に関するソフトウェアおよびハードウェア技術を応用し、時代の多様なニーズに対して情報工学的な解決策を見出すことができる。

『態度・志向性』

情報技術者のモラルと使命を理解して、情報分野におけるソフトウェアおよびハードウェア技術の発展に寄与し、社会に貢献することができる。

【情報メディア学科】

情報理工学部情報メディア学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士

(工学)」を授与する。

『知識・理解』

情報に関する幅広い基礎知識と「メディアコンテンツ」、「メディアコミュニケーション」に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有する。

『汎用的技能』

情報メディアに関する技術を応用し、時代の多様なニーズに対応して、問題を発見し、解決策を見出すことができる。

『態度・志向性』

情報技術者として、創造力・実践力・適応力を備え、モラルと使命を理解し、情報メディア分野の発展に寄与して社会に貢献することができる。

建築都市学部

【建築学科】

建築都市学部建築学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

都市・建築空間創出のための「建築計画」「建築工学」「地域デザイン」に関する3つの専門知識。

『汎用的技能』

3つの専門力「建築計画」「建築工学」「地域デザイン」を基盤として様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していくための汎用的技能。

『態度・志向性』

文系・理系の枠にとらわれず、新しい視点を持って地域と社会の発展に継続的に寄与しようとする態度。

【土木工学科】

建築都市学部土木工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

幅広い教養を身に付け、社会や自然における土木技術の役割をしっかりと理解し、土木工学分野の基礎知識を持つと共に、専門分野の土木技術の知識と技術を持つこと。

『汎用的技能』

土木工学の専門知識と専門的技術を活用し、都市が抱える諸課題に対して土木技術者として挑戦する実践力を持つこと。

『態度・志向性』

土木技術を駆使した安心安全で豊かな国土を創造し、持続可能な都市の実現のあり方を自ら考えるとともに、身に付けた技術力をもって、地域の発展に還元する姿勢を持つこと。

工学部

【航空宇宙学科 航空宇宙学専攻】

工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

飛行機に関わる工学やロケット・人工衛星に関わる工学に加え、飛行機やロケット・人工衛星等が活躍する場となる空や宇宙の環境を含めた学際的複合領域も学修して、幅広い知識と技術を持つこと。

『汎用的技能』

近年の科学技術が直面する多くの課題に対し、「ものづくり」「ICTの活用」「英語」などの幅広い基礎的な知識と技術を応用して解決に導く実践力を持つこと。

『態度・志向性』

国際的センスと豊かな人間性を兼ね備え、自ら問題意識を持って学び続け、考え、主体的に課題に取り組む姿勢を持つこと。

【航空宇宙学科 航空操縦学専攻】

工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

航空機操縦と運航に関する知識と技術の修得および応用力、ならびに英語力。

『汎用的技能』

新しい技術・変わりゆく環境に、自ら積極的に思考し、対応していく力。

『態度・志向性』

社会の負託に応える使命感と信頼される人間性。

【機械工学科】

工学部機械工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

機械工学を学ぶ上で必要とされる幅広い基礎知識と技術を持つと共に、素材から応用に至るまで機械工学全般に関わる専門知識と技術を持つこと。

『汎用的技能』

機械工学全般に関わる専門知識とアクティブラーニング科目や卒業研究などの実践的教育を通して修得した実践力を活用し、自ら積極的に課題解決できる力を持つこと。

『態度・志向性』

技術者としての倫理感を持ち、機械工学に関連した基礎知識とその応用力・実行力を基に、国際的な視点から継続的に新しいものづくりに貢献する意識を持ち続けること。

【機械システム工学科】

工学部機械システム工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

機械システム工学の基礎知識を持つと共に、それらの知識をロボットやモビリティといった具体的な機械システムの創造に向けて適用・展開する応用力を持つこと。

『汎用的技能』

解決しようとする問題の本質を正しく理解し、問題解決に向けた道筋を描くと共に必要な実験手段・方法を選択し、得られた結果に対する解析・考察を与え、さらには結果を他者に伝達するための発信力を持つこと。

『態度・志向性』

多様な価値観や文化的背景を持つ人々と効果的に協働していくために必要な寛容性、積極性、倫理観および語学力、そして今見える未来ではなく、その先の更なる未来を思い描く探究心を持つこと。

【電気電子工学科】

工学部電気電子工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

電気電子工学及び情報・通信工学の基本的な知識を体系的に理解するとともに、文理融合の教養を身に付け、これらの横断的な知識を社会の発展に役立てることができる。

『汎用的技能』

問題解明のために能動的に調査や実験等を実施し、得られた情報やデータを多面的かつ論理的、定量的に分析でき、その結果を説明することができる。また、その過程で見出した課題を解決するために、主体的に方策を立案し、提示することができる。

『態度・志向性』

社会の一員としての倫理観を身に付け、客観的事実やデータ等に基づいて自分の考えや意見を述べるができる。また、他者の意見に耳を傾け、他者と協働して目標に向かって踏み出すことができる。

【医工学科】

工学部医工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

先端医療技術・医療・福祉機器・医用・福祉用システムの仕組みや生体機能・生体情報の工学的評価法を理解し、応用できる基礎学力。

『汎用的技能』

医療技術、医療機器・システムの技術進歩、および生体医工学の発展に対応できる柔軟な力。

『態度・志向性』

工学の規範に即した志と倫理観を有し、確かな専門知識・技術をもって、社会の変化に柔軟に対応しながら、問題解決に向かうことができる。また、チーム医療に必要な、人と人との円滑な関係を構築できるコミュニケーション力や相手の考え方を理解、尊重し、また自分の考え方を適切に伝えようとする態度。

【生物工学科】

工学部生物工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

工学・生物工学の基礎知識および医薬科学・応用生物工学の専門知識。

『汎用的技能』

実験科目・卒業研究科目等の学びを通して修得される生物関連技術・技能を実践する能力。

『態度・志向性』

生物工学の知識と技能を総合的に活用し、工学の規範に則り、課題を発見・解決して社会へ貢献できる姿勢。

【応用化学科】

工学部応用化学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

社会の発展とグローバル化する社会情勢に対応しうる教養と知識を身につけ、多様化する科学技術を自らが培った化学的知識を駆使し理解できること。

『汎用的技能』

産業界で活躍できる化学技術者として必要な技能を修得し、多様な諸問題を解決しうる能力とスキルを持つこと。

『態度・志向性』

グローバルな視点に立脚して、修得した化学的知識や技能を社会および人類の発展や問題解決に活用し、さらに必要な知識や技能を継続して研鑽し獲得する態度を持つこと。

医学部

【医学科】

医学部医学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（医学）」を授与します。

『知識・理解』

人を思いやり倫理意識や社会的な役割を自覚したうえで、生命科学についての基礎知識、時代の変化に対応する応用技術を理解・表現できる。

『汎用的技能』

仮説を実証する実験・研究能力、病気の診断・治療につながる臨床能力を備え、時代に即した医学的対応策を見出すことができる。

『態度・志向性』

医師のモラルと使命を理解し、患者の心を理解できる力、医学の進むべき方向性を国際レベルで認識することができる。

【看護学科】

医学部看護学科では、大学・学部の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（看護学）」を授与します。

『知識・理解』

人間、健康、地域・社会、環境、生活、看護に関する専門的知識の理解ができる。

『汎用的技能』

コミュニケーション能力、問題解決能力を基盤とし、対象に適した看護実践上必要なスキルを提供することができる。

『態度・志向性』

「その人らしい健康な生活を支援する看護」を実践するために、自ら学び、国内外で貢献しようとする力を有している。

海洋学部

【海洋理工学科 海洋理工学専攻】

海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（海洋学）」を授与します。

『知識・理解』

人と海の関わりを理解するとともに、持続的な海洋の利用に関する科学的な知識と技術を有することで、海洋環境の諸問題が自らを取り巻く社会状況と関連付けて具体的に理解できる。

『汎用的技能』

海洋に関する知識・技術に精通し、人と海とが調和する社会を構築するための取り組みや政策の理解を通して、論理的な思考力を持って具体的な問題に対処し解決の方策を導き出せる。

『態度・志向性』

海洋に関する幅広い知識や技術を基盤とし、人と海とが共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材として、主体的に問題を発見し、対処し、解決の方策を導き出す力を有する。

【海洋理工学科 航海学専攻】

海洋学部海洋理工学科航海学専攻では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（海洋学）」を授与します。

『知識・理解』

海（自然現象、気象、海象など）に関する科学的な基礎知識と、船を運航・管理するために必要な海事に関する基礎知識を併せ持ち、さらに海技士としての専門分野での応用的

知識を有している。

『汎用的技能』

海技従事者としての専門分野における最新の知識・技術に精通することを通して、具体的な問題に対する対処・解決の方策を導き出せる。

『態度・志向性』

海運界や海事関連産業で海技従事者として活躍するために必要となる国際感覚を備えたリーダーシップを発揮できる力を有している。

【水産学科】

海洋学部水産学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（海洋学）」を授与します。

世界の漁業と養殖業を合わせた生産量は2019年に2.1億トンを超えました。このうち、漁業生産量は横ばい傾向であるのに対し、養殖生産量は急激に増加しており、その割合は全体の56%に達しています。また、漁業の対象となる水産資源のうち、持続可能な資源は66%に留まり34%は過剰利用または枯渇状態となっています。周りを海に囲まれた我が国にとって、水産資源は極めて重要な食糧資源です。したがって、厳しい国際情勢に対応していくためには、最先端の養殖と資源管理技術を持ち、限りある水産資源を持続的に利用していくことが不可欠となっています。

このような時代のニーズに応えるため、海洋学部水産学科では、水産資源の利活用を学ぶ食品科学コースと、水産生物の生態や増養殖を学ぶ生物生産科学コースの2コースを設けています。両コース共通の水産基礎教育を通じて水産に関する幅広い知識を身につけさせ、そして各々のコースで展開する専門分野の教育を通じて応用知識と技術を習得させます。具体的には、国や自治体の水産技術職員、水産をはじめとする食品メーカーの研究開発職員、後進育成を担う中学・高校教員など、水産業界や学校教育の場で活躍できる人材の育成を目標とします。大学・学部の学位授与方針に従い、以下の能力を備えたと認められるものに学位を授与します。

『知識・理解』

水産全般にわたる科学的な基礎知識を基盤とし、水産資源を含む海洋資源の保全と、その持続可能な形での利用（SDGs14）のため、以下①～⑤に示す、水産資源の保全・増養殖から食品等への利活用に至る先端的な知識や技術を有する。

- ① プランクトンやサンゴなど海洋生態系の基盤を成す生物群と水産資源の関連性。
- ② 希少生物や深海生物を含む水産資源とその増養殖。
- ③ 水産資源枯渇問題などを解決するための環境保全対策。
- ④ 未利用魚を含む水産資源に含まれる成分の食品や医薬品等への利活用。
- ⑤ HACCPに基づく安全安心な食品製造・開発と美味しさや品質保持。

『汎用的技能』

水産基礎・応用教育を通じて様々な知識を修得し、その体现である実験や実習、卒業研究を介してデータ解析力、課題解決力、プレゼンテーション能力、チームで働く力を高め、実社会で普遍的に活用できる論理的な思考力と実践力を有する。

『態度・志向性』

様々な情報を元に状況を把握し、その分析によって適切な目標を設定して具体的計画を立案する能力、チームワークを駆使して目標を成し遂げる力、倫理観を有し、市民として社会の発展のために寄与できる力を有する。

【海洋生物学科】

海洋学部海洋生物学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（海洋学）」を授与します。

『知識・理解』

多様で多彩な海洋生物とそれらを取り巻く環境について正しい知識と深い理解を有する。

『汎用的技能』

我々が直面する局地的あるいは地球的規模の生物多様性の危機や環境問題の解決に取り組むことができ、広く社会に貢献するための情報リテラシー能力（知る・書く・伝える力）を有する。

『態度・志向性』

幅広い視野で物事を理解し、知識と経験を活用することによって多種多様な海の生き物と人間との共生を目指し、積極的に新しい知識を吸収し、将来を見据えて社会のために貢献する社会的責任感を有する。

人文学部

【人文学科】

人文学部人文学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（人文学）」を授与します。

『知識・理解』

人文学の基礎知識を理解するとともに、現代文明の持つ問題について、自らを取り巻く社会的状況と関連づけて具体的に理解できる。

『汎用的技能』

人文学の本質を踏まえた上で、社会における多様な取り組みを理解、分析することを通して論理的思考力及び問題の発見と実践的な対処・解決の方策を導き出すことができる。

『態度・志向性』

人文学の学びで培った発想力を基盤にして、各個人が社会の一員として、自らの役割と責務を全うする社会的責任感をもって行動にうつすことができる。

文理融合学部

【経営学科】

文理融合学部経営学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（経営学）」を授与します。

『知識・理解』

グローバルな競争の中で、社会面と環境面に配慮しながら、経営組織及び経営戦略に関わる経営学的知識・ツールを獲得することによって、組織及び個人が勝ち抜く能力を有する。

『汎用的技能』

経営学的思考方法を学び、経営学、情報等のツールを身に付けることによって、ビジネスプランを作成し実行できる能力を有する。

『態度・志向性』

文理融合的な複眼的視点で、能動的・主体的に自ら経営手法を考え、他者と協働する能力を身に付けながら、経営目標達成のために果敢に取り組む力を有する。

【地域社会学科】

文理融合学部地域社会学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（社会学）」を授与します。

『知識・理解』

地域社会の構造と諸問題を理解し、地域観光、心理・広報メディアの分野及びグローバルな観点からの広範な知識を有する。

『汎用的技能』

専門分野における最新の知識と技能に精通し、「高度情報化社会における持続可能な近未来 地域づくり」の構築に向けて具体的な問題解決策を見出す能力を有する。

『態度・志向性』

高度情報化社会における最新動向や地域社会の動きに敏感に反応し、地域づくりに主体的に参画・貢献していこうとする姿勢を有する。

【人間情報工学科】

文理融合学部人間情報工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

『知識・理解』

情報工学・医用工学分野における専門知識と幅広い視野をもち、生活に快適さを与え、健康の維持・増進に寄与する応用技術について理解できる能力。

『汎用的技能』

情報工学・医用工学分野の技術の動向に精通し、暮らしと健康に関する諸問題に対して新技術を用いて解決する能力。

『態度・志向性』

技術者としての倫理観と使命感をもち、自然環境と調和した、安全・安心な超高度情報化社会の実現に貢献しようとする姿勢。

農学部

【農学科】

農学部農学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（農学）」を授与します。

『知識・理解』

確固たる自然観・生命観を基に、食料生産を向上させるために必要とされる、作物の特徴や栽培管理について幅広い知識を持っている。さらに、天敵昆虫等の有用生物も活用した有機農業や環境保全型農業等、環境に大きな負荷をかけない農業の特徴や課題を学び、持続可能な農業の必要性について理解する。

『汎用的技能』

地球規模での食料危機や生物多様性の喪失に対応するために、環境ストレスに対する作物反応の解明と得られた知見の活用、未利用生物資源の探索とその有効活用、バイオテクノロジーやDNA分析を活用した品種改良等、先端技術を応用し、農業をとりまく諸問題に対して実践的な対処・解決の方策を導き出せる。

『態度・志向性』

複眼的な視点を持ち、人間社会とそれを取り巻く自然の役割や植物の持つ多様な価値を深く理解し、自らの考えと創造性を持って、自然環境の保全や人類の未来に関して、国際的視野を持った責任ある社会貢献を継続できる。

【動物科学科】

農学部動物科学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（農学）」を授与します。

『知識・理解』

動物生産から畜産物加工利用までの一連の過程、最新の動物生命科学、人と動物との関係に関するそれぞれの科学的基礎知識を持ち、地域の生態系や文化を理解し、さらに専門分野における応用的知識を有している。

『汎用的技能』

持続的かつ安全な動物生産、動物にかかわる新たな技術開発、科学的根拠に基づく人と動物との適正な関係の創出等、動物に関する様々な問題に対する実践的な対処・解決の方策を導き出せる。

『態度・志向性』

文理融合的な柔軟で幅広い視野で社会を理解し、自らの意見を持って、特に動物生産、動物生命科学、自然環境の保全や人と動物の関係等の分野で責任ある社会貢献ができる。

【食生命科学科】

農学部食生命科学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（農学）」を授与します。

『知識・理解』

生物の特性、生体成分の構造と機能、並びに食品が持つ有効かつ複雑な生理機能について化学的及び生物学的観点から科学的に理解している。さらにそれらの内容を生命現象の解明や健康と食品に関する専門分野で総合的に応用できる知識を有している。

『汎用的技能』

生物生産や生物機能を活用する生産関連産業、食品産業、医薬関連産業及びそれらに関連した研究・開発、検査・分析等の分野において諸問題に対する方策をもって実践的に活躍できる。

『態度・志向性』

文理融合的な柔軟で幅広い視野で社会を理解し、自らの意見をもって、特に生物生産から食品へ、食品から人類の健康へといった食と健康の分野で責任ある社会貢献ができる。

国際文化学部

【地域創造学科】

国際文化学部地域創造学科では、大学・学部の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（教養学）」を授与します。

『知識・理解』

地域社会・経済、健康スポーツ及び地域とデザインの関わりについての基礎知識、理論的な体系を現場での経験を通じて実践的に理解できる能力がある。

『汎用的技能』

専門的な知識を理解し、物事を適切に処理できるマネジメント能力を修得することにより、実際に身近な地域社会で生じている問題に対する解決策を見出すことができる。

『態度・志向性』

個人としてではなく、リーダーを務められるだけの責任感、協調性、正義感を備え、地域社会に貢献する志を有する。

【国際コミュニケーション学科】

国際文化学部国際コミュニケーション学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（教養学）」を授与します。

『知識・理解』

英語やそれ以外の外国語の高い運用能力を身に付け、世界情勢に関する知識を蓄えて、国際社会で生じている課題に対する理解を深めることができる。

『汎用的技能』

国際的なコミュニケーション能力を発揮して、国際社会の中であらゆる環境に適応し、国境を超えて良好な人間関係を構築でき、国際社会の課題解決に関われる力がある。

『態度・志向性』

身に付けた外国語を何に対して活かすのかを常に考え、文化や価値観といった差異を受容できる「寛容性」が身に付いている。

生物学部

【生物学科】

生物学部生物学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（理学）」を授与します。

『知識・理解』

生物学の基礎知識を持ち、自然・環境・生命のあり方を総合的に理解・表現する能力を有している。個別分野の知識レベルとして、バイオ技術者認定試験、生物分類技能検定、自然再生士補などの資格・検定を取得できる能力を有している。

『汎用的技能』

生物に関する実験やフィールド観察での発見を分析し、説明し、生活や産業活動に応用できる。

『態度・志向性』

生物に関する知識と利用・応用技術を十分に修得し、社会の中で率先して生物の持続的利用と自然環境維持に貢献できる。

【海洋生物科学科】

生物学部海洋生物科学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（理学）」を授与します。

『知識・理解』

海洋の生物やそれを取り巻く環境、生態系に関する文理融合的な広い視野を基礎として、各専門分野における専門知識と技術を理解・表現する力を有している。

『汎用的技能』

海洋環境や生態系、水産科学分野における最新の知識・技術を応用し、具体的な問題に自ら対応できる力を有している。

『態度・志向性』

海洋生物を中心とする生命倫理と生物多様性そして生物資源の重要性を理解して、生物科学の応用によって社会に貢献しようとする姿勢を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：各学部学科ページに記載

<https://www.u-tokai.ac.jp/education-research/undergraduate-department/>)

（概要）

文学部

【文明学科】

文学部文明学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

文明学科では、まず、東西の哲学・思想についての基礎的な素養の体得を目指す。哲学・思想の学習では、何が語られているのかを読み取ることが大事であるが、なぜこの言葉（概念）で表現されなければならないのかを突き止めることが一層重要である。授業では、まず初年次教育科目である「入門ゼミナールB」で哲学・思想に触れる手がかりを伝え、それをじっくりと様々な角度から読み取る手がかりを伝える主専攻科目として、教養科目としての「日本思想と文明」、「日本思想」、専門科目としての「日本思想の諸相」、「日本思想の展開」といった科目を多く段階的に配置している。

次に、巨大化し複雑に発展してきた現代文明に向き合う力の養成を目指す。そのために、哲学や思想と同様に、初年次教育科目「入門ゼミナールB」でこれらの諸問題に触れる手がかりを伝え、主専攻科目においては、科学・宗教・都市・環境・ジェンダーといった様々な視点から情報を提供しつつ、自ら考える手がかりを伝える科目として、「社会と文明」、「現代社会論」などの教養科目、「現代社会論の諸相」、「現代社会論の展開」といった専門科目を多く段階的に配置している。

さらに、文明論・比較文明論的な視野を養うためにも同様に、初年次教育科目「入門ゼミナールB」でこれらの視野に触れる手がかりを伝え、主専攻科目においては、「文明論」や「地域と文明」などの教養科目、「文明論の諸相」や「文明論の展開」といった専門科目を多く段階的に配置している。

そして、哲学思想の学習と同様に、現代文明の地球規模の問題を身近な生活の中で考え、文明論・比較文明論的な視野を養うに当たっても、自分がこう考えるという内容を他者に伝えるためには、正確で過不足のない言葉を選ばなければならない。文明学科では、特に卒業論文の執筆を通して、言葉への感性を磨き、正確に自分の考えや思いを伝える技術の習熟を目指す。論文を執筆するためには、いたずらにデータを集めて並べたり、部分的につなぎ合わせて形だけを整えることは許されず、自分で決めた一つのテーマについて、過不足なく説明し、一貫して自分の主張を貫く力業が要求される。この力こそ、文明学科での能動的学修の集大成であり、身につけた一生の財産になるであろう。

『学修成果の評価方法』

文明学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

【歴史学科 日本史専攻】

文学部歴史学科日本史専攻が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

歴史学科日本史専攻では、史料読解力や論理的思考力を鍛えると共に、日本史の流れや人々の営みを正しく理解することを目標とし、その実現のため、以下の5点を重視しています。

1つめは、日本史全般についての正確な知識と、バランスのとれた歴史認識を身につけ、現代社会を歴史的な流れの中で考察する力を育成することです。そのために、日本史の主要な流れを学ぶ「日本史概説A・B」や、各時代の歴史についてくわしく講義する時代別通史、各時代の歴史事象により深く踏みこんで解説する時代別特講などの講義科目を開設しています。2つめは、歴史研究の基礎となる史料読解力を身につけた上で、問題を発見し解決する力や、読解・分析・考察の成果を適切な方法で表現できる能力を向上させることです。初年次教育科目のうち、全学共通科目の「入門ゼミナールA・B」では大学における学修方法や日本史の学び方の基礎を、日本史専攻独自の科目である「日本史基礎講読（漢文）1・2」では史料読解の基礎を、それぞれ修得します。時代別に設けた講読・演習科目群では、少人数教育を徹底して、史料の読解力や問題を発見し解決する力などの修得・向上を図っています。また、卒業論文科目では、こうした能力を基に、学業の集大成として卒業論文の作成に取り組み、自分自身の歴史像を創造する力を鍛えています。3つめは、近年の新しい研究手法を積極的に取り入れ、事物を多角的に分析・表現する能力を育成することです。そのため、絵画・写真などを活用した研究手法を学ぶ「図像資料を読む」や、地域史研究で登場してきた研究手法を学ぶ「地域史方法論」「地域史演習」、コンピューター技術を歴史研究に活用するための「日本史情報処理」などの授業科目を設けています。4つめは、幅広い視点を身につけることです。日本の歴史を世界史との関連で把握する、比較史的な視点を養うために、「東アジア史A・B」「西洋史概説A・B」「考古学概説A・B」や、歴史学科共通科目として設けられている「歴史の見方」の履修を勧めています。5つめは、学校教員や博物館学芸員の育成です。日本史専攻で学んだことを活かせるよう、教育実習の事前指導と事後指導の充実・徹底を図るとともに、学芸員の実務を学ぶ「史料管理学演習」などの実践的な科目を設けています。

『学修成果の評価方法』

歴史学科日本史専攻のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

【歴史学科 西洋史専攻】

文学部歴史学科西洋史専攻が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

特色として以下の6点が挙げられます。

- ① 西欧（イギリス、ドイツ、フランス）と地中海世界（ギリシア・ローマ、ビザンツ）を特色とする西洋史教育。
- ② 現代世界とそこの中での日本の役割を「歴史」の視点から学ぶ。
- ③ 少人数教育によって、批判的思考力と自己表現力を養う。
- ④ 外国語能力の向上を目指す。
- ⑤ 国際人として活躍できる人材の養成。
- ⑥ 学校教員や博物館学芸員の養成。

①について、西欧や地中海世界の諸国家・地域を科目名とする講義とゼミナールを開講すると同時に、各種のテーマ史（政治、社会、民衆、文化、思想など）の授業を通じて、西洋史の多彩な諸相に迫ります。

②について、現代世界の位置付けをよりよく理解するために、「西洋近代史A・B」、「西洋現代史A・B」の講義を置く一方、各国史の中でも近現代史の講義・ゼミナールを多く開講します。

③について、初年次の入門ゼミナールや各国家史・テーマ史ゼミナールにおいて、少人数教育を徹底させ、課題と主体的に取り組むことによって批判的思考力を、発表や討論を通じて自己表現力・コミュニケーション能力を向上させることを目指します。

④について、西洋の社会と文化を深く理解し、歴史学習の基礎となる外国語の習得を重視します。英語のほかにもドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語の授業を開講する一方、専門科目のゼミナール授業ではこれら第2外国語も含めた外国語文献をテキストとして取り上げます。

⑤について、異文化社会としてのヨーロッパやアメリカに直接触れ、その特質を理解することを目的として、「ヨーロッパ・アメリカ実地研修」を設置しています。また、ヨーロッパ・アメリカをはじめとする世界各地の大学で学ぶために、東海大学海外派遣留学制度の活用を強く推奨しています。

⑥について、西洋史専攻で学んだことを生かせる職業として、中学校社会、高等学校地理・歴史の教員や、博物館・美術館等の学芸員があるので、各種の関連講義を開講するほか、資格取得を希望する学生を対象にセミナー等の発展的な指導をすることによって、教員や学芸員の養成を目指します。

『学修成果の評価方法』

歴史学科西洋史専攻のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【歴史学科 考古学専攻】

文学部歴史学科考古学専攻が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本専攻の専門教育課程の特色は、科目群として考古学基礎科目・同発展科目・同実践科目を置き、考古学の基礎から幅広く高度な専門知識までを、考古学的方法・技能とともに、初年次から4年次まで時間をかけて学ぶことができる点と、後述する①～③の履修形態を受講者自身が自由に編成できる点にあります。

基礎科目の1つ「入門ゼミナールB」（必修）では、パブリック・アーケオロジーの視点に立ち、考古学が現代社会と無関係な存在ではなく社会へ向けた情報発信が必要であるこ

とを、グループワークを通じて学びます。また、考古学という学問が対象とする時間や空間に限定性を設けていないことに鑑み、地域・時代・テーマを幅広く見据えた多様な選択・選択必修科目を基礎科目から発展科目にわたって設置し、それらの中から個人が自由に選択し、自身の課題を発見し掘り下げることができるようにしています。特に選択必修第2グループ発展科目では、1つの科目の中で講義を聴く形式と発表や討論を伴う演習形式を組み合わせた授業形態により、能動的学修を促し、各科目のテーマや関連する専門知識について一層深い理解に導きます。加えて実践科目では、考古学固有の方法であるフィールドワークの基礎や実践を学び、最終的には「卒業論文」（必修）を自ら発見した課題・問題意識にしたがって執筆することになります。

このように自由度の高い構成を特色としますが、履修形態として①広域教養型、②地域文化探求型、③専門性探究型の大きく3つの型を想定しています。①～③の型とも1年次に基礎科目「入門ゼミナールB」、「日本考古学基礎論」、「外国考古学基礎論」（各必修）を修得し、かつ選択必修第1グループ（グレード No. 120）の中から興味に応じた4科目を履修することに始まり、2年次に基礎科目「応用考古学概説」（必修）と実践科目「フィールドワーク実習1」（必修）を修得します。この過程で自身の興味の方向性を確認し、①～③のどの型に向かうべきかを個々に判断してもらうことになります。

①②の型に向かう場合には、外国考古学を視野に人類史に関する幅広い教養を身につけるか、日本考古学に重点を置き、身近な地域の歴史・文化・自然環境への理解を深めるか、志向に応じて選択必修第2グループ発展科目前期（グレード No. 220）を中心に3科目を履修します。③の型に向かう場合には、上記に加えて同一発展科目後期（グレード No. 320）からさらに深めたいテーマを1～2科目、同一実践科目「フィールドワーク実習2」、「資料分析法実習」（各グレード No. 220～2年次）、「考古学研究法A」（グレード No. 320～2年次）の3科目を履修します。これによりさらに高度な専門的知識に基づいて考古資料を観察・研究する技能を獲得し、これらを活かした進路につなげます。

ただし①～③の型は明解な境界を設けたものではありません。①②に向かう場合にも発展科目後期や上記の実践科目の選択的な履修は可能です。重要な点は、個人が自らを見極め、主体的に選び取っていくという姿勢にあります。そうして3・4年次の「考古学研究法B」（必修、グレード No. 320）、「卒業論文基礎1」、「卒業論文基礎2」、「卒業論文」（各必修、グレード No. 411～413）において、それまでに培った人類の叡智に対する歴史認識に則り、専門分野の課題を論理的に分析・考察し、自らの見解を積極的に発信する術を論文という形式で結実させるのです。

『学修成果の評価方法』

本専攻のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【日本文学科】

文学部日本文学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

日本文学科は、永い伝統を持ち、また現代日本の社会や文化とも密接に関わっている日本の文学や日本語について学ぶことで、日本の文化に関する幅広い教養の上に立って現代の社会に対して新しい文化的提案ができる人間、また伝統をふまえつつ次世代の社会に向けて創造的に関わってゆける人間を育てることを目標としています。

こうした観点から、本学科のカリキュラムは日本文学と日本語学とを二本の柱とし、初年次教育から卒業論文にいたるまで、講義系科目と演習系科目とを学期ごとに交互に配置しています。これは、まず講義系科目において十分な知識を身につけ、続く演習系科目でその知識を活かして自ら調査・発表し、自身のことばで文章にまとめるというサイクルを繰り返すことで、着実なステップアップをはかるとともに、知識を実践的に用いる力を獲

得してゆくことを意図したものです。また、本学科では中学校・高等学校の国語科教員の養成を大きな目標としていますので、中学・高校での授業運営に活かせるアクティブラーニングを、初年次教育の段階から積極的に取り入れています。

具体的には、「日本文学史 1・2」「古典文学講読 1・2」「近・現代文学講読 1・2」「日本語学概論 1・2」のように、初年次に古代から現代までの文学および日本語について、基礎的・通史的な知識を身につける講義科目を設定し、なおかつ春学期と秋学期に配置し、緩やかかつ着実に力が付けられるように設定しています。また、日本語学については「日本語学入門」を設定し、「日本語学概論 1・2」とともに「日本語学」の学問としての面白さ、興味深さについてより深く学べるようにしています。続いて二年次には、「日本文学概論 1・2」「近・現代文学史」などにおいて通史的・総合的な視野を学ぶとともに、各時代・分野の「研究」科目（春学期に「研究 1」、秋学期に「研究 2」）において、それぞれの分野に関するより専門的な研究方法を実践的に学び、発表を通じてコミュニケーションやプレゼンテーションの力を伸ばす授業が中心として設定されています。さらに三年次の「特講」科目で、各分野に深化した知識と知見とを身につけてゆきます。そして、三年次の秋からはじまる「卒業論文プレゼミナール A・B」「卒業論文 1・2」を通じ、身につけてきた知識と能力を最大限に活用し、形にして示す卒業論文の執筆を、カリキュラムの最終到達点としています。

また、これらの課程の中には、幅広い知識を獲得するとともに、多様かつ多角的な視野を身につけられる「写本にふれる」「現代社会と日本語」「文学と子ども」といった科目、あるいは実体験を重視し、文学を体感的に学ぶ授業として「日本の詩歌」「日本文学実地踏査」などを配置しています。さらに、国語教員の養成を見据え、授業を行ううえで必須である基礎力を培う「国語表現法 1・2」「古文基礎」、また「漢文学」関係の授業も設定し、社会に対して有意な人材を育成できるよう努めています。

『学修成果の評価方法』

日本文学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ループリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

【英語文化コミュニケーション学科】

文学部英語文化コミュニケーション学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本学科のカリキュラム・ポリシーは、英語による実践的コミュニケーション能力と、それを支える教養・専門知識・研究能力を兼ねた人材の育成です。これを実現するために、英語の「スキル系科目」の基礎領域と、「コミュニケーション学」、「言語学」、「英米文学」、「英語教育学」の専門領域とに分けてカリキュラムを組んでいます。

1 年次では大学としての初年次科目である「入門ゼミナール A」「入門ゼミナール B」を通して大学で学ぶ上での基礎と学科における学修での基礎を学びながら、2 年次にかけて英語能力の向上と専門領域の入門に取り組みます。さまざまな科目を履修する中で各自が自分の専門領域を絞っていきます。3 年次(5・6 セメスター)にはより専門的な「演習ゼミナール 1・2」を履修して専門領域について少人数で研究を進め、4 年次(7・8 セメスター)に「卒業論文 1・2」を履修し、自分で選んだテーマに関する卒業研究にもとづいて卒業論文を作成することを目指します。

『学修成果の評価方法』

英語文化コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ループリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

文化社会学部

【アジア学科】

文化社会学部アジア学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

アジア学科は、アジアに関する知識を確実に身につけ、応用していく力を養う教育を実現するため、段階的に学んでいくことのできるカリキュラム体系を構築しています。具体的には、1年次に必修科目である「入門ゼミナールA」で大学での学び、「入門ゼミナールB」でアジアに関する学びの基礎を修得し、同時に「基礎科目」として「東・東南アジア概論」など4つの選択科目を配置して、その後の専門的な知識を深めていくための基礎的な力を培います。また、2年次を中心として「アジアの歴史と文明」科目群に配置された17の選択科目でアジアに関する情報を的確に収集し理解を深めていく＜知る力＞を喚起し、2・3年次を中心として「アジアの文化と社会」科目群に配置された14の選択科目によって＜考える力＞を養っていきます。

アジアの文化と社会を現地の言葉で学ぶことを目的として、1年次から4年次にかけて14の学部教養科目と4つの「アジアの言語」を配置しています。2年次からは卒業後を展望し、「演習・プロジェクト」科目群として6つの科目を配置して、グローバル化が進展するなか多様性に満ちあふれたアジアを舞台に＜行動していく力＞を養います。「アジアの言語」と「演習・プロジェクト」は選択必修科目であり、これら10科目から4単位以上を履修します。そして「卒業研究」では、必修科目である「アジア研究セミナー1・2・3」（3・4年次）と「卒業論文」（4年次）を履修して、4年間の学びの集大成として＜成し遂げ力＞の涵養を図ります。

『学修成果の評価方法』

アジア学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等を通して教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【ヨーロッパ・アメリカ学科】

文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

多彩な学問領域の学びを通じて、複眼的な視野から世界の多様性に触れることができるように、基礎科目群、発展科目群、専門科目群を段階的に履修し、学びの集大成である「卒業論文」へと進む構成となっています。まず1年次には「初年次科目」として必修科目「入門ゼミナールA・B」と基礎科目「ヨーロッパ・アメリカ概論」を履修し、専門的な知識を深めていくための土台となる力を培います。さらに1・2年次に基礎科目群として、ヨーロッパとアメリカの各地域について学ぶ「地域研究」や、文学や社会、芸術などの基礎を学ぶ選択科目が配置されています。

2・3年次を中心に学ぶ発展科目群では、「文学・芸術分野」「宗教・思想分野」「歴史・社会分野」の3つの分野に19の選択科目が配置され、学生が自ら学びの道を選択し、自立した個人としてそれぞれの興味を深めていきます。また、3・4年次には17の専門科目群や「ヨーロッパ・アメリカ特殊講義A・B・C・D」などが配置され、専門性の高い高度な学びが可能となっています。さらに、3・4年次の必修科目「基礎ゼミナール1・2」「卒業論文1・2」においては、自分なりに高めた学知を他者に伝える能力を磨きます。言い換えれば、基礎科目での水平方向の学びと、発展科目、専門科目での垂直方向の学びが、卒業論文完成に必要な、内実を伴う深い学びを実現しています。

『学修成果の評価方法』

ヨーロッパ・アメリカ学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等とおして教育の質向上のためのPDCA サイクルにつなげています。

【北欧学科】

文化社会学部北欧学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

北欧社会の取り組みや文化の特質を多面的かつ段階的に学ぶために、「初年次科目」「北欧歴史科目」「北欧社会基盤科目」「北欧社会発展科目」「北欧文化基盤科目」「北欧文化発展科目」「北欧語基礎・中級・上級科目」「現地研修科目」「卒業研究科目」の科目群から構成される教育課程を編成しています。1 年次には、大学生活に必須と思われる技能を身につける現代教養科目「入門ゼミナール A・B」と、北欧について基礎的知識を習得するための初年次科目である北欧各国の「概論」5 科目から 2 科目以上を履修します。また、学科での学修の基盤となる「北欧歴史科目」として、「北欧史概説」と各国史 4 科目が選択科目として 1・2 年次に配置されており、北欧に対する歴史的な理解を深めます。

主専攻科目の中心となるのが 2・3 年次を中心に履修する「北欧社会基盤科目」「北欧社会発展科目」「北欧文化基盤科目」「北欧文化発展科目」であり、政治・経済、ジェンダー平等、教育・思想、福祉、環境、共生、芸術・文化、文学、児童文学、こども・若者文化、アイスランド（語）研究、北欧神話などをテーマとする 22 の科目が配置されています。このうち、「北欧社会基盤科目」と「北欧文化基盤科目」から、それぞれ 2 科目以上履修することを推奨します。

1～3 年次にかけて履修する「北欧語基礎・中級・上級科目」では体系立った北欧言語の学習を可能にするために初級から上級までの 14 科目を配置していますが、それらを履修する前に「学部教養科目」として配置されている「デンマーク語入門」など 4 つの選択必修科目から 1 科目以上を履修します。さらに 2・3 年次での履修を想定している「現地研修科目」では、自ら北欧を訪問し体験することで、教室では学べない多くのことを吸収します。そして、「卒業研究科目」として 3 年次に「北欧基礎セミナー」「北欧セミナー」、4 年次に「北欧語研究セミナー A・B」「卒業研究 A・B」の 6 つの選択科目が配置されています。

『学修成果の評価方法』

北欧学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等とおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

【文芸創作学科】

文化社会学部文芸創作学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

文芸創作学科は、基本から応用へと段階を踏んで「読む」と「書く」ことを学んでゆけるようにカリキュラムを編成しています。1 年次に初期導入科目である「入門ゼミナール A」で大学での学び方を、「入門ゼミナール B」で学科での学び方を身につけ、高校教育と大学教育との間のギャップを埋めると同時に、4 年間の学習の展望を開きます。また、1・2 年次を中心に「基礎科目」として、「読む」ことから「書く」ことへと重心をシフトするため、「文学の遠近法（創作のための文学史）」をはじめとする、アジアから欧米まで、また古代から近代まで、広く古今東西の作品を読み、また映画や演劇の基礎も学ぶ 12 の選択科目を配置しています。

学生はこうした科目の履修を踏まえて、2・3年次に「書く」ことを中心とした「創作系科目」「批評・研究系科目」「編集系科目」へと次第に移行していきます。「創作系科目」には「詩の技法」など9の選択科目、「批評・研究系科目」には「ノンフィクションを読む」など8つの選択科目、「編集系科目」には「サブカルチャーと文学」など7つの選択科目が配置されています。そして3年次から4年次にかけては、少人数によるディスカッションや対話を中心とする選択科目「卒業制作ワークショップ1・2」において、学修の総仕上げとして卒業制作作品を執筆します。

『学修成果の評価方法』

文芸創作学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【広報メディア学科】

文化社会学部広報メディア学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

広報メディア学科は、カリキュラムを2つの基礎科目群（19科目）と4つの応用科目群（50科目）から構成しています。

2つの基礎科目群は、それぞれ〈広報メディア基礎（初級）〉が10科目、〈広報メディア基礎（上級）〉が9科目となっています。これらの18科目は広報メディア学科で学びを進めていくための基礎となり、特に初年度教育における重要な科目群として位置づけられています。1年次には「新聞概論」「放送概論」「広告概論」など、広報メディア基礎（初級）10科目の中から6科目を選択必修科目として配置しています。また1年次後半から2年次には「メディア産業論」「映像表現論」など、広報メディア基礎（上級）9科目を履修し学びを深めていきます。

4つの応用科目群（50科目）は、〈メディアと社会〉が16科目、〈広報の企画・戦略〉が12科目、〈メディアの制作・実践〉が12科目、〈卒業制作・研究〉が10科目の計50科目から構成されています。これらは2・3年次での履修を想定し、基礎科目群での学修を踏まえて、高度で専門性の高いテーマに取り組むための科目を配置しています。〈メディアと社会〉には「メディア文化論」など16の選択科目、〈広報の企画・戦略〉には「PR戦略演習」など12の選択科目、〈メディアの制作・実践〉には「マガジン編集」など12の選択科目、〈卒業制作・研究〉には「ゼミナールA～H」と「アドバンスゼミナールA・B」の10の選択科目があります。

〈メディアと社会〉の16科目は応用科目群の入口であり、前セメスターの単位修得状況及び学生自身の目標に合わせ、「広報の企画・戦略」あるいは「メディアの制作・実践」のいずれかを主な科目として選択します。「広報の企画・戦略」では、広報や広告の企画や戦略の立案方法を修得していきます。「メディアの制作・実践」ではメディアを制作・実践するための仕組み・ルール・実践的技術を修得します。「卒業制作・研究」では、学修の最終段階として自らの学びの成果を論文や作品の形で完成させることを目的とします。

『学修成果の評価方法』

広報メディア学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【心理・社会学科】

文化社会学部心理・社会学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育

課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

心理・社会学科は2つの履修モデルを編成しています。社会的デザイン系モデルは、社会に関心を持ち、主として地域社会の新たな制度やライフスタイルを提案する人材の育成を進めます。第二の心理専門職系モデルは、心理学系の専門的職業人の育成に関わる科目を体系的に配置しています。

どちらのモデルにも共通する科目配置として、「心理・社会学基礎科目」として、大学での学習技法を学ぶ科目を1年次と2年次に配置し、学科の学問分野である社会学と心理学の基礎知識を修得するための科目を1年次に配置しています。さらに、研究方法の基礎を身につけるための科目を2年次に配置しています。2年次及び3年次の前期には、「心理・社会学共通科目」を配置し、両モデルに共通する専門知識を身につけます。また、実践力の修得を目的として、「心理・社会学研究法科目」と「心理・社会学演習科目」を2年次と3年次を中心に配置しています。

さらに、各モデルの専門知識を深める科目として、2・3年次を中心として、「社会学講義科目」と「心理学講義科目」を配置しています。そして「心理・社会学専門研究科目」として4年次に卒業論文に関連した科目を配置して、4年間の各自の研究成果を卒業論文として制作します。

『学修成果の評価方法』

心理・社会学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

教養学部

【人間環境学科】

教養学部人間環境学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

人間を取り巻く環境に対して、「自然環境領域」、「生活文化領域」、「社会環境領域」に大別し、各領域に沿って主専攻科目を配置しています。その主な特徴として以下の点が挙げられます。環境に関わる基本的教養と各領域の専門性を活かせる能力の修得を目標とし、少人数制（10名程度）のゼミナール教育を通して、理論と実践を結びつけるような総合力の育成をはかっていきます。そのため、1年次には「入門ゼミナールA」「入門ゼミナールB」を必修科目として設置し、高校から大学への橋渡しを行うための初年次教育を行っています。また3領域の専門基礎科目である「自然環境論」、「生活文化論」、「社会環境論」を選択必修科目として、「自然環境演習」、「生活文化演習」、「社会環境演習」を選択科目として設置し、学生個々の環境に対する具体的な興味関心を醸成します。

2年次には、3領域を越えた様々な科目を履修し、環境に関する広い知識と視野を身につけます。必修科目である「人間環境基礎演習」では、異なる専門分野の複数の教員が担当することで、環境に対する多面的な見方や価値観を学びます。

3年次から始まる2年間の「ゼミナール」では、専門領域を踏まえて、焦点を絞った個別のテーマに取り組むことになります。ゼミでは、就職進路、キャリア形成を考える時間も作り、フィールド調査による学外教育も行います。さらに4年次には「卒業研究」が必修科目として開講されており、大学の学びの集大成として卒業論文をまとめ、最終的かつ総合的に学修の成果を評価します。

『学修成果の評価方法』

教養学部人間環境学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用性技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによ

る分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげていきます。

【芸術学科】

教養学部芸術学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

芸術学科では、講義科目である「芸術知識科目」と実習科目である「芸術実習科目」、それら両方の要素を合わせ持つ「芸術演習科目」、そしてゼミ・卒研等の「芸術研究科目」の4種類の学科目を置きます。

1・2セメスター（初年次）では、芸術全般にかかわる知識と技能を身につけます。必修科目は、芸術演習科目である「芸術表現基礎 A～D」と芸術知識科目の「芸術未来学」です。他に、選択科目として芸術知識科目「芸術の系」「芸術対話」「現代芸術論」「音楽通論」「デザイン学」があります。芸術実習科目としては、音楽実技は継続性が肝要との理由から「音楽レッスン1・2」が選択できます。

3・4セメスター（2年次）では、自身の興味や関心に基づいて履修科目を構成します。様々な知識・実習・演習科目が設定されており、理論と技法の両観点から学びつつ、3年次以降の履修や研究について思考します。中心となるのは、選択必修科目である芸術実習科目「アート実習 A・B」「デザイン実習 A・B」「音楽実習 A1～B2」であり、これら3分野のうち1つ以上を修得せねばなりません。あとは全て選択科目であり、芸術演習科目としては「写真・映像表現」「コンピュータミュージック」「クラフト&デザイン」「イラストレーション」「インスタレーション」等が、芸術知識科目としては「芸術心理学」「西洋芸術史」「アートマネジメント」「ソーシャルデザイン」「音楽と医療」等が開講され、2年次以降自由に履修することができます。

5・6セメスター（3年次）では、1・2年次の学びをベースとして専門領域（ラボラトリー）を定め、理解を深めつつ経験を積みます。また、設定した領域以外にも必要に応じて他領域を学ぶことで専門領域を補足する、あるいは横断的な表現や研究について学び、実践することができます。ここで中心になるのは、必修科目の芸術研究科目「ラボラトリー1・2」です。そして3年次から開講される選択科目としては、芸術演習科目の「ラボラトリートライアル A・B」、芸術知識科目の「芸術と人類学」「芸術組成学」「音楽史」「デザインとビジネス」があります。

7・8セメスター（4年次）では、芸術研究科目「卒業研究1・2」において、4年間の学習成果を卒業研究論文や卒業研究制作としてまとめます。卒業研究の内容によっては、同学部人間環境学科と連携した科目「プロジェクト研究」を履修することも可能です。

以上のような「身体指向」「社会指向」「発表指向」を目標とする芸術教育の実施により、音楽・美術・デザインなど個々の適性に合わせた専門能力とそれらを統合する能力を兼ね備え、様々な場面に対応できる判断力・行動力を持った視野の広い人材を、段階的かつ発展的に養成していきます。

『学修成果の評価方法』

芸術学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

児童教育学部

【児童教育学科】

児童教育学部児童教育学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課

程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

● カリキュラム・ポリシー（知識・理解）

ディプロマ・ポリシー（知識・理解）を達成するため、区分Ⅳ「主専攻科目」の「専門基礎科目」における、「1 教職・保育基礎科目群」の教育・保育に関する原理、制度および方法等の基盤的な学び（「教育原理（幼・小）」、「教育制度論（幼・小）」等）をとおして、子どもを取り巻く社会状況及び社会における教育・保育の役割への理解を深めるとともに、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を身につけます。また、「2 教科・保育内容に関する科目群」の教科に関する専門的事項、保育内容の各領域等の学び（「初等国語」、「保育内容総論」等）をとおして、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を基盤として、個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉え、子どもの内面を理解することができる力を身につけます。

● カリキュラム・ポリシー（汎用的技能）

ディプロマ・ポリシー（汎用的技能）を達成するため、学修成果①②を踏まえ、区分Ⅳ「主専攻科目」の「専門応用・実践科目」における、「2 教科・保育内容に関する科目群」および「3 教科・保育内容の指導法に関する科目群」の各分野、各教科の専門性や、指導法等による、教育・保育実践のための基盤となる学び（「初等生活科教育法」「言葉の指導法」等）をとおして、個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉え、子どもの内面への理解を深め、それを基盤として、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を構想することができる力を身につけます。「4 教科・保育研究に関する科目群」の教材研究を深める学び（「初等社会研究」、「保育内容研究A」等）をとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育の構想力を高め、教育・保育を実践するための基盤を形成します。また、「5 教育・保育フィールド科目群」の観察、実践、実習といった、直接子どもと向き合った学び（「学校体験活動」、「保育実習1（保育園）」等）をとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を構想し、それに沿った教育・保育を実践する力を身につけるとともに、実践後は評価・反省をとおして、その力を深めます。

● カリキュラム・ポリシー（態度・志向性）

ディプロマ・ポリシー（態度・志向性）を達成するため、学修成果①②③④⑤を踏まえ、区分Ⅳ「主専攻科目」の「専門発展科目」における、「6 特化プログラム群」の教育・保育に関する現代的課題に対応した学び（「教育・保育インターシップA」「子育て支援実習A」等）をとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を実践し、そこでの課題に他者と積極的に関わりながら、それを乗り越え、真摯な姿勢で子どもの健やかな成長を支える社会の実現のために尽力する態度を身につけます。

これらの教育課程で身に付けた力を、「7 卒業研究科目群」（「発展ゼミナール1」、「卒業研究1」等）において“個々の課題意識に応じた主体的研究姿勢に基づく学び”により集約し、「卒業研究レポート（論文）」としてまとめあげることにより、新たな価値を創出し、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献する力を身に付けます。

● 学修成果

① 社会理解

子どもとそれを取り巻く社会状況及び社会における教育・保育の役割を理解している。

② 教育・保育基礎理解

子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を持っている。

③ 子ども理解

個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉え、子どもの内面を理解

することができる。

④ 教育・保育構想力

子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を構想し、実践後は評価・反省することができる。

⑤ 教育・保育実践力

子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を実践することができる。

⑥ 協働力・創造力

他者と積極的に関わりながら課題に向き合い、それを乗り越えることができる。

⑦ 使命感

子どもの健やかな成長を支える共生社会の実現のために、真摯な態度で向き合うことができる。

これらの学修成果を体系的に身に付けていくことにより、現代に求められている「多様な子どもを、継続的に見通す力」を卒業までに身に付けていく。

『学修成果の評価方法』

児童教育学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ループリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

体育学部

【体育学科】

体育学部体育学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

体育学科では、体育・スポーツ科学に関する基礎的・専門的知識やその指導力を有すると共に、論理的な思考・判断によって問題の所在や問題の解決方法が見いだせる能力の修得を目的として、保健体育科教育分野、人文社会科学分野、自然科学分野の三分野から体系的な教育課程を編成します。また、体育・スポーツ科学の方法論や実践的経験に立脚した実践力・指導力を修得し、さらにそれぞれの分野で発展的に専門性を高められる教育課程の構築を図るべく、以下の系統的な科目を設置します。

- 大学での初年次教育の重要性に鑑み体育学専門基礎の学科目を設置し「基礎身体運動実習 A・B」「保健体育科教育の基礎」「体育・スポーツ科学研究法」「スポーツ人文社会科学の基礎」「身体運動科学の基礎」などを学び、大学で学修する体育・スポーツ科学へと導きます。
- アウトドアスポーツ関連領域においては、「アウトドアスポーツ理論及び実習 A～D」「海外アウトドアスポーツ理論及び実習 1・2」など宿泊を伴う野外でのスポーツ活動を通じて、人との繋がりなどの人間関係の構築や社会性を学びます。
- 保健体育科教育分野からなる保健体育科教育と、人文社会科学分野および自然科学分野からなるスポーツ科学の学科目を、それぞれ設置します。そして、保健体育科教育では、「保健体育授業論」「学校体育概論」を学びます。スポーツ科学では、「社会調査法」と「実験計画法」による研究方法と収集データの処理など研究の基本を学びます。そして、それぞれの実験、演習、実習科目を通じて、専門性・実践力・指導力の強化を図り、身体を多面的に把握・理解する能力の育成を目指します。
- 体育・スポーツ科学研究の学科目においては、「体育・スポーツ科学研究ゼミナール 1・2」及び「研究発表の技法」を設置し、各分野の講義・実験・実習・演習を平行履修することによって、保健体育教師、スポーツ指導者・研究者に必要な高い専門性の修得を図るとともに、省察能力や課題解決能力の向上を目指します。その集

大成として、「卒業研究1・2」において研究論文の作成と発表を課題とします。

以上の教育課程の編成により、体育・スポーツ文化の指導的後継者として、倫理感や社会的責任感を持ち積極的に社会貢献ができる能力を修得し、体育・スポーツに関する「専門性」「実践力」「指導力」の高次元での融合を図ります。

『学修成果の評価方法』

体育学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【競技スポーツ学科】

体育学部競技スポーツ学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

体育学部競技スポーツ学科では、学科目として「身体教育学」「スポーツ科学」「スポーツ指導法」「基礎関連科目」「教職関連科目」の学部共通科目が複数開講されています。

入学から専門学修へ円滑な橋渡しを行うための初年次教育科目として「入門ゼミナールA・B」、競技スポーツの基礎を学ぶための「スポーツ方法論」「基礎トレーニング演習」「トレーニング論」などの競技スポーツ基礎領域科目が開講されます。次段階の学科専門科目では、競技スポーツの意義を踏まえて、体育・スポーツ科学を広く理解し知識を得るために「アスリート領域」「コーチング領域」「トレーナー領域」の3つの学修体系を設置しています。

「アスリート領域」ではアスリート論に基づき、各競技スポーツにおける理論及び実習科目を開講します。「コーチング領域」ではコーチング論に基づき、アスリートを支援するために必要な実技系科目と講義・実験・演習系科目をバランスよく配置します。「トレーナー領域」ではアスレティックトレーニング概論に基づき、アスリートを支えるトレーナーとして必要な理論・実習・演習科目を開講します。いずれの領域においても、“実戦”重視の教育から身につけた理論と実践方法を各分野で発揮することのできる能力を有する人材を育成します。

さらに「競技スポーツ研究領域」として、3年次より「競技スポーツ研究ゼミナール」を開講し、アスリート、コーチ、トレーナーの使命を理解し、それぞれの活動を通して社会に貢献しようとする意欲と能力を身につけるとともに、各分野におけるスペシャリストの育成に努めます。

『学修成果の評価方法』

競技スポーツ学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【武道学科】

体育学部武道学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

武道学科では、「武道」の特性を踏まえて、体育・スポーツ科学の視点から武道を科学的に研究するとともに、武道実践を通して武道の精神と技術を体得し、国際性に富んだ広い視野を培い、自己開発能力とリーダーシップのとれる個性的な人間の育成を教育目標とします。

この目標を達成するために、教育課程においては「体育・スポーツ、武道を科学的に研究できる能力開発」、「事理一致（心技体に一致）の実践」、「競技力の向上」、「国際化

に対応しうる柔道・剣道の指導者養成」を基本的教育方針として、以下の教育課程を編成します。

「武道学基幹科目」として、プレゼミナールや武道基礎演習など初年次教育科目を各コースに設置する他、武道科学概論や武道文化論など体育・スポーツ科学と武道に関連する基礎基本を学修する科目を開講します。また「武道実技科目」を第1～第8セメスターにバランスよく配置し、武道の基本となる技の習得と高い競技力を養成する力を身につけると共に、知識と理解の継続性を重視します。

3年次からは、研究ゼミナールや武道学演習、海外実習等の「武道関連科目」を置き、社会での実践的教育を通して国際的視点、幅広い知識と実践力を身につけた人間の育成を目指します。

『学修成果の評価方法』

武道学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【生涯スポーツ学科】

体育学部生涯スポーツ学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

生涯スポーツ学科では、子ども・成人・高齢者・障がい者スポーツ、および野外活動に関する基礎的、専門的、および応用的な課題を教育の中心に位置づけ、生涯スポーツとその周辺領域に関する幅広い知識と技能を、体系的かつ統合的に学べるよう、体験授業を重視した理論と実践が融合している教育課程を編成します。

- 基礎領域

「入門ゼミナールA・B」「生涯スポーツ論」「生涯スポーツ基礎演習」「情報処理」などの初年次教育に重点を置き、生涯スポーツ学科生として円滑に、かつ充実した4年間を過ごすために必要な基礎知識を修得します。

- 専門領域

「生涯スポーツ」「健康スポーツ」「保健・衛生」および「野外活動」の4つの領域からなる専門領域について、実践的な授業を通じて「人」と「環境」の関係を深く理解し、優れたコミュニケーション能力を発揮して生涯スポーツの発展と啓蒙に貢献できる能力を養います。さらに、生涯スポーツのみならず、その周辺領域への知見を深めることで、人々の身体・心理・社会的な健康と生活の質（QOL）に関する広汎知識の修得を目指します。

- 応用領域

生涯スポーツに関する各種の研究方法を学ぶとともに、インターンシップにより生涯スポーツの臨床を経験します。また、多岐に亘る生涯スポーツの領域から自己の目標や興味関心に合った分野を選択し、学問的・科学的に探究し、論文にまとめることで、問題発見と解決に必要な能力を養います。

『学修成果の評価方法』

生涯スポーツ学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【スポーツ・レジャーマネジメント学科】

体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

スポーツ・レジャーマネジメント学科では、ヒューマニズムに基づく倫理観を育て、基本的人権としての「スポーツ&レジャー」の理解を深め、社会で求められる共通能力としてのマネジメント力を培う教育課程を設置し、持続可能な視点と他者・異文化・多文化理解の基礎となる他者への寛容の精神を培い、国際感覚とコミュニケーション力の基礎としての英語能力高めるための科目を開講しています。

教育課程においては、5つの学修領域を設定しています。

「スポーツ&レジャーマネジメント領域」では、まず専門基礎として「スポーツ&レジャー概論」や「マネジメント概論」において、人間の文化としてのスポーツ&レジャーやマネジメントの概念や基礎的な知識を理解させるとともに、新たな価値を生み出す能力を開発します。そのうえで、「スポーツ&レジャー各論」および「マネジメント各論」で専門的な知識と能力を育成します。

「国際スポーツ&レジャー領域」では、「Introduction to Sport & Leisure Management」や「Event Management」など、スポーツ&レジャーに関する諸領域について英語で解説する授業をおき、「スポーツ&レジャー」のみならず、グローバル化の観点から、他者と異文化・多文化への理解と配慮を深めます。

「アウトドアスポーツ関連領域」では、アウトドアスポーツを実際に体験、学習することで、スポーツ&レジャー活動の実際とマネジメントについて学びます。

「スポーツ&レジャー実践領域」では、マネジメントに必須な人間力を高めるために、「スポーツイベントマネジメント実習」や「スポーツ&レジャー海外実習」において、大学内外で行うフィールドワークや実習によって、合意形成と課題発見・解決能力を養います。また、将来を見据え、インターンシップ等でキャリアについて学びます。

「スポーツ&レジャー研究領域」では、「マネジメントゼミナール」、「研究ゼミナール」や「卒業研究」でスポーツ&レジャー研究における調査や統計手法をはじめとした研究方法を修得します。そして、スポーツ&レジャー研究を通してクオリティ・オブ・ライフ、幸福、ゆとりへと繋げていく思想、人間の生き方や生きがいを構築しようとする志向性、汎用性あるマネジメント能力と個性を兼ね備えた人材を育成します。

『学修成果の評価方法』

スポーツ・レジャーマネジメント学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

健康学部

【健康マネジメント学科】

健康学部健康マネジメント学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

『教育研究上の目的及び養成する人材像』は、次のような学科目の構成によって、健康をマネジメントし、健康な社会の創成に貢献できる人材養成をしていきます。

カリキュラム全体を通じて、健康を多角的に認識できる知識の幅としての総合性と専門性を習得することを目指します。学びの基盤となる「健康を学ぶ基盤科目」の学科目で総合性を習得し、「運動」「メンタルヘルス」「栄養」「ソーシャルウェルネス」の学科目により、専門性を深めます。また、統計とソーシャルワークの知識を活用した「ソリューション（DS）・（SW）」学科目を学ぶことで、課題の分析や課題解決できる実践力を養います。

加えて「学外実習」学科目と「ゼミナール」学科目により、自ら考えて実践する力、健康な社会の創成のためのネットワーク力とコーディネート力を育成します。

『学修成果の評価方法』

健康マネジメント学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

法学部

【法律学科】

法学部法律学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

ディプロマ・ポリシーに定めた能力を育成し、憲法・民法・刑法など法制度の基幹となる法分野についての知識および技能を着実かつ体系的に身に付けてもらうことを目的として、カリキュラムを3段階に構成し、法学の基礎的知識・技能の修得に重点を置いた教育課程を体系的かつ段階的に編成しています。

- 導入・法律基礎科目群

アカデミック・スキルの修得および法学学習の導入科目として「入門ゼミナールA・B」を、そして法制度の基幹となる分野についての知識および技能を着実かつ体系的に身に付けてもらうこと目的として、「日本法概論」「憲法（人権1）」「刑法（総論1）」「民法（総則1）」を配置し、法学の基礎知識を育成します。加えて、基礎知識の定着度を確認するための科目として「現代社会と法律家」を配置しています。

- 法律専門科目群

将来、法曹・国家もしくは地方公務員としてまたはビジネスパーソンとして、法的素養を活かして活躍することができるために必要な幅広い法律知識と技能を身につけてもらうことを目的として、それぞれの学生の将来の目標に応じて選択できる発展・応用的な専門科目を配置しています。各科目を憲法・刑法などの公法科目群（選択必修科目）、民法・商法などの私法科目群（選択必修科目）、そしてそれ以外の発展・応用科目群（選択科目）に区分した上で、カリキュラムを体系的かつ段階的に編成しました。法化の進む現代社会で、どのような問題が生じ、それがどのように解決されるべきかについて学びます。時代の変化に法がどのように対応しあるいは対応していないのか、またそれはなぜかなどについて多角的かつ総合的に、事案によってはグローバルな視野から（「国際法1・2」、「国際人権法」、「国際私法」、「国際取引法」など）分析・考察する技能を身につけます。

- 双方向授業科目群

「法学基礎演習」、「演習1・2・3・4」では、上記の法律専門科目において得られた法律知識・技能をより着実なものにし、実践的に用いる機会が提供されます。また、「特別講義A」においては、高度に専門的な法律知識・技能の習得または資格試験等の準備に必要な優秀な学生に対するサポートを、他方、「特別講義B」においては、既に履修した法律分野の基礎固めのチャンスと、それぞれ提供します。これらの科目では、授業は少人数かつインタラクティブに展開され、教員からきめ細かな指導を受けることができます。主体的かつ積極的に参加することによって、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につけ、ものの考え方・価値観が多様化する現代社会において議論をどのように進めるべきかを学びます。その過程で、人間の尊厳と人権の尊重を基調とする現代社会において責任ある行動とは何か、を考えます。

『学修成果の評価方法』

法律学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・

志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

政治経済学部

【政治学科】

政治経済学部政治学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

政治学科は、現代文明についての深い歴史的、思想的認識に立って、学部共通の目標である「社会力」の育成を基礎として、新しい社会科学の一分野としての科学的な政治学の確立を目指しています。政治学科が育成する人材像は、地域社会から国際社会まで、政治のダイナミズムを解明することができる人材です。

各授業において育成を目指す力・スキルとして、以下の3つの基準を採用しています。①「理論的に考える力」は、政治を中心とする社会現象について、その現象の仕組みや因果関係を理論的に理解する能力です。②「現状を分析する力」は、政治を中心とする社会現象について、資料を集めて客観的、多面的に分析する能力です。③「問題解決策を提案する力」は、政治を中心とする社会現象について、問題点を明らかにし、その解決策を提案する能力です。これらの能力の養成を目指し、カリキュラム全体を体系化しています。

政治現象を総合的に解明する能力を養うために、ゆるやかなコース制を採用し、政治、行政、国際の3コースを設けて、政治学科の各コースの教育目標にある専門的な知識の修得と求められる能力の育成を目指します。

政治コースは、政治学各分野の理論および関連諸科学についての基礎知識を学び、社会問題の解決を図る能力を養います。行政コースは、主として地方の政治と行政について理論と実際の制度の諸側面を広くかつ深く学び、地方自治・行政のスペシャリストを養成します。国際コースは、主として国際社会の基礎知識とともに、そのメカニズムを理解するために必要な国際関係の理論と現実を学ぶことによって、国際化に対応できる能力を養成します。

各コースには、少人数制の演習が配置され、自分の考えを明確に持ち、集団のなかで発言することを繰り返し行い、専門的な知識を身につけるとともに、創意をもって現実の諸問題に取り組み、スペシャリストとして問題解決策を提案する力を養います。これらにより、社会力とともに専門知識を通じて、「理論的に考える力」、「現状を分析する力」、「問題解決策を提案する力」を持つ人材を育成します。

『学修成果の評価方法』

政治学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

【経済学科】

政治経済学部経済学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

経済学は、「社会科学の女王」と称されるように、社会科学分野の中では最も自然科学に近く、その構造は非常に体系的です。そこで、1年次生で基礎導入教育を行います。経済学の基礎理論を習得するために、1年次に「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」を必修科目として開講するほか、「経済入門」「政策入門」など現実の経済事象に対する

関心を養う授業を履修してもらいます。2年次までに経済学を学ぶための基礎となる統計や計量経済学の基本を学んだのち、3年次以降、応用科目の学習が始まります。基礎から徐々に応用科目へとピラミッドを積み重ねていくように科目履修ができるよう配慮した、体系的なカリキュラムを構築しています。

経済学科では、卒業生が、様々な経済現象や問題に対して広く鋭い目を持ち、“冷静かつ批判的”に現行の経済状況と政策を分析し、新たな政策提言ができる人材として社会で活躍することを望んでいます。そこで、①経済理論分野（様々な経済現象について、その仕組みや因果関係を理論的に解明していくことに重点を置く分野）、②経済政策分野（様々な経済問題に対する現実の政策的対応を取り上げ、その背後にある政策立案過程における政治的な側面も考慮するなどして、多角的な視点から経済政策を批判的に分析し、社会的に望ましい政策のあり方について考える分野）、③実証経済分野（様々な経済現象について、その仕組みや因果関係を数量モデル化したり、歴史的・制度的側面に焦点をあてたりすることによって、実証的に把握し分析する分野）の3つの分野制を導入しています。これにより、①理論的に考える力（経済現象の仕組みや因果関係を理論的に解明できる力）、②政策提言する力（経済問題を多面的に検討して政策提言できる力）、③実証分析する力（経済現象について資料を集め科学的に分析できる力）を備えた人材を養成することを目指しています。

経済学科では、理論的に考える力、政策提言する力、実証分析する力を備えた人材を育成するために、討論や発表を行う機会の多い演習形式の授業を重視しています。そこで、1年次生から4年次生まですべての学年で演習（ゼミナール）形式の科目が履修できるよう、カリキュラムを組んでいます。1年次に必修科目として開講している「入門ゼミナール」では、レポート作成やプレゼンテーションのスキル習得やキャリア意識の醸成につとめています。今後本格的に学ぶ専門分野を見つけるために履修する2年次の「プレゼミナール」を経て、3・4年次の専門ゼミナール（「経済学演習1、2」）では2年間、同一教員から一貫した指導を受けて、専門領域への理解を深め、最終的かつ総合的に学修の成果が評価されます。

『学修成果の評価方法』

経済学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

経営学部

【経営学科】

経営学部経営学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施する。

『教育課程・学修成果』

「学系共通科目」、「戦略・組織」、「マーケティング」、「アカウンティング&ファイナンス」、「マネジメントシステム」、「データ分析」、「実践力」、「ゼミナール」の8つの科目群に分類して、授業を配置する。

専門科目の「学系共通科目」科目群では、各学部・学科の基本を理解し、所属する学部学科にとらわれず自ら学びを進め、自ら問題を見出し、解決を目指していく姿勢を身につけていく。「戦略・組織」科目群では、企業経営の仕組みや企業の活動に関する経営諸理論を学ぶ。「マーケティング」科目群では、製品やサービスで顧客価値を生み出すことを学ぶ。「アカウンティング&ファイナンス」科目群では、資金の流れのコントロールを学ぶ。以上の学びにより、経営学の理論・知識を基礎から獲得していく。

これら「戦略・組織」、「マーケティング」、「アカウンティング&ファイナンス」の分野の学びにより得られた知識を分析し、考える力を養うことを目指し、「マネジメントシ

テム」科目群では、ビジネス活動を遂行する上で必要となるオペレーションや情報管理のしくみを学ぶ。「データ分析」科目群では取得したデータを分析・応用する能力を身に付ける。以上の学びにより、分析する力・自ら考える力を育成する。

そして、学んできた知識や理論などを土台にして実務能力を養い、社会で活躍するために必要なスキルを実践的に身につけるため、「実践力」科目群を配置する。さらに、4年間の学修成果のまとめとして、卒業論文や卒業レポートを作成する過程で“新しい課題解決の方法やアプローチを見出していく態度と行動力を身につける”ための「ゼミナール」科目群を配置する。

これらの科目群のうち「戦略・組織」、「マーケティング」、「アカウンティング&ファイナンス」、「マネジメントシステム」、「データ分析」においては、1年次第1 Semesterを中心に各分野の入門的かつ導入的な内容を提供する必修科目を配置して基本的な知識の習得と理解を促し、今後の大学生活において専門的な科目を履修するための準備を行う。これらの科目群については、その後スムーズに専門科目の学習に移れるよう、第2 Semesterから履修が可能な基盤的な専門科目を複数配置する。また、基礎を身につけた上に、「実践力」科目群を2年次から配置し、「ゼミナール」科目群は2年次に選択科目を、3年次からは必修科目を配置する。

『学修成果の評価方法』

経営学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

国際学部

【国際学科】

国際学部国際学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

国際学科では、学際的なグローバル・スタディーズを、国際関係論とSDGs & Beyond（持続可能な開発目標達成とそのさらに先へ）の視点から理論的かつ実践的に学んでいきます。グローバル化された現代社会が直面する多様な課題を理解し分析できるスキル、どのような人ともコミュニケーションが取れる実践的な語学力、異文化・多文化への理解力、自らの考えを国際的な環境で発表できる発信力を身に付けるために、4年間を通してグローバル・スタディーズを基礎とする学修体系を設置し、「国際政治・経済」、「国際開発・国際文化」、「地域研究」の3つの領域を開講します。初年次でグローバル・スタディーズの基礎を学んだあと、それぞれの分野を網羅的に履修することも、特定の分野・地域に絞って履修することもできるのが国際学科の特徴です。

初年次では、グローバル・スタディーズを英語で学ぶための基礎となる「INTRODUCTION TO GLOBAL STUDIES」、現代の国際問題を理解するための「国際関係論」、持続可能な共生社会を考える「SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT STUDIES) 持続可能な開発目標」を必修科目として学びます。2年次からは、「国際政治・経済科目群」、「国際開発・文化科目群」、「地域研究科目群」として、地球規模の課題を理解するための、より専門的な科目群が配置されています。

「国際政治・経済科目群」では、国際政治、国際平和論、国際経済、国際法、国際ビジネス法、人間の安全保障、グローバル・ビジネスといった多様な分野を学びます。「国際開発・文化科目群」では、国境を越える人の移動、メディアと国際関係、国際開発学、多文化共生論、グローバル化と宗教といったテーマを中心に、グローバルな諸問題について幅広く取り組みます。「地域研究科目群」では、国際関係論の研究手法を基に、世界各地域の問題をより実践的に捉えることを目指します。韓国、中国、アメリカ、ロシア、フラ

ンスといった一つの国の問題だけでなく、東南アジア、南アジア、朝鮮半島、中東、ヨーロッパ、アフリカ、ユーラシア、ラテン・アメリカなど、広く多様な地域に焦点を当てた授業も進行していきます。

本学科での教育を「実践」に活かすには、外国語能力とコミュニケーション力の涵養が不可欠であることから、英語面においては CLIL(=Content and Language Integrated Learning/内容・言語統合型学習)に即して、2年次の必修科目「GLOBAL STUDIES IN ENGLISH A/B」を開講します。さらに、学生は特定の分野・地域への関心等に即して、第二外国語を柔軟に履修することができます。また、2年次までには、必修科目「GLOBAL STUDY TOUR A」を通じて、全員が世界・国内各地での短期・中期留学あるいは研修を経験し、異文化理解力とコミュニケーション力を高めるとともに、国際関係論・地域研究の学びを深めていきます。

本学科では、変化する現代の国際社会に精通し、課題の解決に向けて、ほぼ全ての科目でディスカッションを取り入れたアクティヴ・ラーニング型の授業を行います。少人数で切磋琢磨し、意見を分かち合いながら学ぶゼミナール形式の授業としては、初年次の「入門ゼミナール A/B」で、リサーチやレポート作成及びプレゼンテーションといったアカデミックスキルを学び、グローバル社会の現象や諸問題について調査・発表・議論します。また、3年次の「専門ゼミナール1/2」では、専門の知識を深く学ぶと共に、論文の書き方、発表及び議論のスキルを向上させます。4年次では、自ら選んだテーマについて調査・分析を行い研究論文として仕上げる「卒業論文」と、自らのプロジェクトを遂行しまとめる「卒業制作」のどちらかを選択し、4年間の集大成とします。

特徴のある授業としては、他学部の学生と共にプロジェクトを立ち上げ、自ら課題を設定してアプローチの方法を見つける「グローバル PBL」(Global Problem-Based Learning/Project-Based Learning)があります。さらに、グローバル社会でキャリアを築くために、世界で活躍する卒業生の経験から学ぶ「グローバル・キャリア形成」もあります。創造性・柔軟な思考・判断力等を活かして活躍している卒業生のキャリアを通して、自分のキャリア形成と大学での学修がどのように繋がるのかを考える授業です。

このようなカリキュラムにより、社会科学的思考に基づいた鋭い洞察力和高いコミュニケーション力を武器に、複雑化するグローバル社会で人々が平和的共存できるよう、自らの社会的役割を自覚しつつ主体的に行動できる力を養います。

『学修成果の評価方法』

国際学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行います。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげます。

観光学部

【観光学科】

観光学部観光学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

観光学部観光学科では、初年次教育で大学生として身につけるべき基礎を学修し、2年次以降段階的に専門的知識・能力を習得するための科目を配置し、3年次以降は学生の将来の進路に合わせて学修できるように「ホスピタリティ&ツーリズムマネジメント分野」と「地域マネジメント分野」に関する多様な授業科目を設置しています。

グローバル化への対応としては、初年次から3年次まで3年間にわたり継続して英語を学ぶ課程としています。初年次教育の科目を修得した学生に対しては、実学を学ぶ実習・研修科目を提供して総合的な学修の実現に向けたカリキュラムを配置しています。

学位取得に向けては、3年次からより専門的な学修を可能とする少人数でのセミナーを

必修科目として開講し、学修成果の集大成として全ての学生が卒業研究の制作に取り組むことが求められます。

具体的な教育課程は以下に示すとおりです。

初年次教育においては、本学科の教育の基礎となり、社会科学系の研究・教育を学ぶ上で必要となる基礎力の向上を目指した「入門ゼミナールA・B」、観光学とは何かという本質的なテーマや日本を取りまく現在の観光の実態等を総合的に学ぶ「観光学概論」およびグローバル社会で生き抜くために必要な英語科目を必修科目として設定します。また、2つの専門分野（ホスピタリティ&ツーリズムマネジメント分野および地域マネジメント分野）の基礎を学ぶ入門科目のほか情報化社会の中で必須の「情報リテラシー」を設置します。

2年次に観光学調査の基礎を学ぶ「プレセミナー1・2」およびグローバル社会に対応し、「英語（観光学）1・2」を必修科目として配置し、語学科目の積極的な履修を促すことで国際的視野のもとで観光・ツーリズムを推進できる語学力の育成を図ります。さらにグローバルシチズン・カレッジに属する他学部（政治経済学部、法学部、経営学部、国際学部および情報通信学部）が設置する複数の科目を履修することで学際的知識や多角的思考を習得する機会を提供します。

観光学部観光学科では、基礎から専門へと段階的な学修をふまえ2年次以上の学生を対象に専門性の高い科目を開講します。2年次には観光学に関する幅広い基本的な知識・技能の学修を目的とした科目を設置します。3年次からは各学生の志向に合わせて選択できる専門性の高い科目として観光に関するビジネス経営を柱とした「ホスピタリティ&ツーリズムマネジメント分野」と多様な観光資源や観光施設等を活用した「地域マネジメント分野」を設定します。学生はそれぞれの授業科目を本人の希望に応じて自由に履修し専門性を磨くことができる一方で両分野を総合的に学修することが可能となります。

観光には実学の学びが欠かせないことから、教室内の座学と連動して実際の観光・ツーリズムの現場で学修をし、実践的に調査の技法を学び、経験に基づく知見を育成することを目的に「観光学研修」「観光学実習」「フィールドワーク」等を複数のテーマで開講します。また、「キャリア開発」のように企業や団体などでインターンシップを実践し、就職を含むキャリア形成へのプロセスを主体的かつ能動的に促す科目も配置します。

以上をふまえ、観光学部観光学科では、専門教育課程の集大成として卒業研究の作成を課します。卒業研究制作のための学修は、5セメスター（3年次前半）から8セメスター（4年次後半）まで毎セメスター、4学期間にわたって「セミナー1～4」の4つの必修科目で行い、最終的かつ総合的に学習の成果を評価します。

このように観光学部観光学科では、観光学全般に及ぶ多様な科目を設置し、総合的な学修ができると共に、ディプロマ・ポリシーで述べた学士として相応しい力が形成されるように配慮します。

『学修成果の評価方法』

観光学部観光学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をととして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

情報通信学部

【情報通信学科】

情報通信学部情報通信学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

情報通信学科では、Society5.0を実装した社会を実現するための世界標準かつ総合的情報通信技術を身に付けるために、各学部・学科の基本を理解し、カリキュラムの基幹とし

て、所属する学部学科にとらわれず自ら学びを進め、自ら問題を見出し、解決を目指していく姿勢を身につけていく「学系共通科目」を、スキルを身に付けていく「情報通信学基幹専門科目」と”語学力、プレゼン・ライティング等の表現力、協調性、社会で活躍するための実践力”などのコンピテンシーを獲得する「情報通信学基幹：自己発展科目」を、高年次にはより専門性の高い4つの科目群（「先端的数据処理」、「プラットフォーム・デザイン」、「総合情報システム」、「マネジメントシステム」）を設定し、科目を配置する。

なお、この教育課程は、IEEE/ACM が定める IT の世界標準カリキュラムに準拠したカリキュラムとなっている。

『学修成果の評価方法』

情報通信学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っている。その集計結果は、FD 活動等をととして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげている。

理学部

【数学科】

理学部数学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

第1～第4セメスターでは、専門基礎科目を通して数学の基礎を確立するとともに、学部共通科目と融合させて幅広い理学の教養を身につけます。これにより自然科学における数学の位置を理解し、自然にキャリアデザインができるカリキュラムです。そのために講義・演習を通して数学の基礎知識を蓄積し確かな計算力を鍛え、並行して論理的に捉える訓練を重ね、理解したことや新たに発見したことを表現する力が会得できるように構成されています。第5～第8セメスターでは、それまでに養った幅広い教養や基礎をさらに発展させると共に、現代までに発展した数学の理論体系を学び、その過程において論理的・抽象的思考力や正確に表現する力を育成し、卒業後を意識した学生のキャリアデザインを助けると同時に、卒業研究に向けての準備が整うカリキュラムです。特に第7～第8セメスターの卒業研究は、自分を磨く不断の努力の姿勢を身につけ、幅広い基礎知識に支えられた考える力と問題解決力を生かし、様々な分野で活躍できる人材を育てます。

第1、第2セメスターは、高校数学から大学数学への移行がスムーズに実施できるように「入門ゼミナール」を設定し現代数学への橋渡しと位置付けています。また「微分積分学」、「線形代数学」は現代数学を学ぶための土台であることを意識し、専門性に対応できる能力の育成を始めます。

第2～第4セメスターでは、数学に関する基礎的知識、専門性に対応できる基礎力を養成するため、代数学・幾何学・解析学・統計学分野の「序論」を学びます。序論科目を通して、数学科で学ぶ専門科目がどのようなものかを理解し、その先に学ぶ内容との関連を意識しつつ理解度の定着を図るために、論理的・抽象的な議論および具体例を通じた演習を織り交ぜながら展開していきます。

第5、第6セメスターでは、これまでに学んだ数学を最大限に活用して現代数学を学びます。第3、第4セメスターで学んだ「序論」を基盤として学生の興味や適性に応じて代数幾何、表現論、位相幾何、微分位相幾何、力学系、微分方程式系、可積分系、確率論、関数解析、統計に関連するテーマの中から自主的に科目を選択し、より深い数学の世界を味わえるよう、科目も多岐に渡り開講しています。そして数学の最新の研究動向に精通し、数学を含めた科学、さらに理学を含めた文化を理解できる総合的な判断力を養成しています。

第7、第8セメスターでは、「数学研究」、「数理科学演習」、さらに洋書で専門を学ぶ

科目「SEMINAR」を履修し専門分野をさらに深く学びます。少人数ゼミ形式を採用し、自ら学習し自ら発表し先生や仲間と議論することにより理解を深めていきます。そして自由な精神のもとに数学に対する研究心を持ち続け、現代社会の様々な分野において数学特有の論理的思考法で諸問題に対処できる能力を養成しています。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ループブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

【情報数理学科】

理学部情報数理学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

第1～第4セメスターでは学部共通科目、専門基礎科目を通じて幅広い理学の教養を身につけることにより、広い学問の中における数学と情報の位置を理解することで、自然にキャリアデザインができるカリキュラムです。同時並行で講義・演習を通して情報数理の基礎を身につけることができます。第5セメスター以降では、それまでに養った幅広い教養や基礎をさらに発展させます。代数学、幾何学、解析学などの純粋数学から、コンピュータの進歩と共に発展してきた離散数学、そして現代社会におけるデータ解析に欠かせない確率論や統計学などの広い意味での数学系の科目を開講し「数理的センス」の育成にあてています。同時に、情報処理、データ構造とアルゴリズム、データベースなどの情報系の科目を開講し「情報科学的センス」の育成にあてています。より専門性を高めた科目を選択的に学ぶことで、学生が興味を持った分野に関する高度な理論と応用力を身に着けます。

第1、第2セメスターは、現代数学の基礎となる「微分積分学」と「線形代数学」を、情報科目の基礎である「プログラミング」を、数理科学の基礎となる「基礎数理」とともにしっかり学び専門性に対応できる基礎能力を固めます。特に第1、第2セメスターでは、円滑に専門基礎科目を学び始めることができるために「入門ゼミナールA・B」が用意され、基礎知識の定着を図っています。

第3、第4セメスターでは専門への導入として代数学・幾何学・解析学・確率論・統計学・離散数学・情報処理の「序論」を学びます。序論科目を通して、情報数理学科で学ぶ専門科目がどのようなものかを理解でき、その先で学ぶ内容との関連がわかるように展開していきます。一方、第3セメスター以降では、数学・物理学・化学の関連性を理解し、幅広い自然科学の知識を身に付けることを目的とした「数理科学・物理学・化学概説」を学部共通科目として開講しています。これら一連の科目を通して、数学と情報に関する基礎知識、専門性に対応できる基礎力を養成します。

第5、第6セメスターでは、それまでに学んだ内容を活用して、より専門性の高い分野を学びます。第3、第4セメスターで学んだ「序論系科目」を基盤として学生の興味や適性に応じて科目を選択していくことができます。「整数論と暗号」、「幾何学A・B」、「解析学」、「確率・統計」などの専門科目の他、「コンピュータ科学A・B」、「コンピュータ概論」などの応用的な内容を含む高度な専門科目を開講しています。そして数理と情報についてのセンスを身に着け、蓄えた知識を応用することのできる能力を培います。

第7、第8セメスターでは、卒業研究としてゼミナール1、2と情報数理演習A、B、さらに英語で専門を学ぶ科目 Scientific English A,B を履修し、専門分野をさらに深く学びます。ゼミナールは、興味を持った分野を専門とする教員のもと少人数ゼミ形式で行われ、自ら学んだことを発表し、先生や仲間と議論を重ねることにより、理解を深めていきます。このようにして現実世界の様々な現象や情報を幅広く収集・解析し、人と協力して問題に対処する能力を養成しています。

『学修成果の評価方法』

情報数理学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をととして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。特にゼミナール科目は、ルーブリックで定められた、挑み力・自ら考える力・成し遂げ力・集い力について学修目標レベルを達成できるよう指導した上での評価を行います。

【物理学科】

理学部物理学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

第1～第4セメスターでは学部共通科目、専門基礎科目を通じて幅広い理学の教養を身につけることにより、広い学問の中における物理学の位置を理解することで、自然にキャリアデザインができるカリキュラムです。一方、同時並行で講義・演習・実験を通して物理学の基礎が十分に会得できるカリキュラムです。第5セメスター以降では、それまでに養った幅広い教養や基礎をさらに発展させると同時に近・現代の専門科目を学び、卒業後を意識した学生のキャリアデザインを助けると同時に、卒業研究に向けての準備が整うカリキュラムです。第6～第8セメスターの卒業研究関連科目は、自分を磨く不断の努力の姿勢を身につけ、幅広い基礎知識に支えられた考える力と問題解決力を生かし、様々な分野で活躍できる人材を育てるべくカリキュラムを編成しています。

第1～第4セメスターに開講する「力学1・2」、「電磁気学1・2」、「熱力学」で、高校で学んだ物理を復習しながら、その後大学で学ぶ物理に関する内容を概観し、数学的表現について学びます。第3セメスター以降は各論の講義科目として「解析力学」、「電磁場」、「統計力学1・2」を中心として各分野について詳しく学びます。この間、第1～第5セメスターでは「微積分1・2」、「線形代数1・2」といった数学科目および「物理数学1～4」が付随しており、講義科目の一助となるよう開講しています。また、第1、第2セメスターで開講するリメディアル科目「物理学入門A・B」、「物理学基礎A・B」で基礎を確認します。さらに「物理学概論」を通して先端分野を紹介しながら物理学の全体を見ることができるようし、物理学における基本事項の数学的表現方法や物の見方、現象のとらえ方について学びます。一方、第3セメスター以降では、数学・物理学・化学の関連性を理解し、幅広い自然科学の知識を身に付けることを目的とした「数理科学概説・物理学概説・化学概説」を学部共通科目として開講しています。これらの一連の科目を通して物理学への知的探究心を持ち、多種多様な自然現象の源である物理法則を理解する基礎力を養成しています。

第3セメスターからは「量子論」をスタートとして「量子力学1」をはじめとする近代の物理学に関する科目を開講しています。特に第5セメスターからは「光・レーザー物理学」、「プラズマ物理学」、「素粒子物理学」、「宇宙物理学」、「生物物理学」、「原子・分子物理学」、「相対性理論」等の専門科目が開講され、現在の先端分野を視野に入れた科目を開講し、物事の本質を知る習慣と能力を身に付け、先端科学・技術につながる科学的かつ総合的思考力を養成しています。

一方、第2～第5セメスターで、現象を理解し複雑な計算をこなせるようにコンピュータ科目として、「情報処理演習」、「コンピュータ物理学1・2」が、さらに現象を実際に把握し理解することを目的として「物理学基礎実験」、「物理学実験1・2・3」といった実験科目を開講しています。講義科目とは異なり、これらの科目はあくまでも自分で取り組むことによって進んでいくものであり、今何のため、何をしているのかをよく考えて行うことが必要です。また、取り組んでいる間に自分で問題点を見出し、これを資料や書籍で調べ解決していくなど、実習の一連の過程を経験することによって問題発見・解決型の学習に取り組むことが可能となります。

第6セメスターには「卒業研究準備講座」を開講しています。これは、続く第7セメスターから始まる卒業研究の履修を効果的に行うため、「大学における研究活動とは何か、

自ら学ぶとはどういう事か」という心構えについて学びます。そのため、学生は少人数のグループに分かれ、物理学科の教員のもとで週1回、模擬的な研究活動を行います。また、将来社会人になるために必要なキャリアについても学ぶ機会も設けます。

第7、第8セメスターでは「卒業研究1・2」において、各専門分野への興味を膨らませるとともに新しい技術への対応の仕方、研究結果のまとめ・討論・発表の仕方等の一貫した指導を受け、4年間の集大成としてまとめ、自ら考える力を持ち、他者と協力しながら地道に問題を解決していく力を養成しています。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【化学科】

理学部化学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

4年間で、化学全般に渡って基礎から専門までの知識と技術をしっかりと学び、それらを社会で活用することができるようにするカリキュラムにしています。第1、第2セメスターの初年次教育において、4年間で身に付けられる知識と技術がどのようなものであるかを理解すると共に、それらの知識や技術を修得するために必要な基礎学力を身に付けます。第3～第6セメスターでは、講義において理論と知識を、実験において物の見方・考え方・発見することを学びます。第7、第8セメスターの卒業研究は、修得した知識と技術を社会で活用できるように準備する期間となっています。

第1セメスターには、大学の授業の受け方、勉強の仕方など、基本的な大学生活の過ごし方について理解することを目的とした「入門ゼミナールB」を開講しています。第1、第2セメスターには、専門基礎科目として、高校の化学から大学の化学への橋渡しの役割を持つ「基礎化学1・2」、高セメスターで履修する化学の専門分野を学ぶために必要不可欠な「数学概論1・2」、第3セメスターから始まる専門必修科目への導入をスムーズに行うための「基礎分析化学」、「基礎物理化学」、「基礎無機化学」、「基礎有機化学」を開講しています。これらの専門基礎科目の学修が困難な学生に対しては、リメディアル科目として「基礎数学」、「基礎物理A」、「基礎化学A」を開講しています。

第3、第4セメスターに開講している専門必修科目「分析化学1・2」、「物理化学1・2」、「無機化学1・2」、「有機化学1・2」は、第5セメスター以降で開講している専門科目の基礎を成す科目です。第5セメスター以降で開講される専門科目は、化学をより詳細な専門分野に分け、それぞれの専門に特化した内容の授業を行います。また、第3セメスター以降では、数学・物理学・化学の関連性を理解し、幅広い自然科学の知識を身に付けることを目的とした「科学論A・B・C」を学部共通科目として開講しています。これら一連の科目を通して、学んだ化学の知識を、物事に対する観察や洞察へ応用する力を育成します。

第5セメスターに開講している「キャリアアップゼミナール」は、将来社会人になるために必要なキャリアについて学ぶことを目的としています。キャリアアップに必要な知識や方法やスキルについて、個人個人に指導を行います。また、区分Ⅲの英語科目が第2セメスターまでしか開講されないため、化学の分野でよく使われる英語を中心に学ぶ「English in Chemistry 1・2」を第3及び第4セメスターに開講し、英語に触れる機会を提供しています。

「化学実験」などの専門実験科目は、理論の検証や実証、物の見方や考え方、発見の経験を学ぶために、化学科の重要な科目としてカリキュラムの中心に位置付けられています。実験科目は第1～第6セメスターまでの各セメスターに必修科目として開講しています。グループで実験を行うことにより、自らの意見をまとめ、相手の意見を聞き、社会で協調

して生きる力を育成します。また、社会人になるための一歩として、得られた実験結果をレポートとして必ず提出することを義務付けています。

第7、第8セメスターに開講している必修科目の「卒業研究1・2」は、化学科の教育の集大成として位置付けられており、これまでに学んだ知識や技術、物事に対する観察力や洞察力、創造力や思考力などの総合力を十分に活用する実践的な科目です。この科目により、化学を通して問題を発見し、解決する力を育成します。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

情報理工学部

【情報科学科】

情報理工学部情報科学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

主専攻科目は、理工系基礎科目、情報技術者基幹科目、コンピュータ実習科目、情報科学共通科目、AI・計算科学・数理工学分野科目、情報計測・可視化分野科目、自己発展科目、情報科学実験、情報科学ゼミナール、卒業研究1・2と段階付け、徐々にステップアップする構成になっています。

初年次より「基本情報技術者試験」のシラバスを参考にした科目配置を行い、社会が本学科出身者に求める情報理工学分野の幅広い基礎知識を身につけさせます。「情報技術者基幹科目」「情報科学共通科目」の上に、本学科独自の研究分野に関連した「AI・計算科学・数理工学」「情報計測・可視化分野」の科目を配置し、専門的知識を教授します。特に、AI・プログラミング教育に対する社会の大きなニーズに応えるため、「人工知能」「機械学習」「自然言語処理」「確率的最適化」「人工知能プログラミング」「アドバンストプログラミング」を配置し、AI人材に求められる専門的知識を教授します。グローバル人材の育成のため、TOEIC科目を配置し実用英語を身につけさせます。3年次後期には「情報科学ゼミナール」、4年次には「卒業研究1・2」等の実践的教育を通して、新しい情報技術を創成する能力やリーダーシップを育成します。

『学修成果の評価方法』

情報理工学部情報科学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【コンピュータ応用工学科】

情報理工学部コンピュータ応用工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

全体は、基礎科目の上に、各専門分野科目、実験・演習分野科目、教職科目を並列に配し、その上に卒業研究を配置する構成となっています。

初年次において、「コンピュータ工学」、「知能ロボティクス」の各分野に共通する専門基礎知識を修得する為の科目として、「電気電子工学概論」、「コンピュータ工学」等の科目を開講し、情報理工学分野の幅広い知識を身につけさせます。これらには、情報処理技術者試験を中心とする資格取得を念頭に置いた科目も含まれます。その上で、各分野に

ついて、より深く学ぶ為の専門科目を高学年に設置します。また、講義科目の理解促進と実践的なスキル向上を目的として、必修の実験科目である「コンピュータ応用実験 1・2・3」を開講します。3年時には、2つの専門分野に対して、それぞれテーマを設定した「システム開発演習」を必修科目として開講します。このように、各分野の基礎から専門までを段階的かつ横断的に学べる選択科目および資格取得を意識した英語科目をバランスよく設置します。その集大成として、4年次には「卒業研究 1・2」を必修科目として開講し、これらの実践的教育を通して、新しい情報技術を創成する能力やリーダーシップを育成します。

『学修成果の評価方法』

コンピュータ応用工学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をととして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

【情報メディア学科】

情報理工学部情報メディア学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

多様化する価値観や学びのスタイルに対応し、課題発見・解決のプロセスや新しい価値の創造をアクティブラーニング形式で初年次から最終学年まで継続的かつ実践的に学ぶ「情報メディアプロジェクト科目」群を柱として配置し、自ら考え解決を目指していく創造力と実践力を養っていく。加えて、情報メディア技術の幅広い知識を身につけるため「メディアコンテンツ系科目」と「メディアコミュニケーション系科目」に関する科目群を設置して幅広い視点の育成を進めていく。また、「コンピュータ基礎・プログラミング科目」群、および「理工系基礎科目」群、情報メディアに関する現状や発展的な内容を把握することを目的とした「情報メディア基盤科目」群、「自己発展科目」群により、確かな基礎力と深い専門性を養い、幅広い視点から問題解決に取り組んでいく創造性と実践力の育成を行う。

『学修成果の評価方法』

情報メディア学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をととして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

建築都市学部

【建築学科】

建築都市学部建築学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し実施します。

『教育課程・学修成果』

建築学科の教育課程の編成方針は、建築都市学部の教育課程の編成方針に従いながら、全ての講義・演習・実習・実験科目において、建築学科の教育方針にもとづくカリキュラムを構築し、多様な学生の資質に応じた実践力が身に付くように指導することを基本とします。

1、2年次には、教養科目と共に学科の専門基礎科目として、「建築計画」「建築工学」「地域デザイン」の専門力（基礎）を修得するための学科目「建築の基礎」中の科目が開講されます。「建築デザイン入門」「建築の理数学」「建築デザイン演習 1」「建築法規」「建築構造力学 1 A・演習」「建築環境工学・演習」などの科目が用意されています。

3年次以降には、学科の発展科目として「建築計画」「建築工学」「地域デザイン」の専門力（発展）を修得するための学科目「建築計画」「建築工学」「地域デザイン」、および3つの専門力を基盤として”様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していく力”を体得し、文系と理系の区別に捉われない幅広い専門性を修得するための学科目「実践スタディ」「ゼミナール」中の科目が開講されます。学科目「建築計画」では、建築計画・歴史意匠、建築意匠設計に関する科目が用意されています。学科目「建築工学」では、建築構造・材料施工、建築環境・設備に関する科目が用意されています。学科目「地域デザイン」では、地域・都市マネジメントに関する科目が用意されています。学科目「実践スタディ」「ゼミナール」では、「建築インターンシップA」「建築プレゼンテーション英語」「建築専門演習」「卒業論文・卒業設計」などの科目が用意されています。

『学修成果の評価方法』

建築学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【土木工学科】

建築都市学部土木工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

土木工学科の教育課程の編成方針は、全ての講義・演習・実習・実験科目において、土木工学科の教育方針にもとづくカリキュラムを構築し、多様な学生の資質に応じた実践力が身に付くように指導することを基本とします。

1年次には、教養科目と共に学科の専門基礎科目として、「都市と防災」、「都市と環境」の専門力（基礎）を修得するための科目群「土木の基礎」中の科目が開講される。「土木の数学」、「土木の微積分」、「土木解析学」、「プログラミング基礎」、「土木基礎力学1（演習含む）」などの科目が用意されています。

2年次以降には、学科の発展科目として「都市と防災」、「都市と環境」の専門力（発展）を修得するための科目群「都市と防災」、「都市と環境」および3つの専門力を基盤として”様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していく力”を体得し、幅広い専門性を修得するための科目群「実践力」、「ゼミナール」中の科目が開講される。科目群「都市と防災」では、構造力学、土質力学、コンクリート工学に関する科目が用意されています。科目群「都市と環境」では、水理学、測量学、都市・交通計画に関する科目が用意されています。科目群「実践力」、「ゼミナール」では、「環境防災実験」、「土木工学ゼミナール」、「公務員受験対策専門演習」、「卒業研究1・2」などの科目が用意されています。科目群「建築士受験科目」では、「建築計画A」、「建築構造製図」、「建築法規」などの科目が用意されています。

『学修成果の評価方法』

土木工学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

工学部

【航空宇宙学科 航空宇宙学専攻】

工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

航空宇宙学専攻の大きな柱となる教育方針は、「ものづくり」、「数理・情報教育」および「英語教育」の奨励です。それ故、実験実習の充実、コンピュータの利用および英語の重視をカリキュラムに盛り込んでいます。

入学初年度に全教員により広く航空宇宙分野の入門の学習をゼミナール形式で行います。また後の専門科目の学習の基盤となる物理関連および数学関連の基礎的科目の学習に力を入れリテラシーを育成します。当専攻の主要分野である、構造力学、流体力学、推進工学、飛行力学、計測制御工学、宇宙環境科学の6つは、数学、物理学、情報科学、設計製図、実験などの共通的な基礎専門科目の上に成り立っています。

学科の目玉である「航空宇宙特別プロジェクト」は実験とゼミナールおよび長期研究を総合した科目で、学生自らが主体的に人工衛星搭載機器の製作や飛行機設計、製作、風洞試験、飛行実験を行う「ものづくり」のコンピテンシーを養う科目であり、東海大学の4つの力を育成するものです。

また、「航空宇宙特別プロジェクト」、卒業研究やゼミナール科目では、国内外における交流なども含めてコミュニケーション能力や国際的センスを身につけることを目指しています。多くの専門科目では、英語教材や英語の専門用語などを積極的に活用しています。

数理・データサイエンス・AI 関連科目やコンピュータを問題解決に活用するための科目等への履修を積極的に勧め、高度情報社会に対応できる総合力を養います。コンピュータ実習科目、実験関連科目および研究ゼミナール、卒業研究は、実験実習の技能を総合的に体得し、社会に出た後のさらなる学びを促していく科目です。

『学修成果の評価方法』

航空宇宙学科航空宇宙学専攻のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をととして教育の質向上のためのPDCA サイクルにつなげています。

【航空宇宙学科 航空操縦学専攻】

工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

大きな特徴として、日米の操縦士免許取得の飛行訓練のため、2 年次から 3 年次にかけて米国ノースダコタ大学への留学があります。

1 年次の春セメスターは留学に備えた英語科目に力点が置かれ、秋セメスターは多くの操縦士専門知識科目を中心に構成されています。操縦士専門知識科目は留学前に取得しなければならない3 種の国家試験合格へつなげる性格も併せ持ちます。

ノースダコタ大学への留学中のカリキュラムでは、先ず米国の免許取得課程があり、引き続き国土交通省認可の日本の免許取得課程があります。それぞれ操縦に必要な知識科目と操縦訓練科目で構成されています。

留学から帰国後は「航空産業論」や「航空機システム工学」などの主専攻科目や多様な自己学修科目を各自選択して履修し、深い専門知識や幅広い教養・知識を修得し、4 年次には卒業研究を履修し、自らテーマを選び、調査し、考察して、一定の見解を纏め上げるというプロセスを通じて論理的思考力、創造性を育成します。

また教育目標のさらなる実現のため、自主性、協調性、責任感、リーダーシップといった操縦士に極めて重要な素養の醸成、あるいは航空会社に就職した後に円滑に実用機訓練に適應できる知識と応用力の充実を目指していきます。

『学修成果の評価方法』

航空宇宙学科航空操縦学専攻のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をととして教育の質向上のための

PDCA サイクルにつなげています。

以上に加えて国家試験の合格実績、留学に必要な TOEFL を用いた英語力評価、ノースダコタ大学留学を経ての操縦士ライセンス取得実績も学修成果の評価指標として重視します。

【機械工学科】

工学部機械工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

上記の目的を達成するために、機械工学全般に関わる基礎知識及び専門知識を修得する講義科目に加え、実践力を養うためのアクティブラーニング科目や卒業研究などを開講するとともに、技術者としての倫理感を持ち自ら課題を解決する力を養成するカリキュラムを設置しています。

第1～6セメスターでは、現代社会とつながる機械工学における基幹科目を「段階的に学修出来る」ように設置していることに加え、1年次からアクティブラーニング科目や実験実習系科目、卒業研究などの実践的教育を通して、学生の基幹となる力を育成します。また、社会に実在する課題を発見し解決する力や将来を設計する力を育成するために、アクティブラーニング科目として、機械工学入門実習、創造プロジェクト1、創造プロジェクト2、機械工学実験2、問題発見ゼミナールを設置し、さらにキャリア教育科目として、キャリア設計1、キャリア設計2を設置しています。

『学修成果の評価方法』

機械工学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ループリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【機械システム工学科】

工学部機械システム工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

上記の目的を達成するために、機械システム工学全般に関わる多様な視点・基礎知識と専門領域の知識を修得する科目に加え、実践力を養うための実験科目、ゼミナール科目、卒業研究などを開講するとともに、技術者としての倫理感を持ち、自ら課題を解決する力を育成するカリキュラムを設置しています。

1～3年次にかけて、機械システム工学の基幹科目を段階的に学習できるように配置し、1年次からプロジェクト製作、設計製図科目、実験科目、問題発見ゼミナール、卒業研究などを通して実践的教育を行います。学んだ機械システム工学の基礎知識を応用する力を育成するために、ロボットデザイン、ロボットの設計と創造、モビリティデザイン、モビリティの設計と創造を設置しています。また、「ものごとを複数の視点から俯瞰する力」、「技術者としての高い倫理観」、「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」、「広く世界に目を向けて問題解決に取り組む使命感」などを育成するため、入学から卒業までの各セメスターにゼミナール科目を配置しています。

『学修成果の評価方法』

機械システム工学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ループリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【電気電子工学科】

工学部電気電子工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

電気電子工学科では、電気工学、電子工学、情報・通信工学の各分野を教授するカリキュラムを提供しており、同分野のハードウェアに関する幅広い知識・技術とともに、情報技術（IT）を活用する能力を身に付けることが可能です。これらを総合的に学修することができる一方、特定の分野を深く学び、学术界で幅広く活躍している教員と先進的な研究を進めることも可能です。これらにより、学生が高い技術力と実践力を獲得することができます。

初年次教育として全学的に開設している「入門ゼミナールA」「入門ゼミナールB」では、基礎的・汎用的能力を得ることができます。また、学部共通科目として、数学・物理・化学等の基礎科目を設けており、専門科目を学ぶために必要な基盤を築くことができます。さらに、英語実用科目では、自らが有する知識を英語で他者に伝える実践的能力の育成も行います。この他、初年次から「プログラミング1」「電子情報実習」などの実習科目を設けており、電気電子工学科のカリキュラムに沿って学びを進めることにより、情報技術（IT）を駆使してハードウェアを取り扱うことのできる能力を養うことができます。また、電気主任技術者、無線従事者などの国家資格を取得する道も拓けます。

本学科は、このカリキュラムを通じ、電気・電子・情報・通信工学の知識と技術を修得した学生が、自らの専門性を活かしながら、グローバル化した社会において活躍できる人材となることを目指しています。

『学修成果の評価方法』

電気電子工学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【医工学科】

工学部医工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

(1) 1、2年次（工学系基礎分野）

4年制総合大学ならではの幅広い人文系・工学系教育を行い、他分野にまたがる問題や課題を探る視点を有し、豊かな人間性を基にした社会的知識、物事を論理的、多面的に捉えることができる能力を養う。具体的には「学部共通科目」、「医療技術と社会」により、生体医工学が人間社会に果たす役割、社会への貢献やその意義について教育する。「医工学の基礎」では電気・電子工学、機械工学、計測工学等の面での充実したカリキュラムを取り入れ、高度かつ的確な実践的工学知識を習得できるように図る。このためには、講義形式の授業に加え、情報処理実習、プログラミング実習、基礎医学実習などの実験・実習科目を充実させることで対応する。

(2) 3、4年次（生体医工学専門分野）

1、2年次に習得した論理的考察力、工学基礎知識を基に、臨床医学、治療・診断機器に関する座学と実習、および生体医工学に関する最先端の機器やシステムの開発に必要な講義を展開する。この教育にあたっては工学系教員に加えて医学系教員を充当し、臨床医学のほか、各種医療機器の構造・原理から治療のメカニズムまでを徹底して教育し、さらに関連する分野の最新の知見を吸収できるよう、学生の志向に応じて先端分野の講義科目も開講する。

その結果として医療機関、メーカー、商社、公的機関等を含む幅広い生体医工学分野において将来の指導者に相応しい技術者、臨床工学技士を養成する。

『学修成果の評価方法』

医工学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・

志向性」に関して、ループリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

以上のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のため、後述する教育課程に基づき、資料のとおり図式化することができる。

【生物工学科】

工学部生物工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

生物工学科では、1) 生物学の基本的知識を系統的に理解し、2) 生物関連技術・技能を実践する能力を有し、3) それら知識・技能を総合的に活用する志向性をもった人材の育成を行います。

カリキュラムにおいても、1) 生物学・有機化学の各種科目や応用科目において基本的知識を教授し、2) 実験科目・卒業研究科目で各種の技能を習得して、3) 問題解決への態度を醸成し、汎用性のある技能の育成、使命感・リーダーシップを涵養し、ディプロマ・ポリシーに即した学修過程となるよう科目を配置しています。学修成果の目標としては、初年次教育としての各基幹科目で知識の習得を求めるとともに、その後の発展科目群において応用面の見識を身につけます。それら専門教育では、現代社会における生物学の課題も提示するなど、教養教育との関係を意識できるものとしています。また、実験科目・卒業研究科目では能動的学修により、得られた知識を実際に応用する際の技能や姿勢を涵養します。これら知識・技能を総合して、工学の規範に則り、生物学分野の課題を発見・解決し、社会へ貢献できる人材の育成を目指しています。

『学修成果の評価方法』

生物工学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ループリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

具体的には、初年次教育としての各基幹科目で知識の習得を求めるとともに、その後の発展科目において応用面の見識が身についたかを評価します。また、実験科目・卒業研究科目では能動的学修により、得られた知識を実際に応用する際の技能や姿勢を重視します。

【応用化学科】

工学部応用化学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

応用化学科では、教養科目・専門基礎科目・専門基幹科目と順次・系統的に化学的かつ工学的なものの見方と考え方を体得するためのカリキュラムを編成しています。低年次から観察力や判断力、思考力や創造力が身につくように実験・演習科目を設けており、最終仕上げとなる卒業研究まで系統的に高度な知識と技能が身につくよう配慮しています。

専門科目では、低年次から高年次に至る間、化学を中心とした産業界で必須となる4つの専門領域（有機化学、無機化学、物理化学、化学工学）を基礎としたカリキュラムを編成し、専門性を高める学修が意識できるような科目構成としています。高年次では、近年、社会で注目を集めている複合専門領域の知識や技能の修得も考慮し、有機化学や無機化学を中心とした化学合成技術や合成した化学物質の特性評価解析、これらの技術を応用して化学工学的手法で製造される化学製品（プラスチック、高分子、香料・化粧品、医薬品、セラミックスなど）の工業的展開を学ぶ「応用化学」コースと、次世代電池、燃料電池、自然エネルギー、再生可能エネルギー、環境リサイクル技術に関して物理化学を中心とした化学分野から学ぶ「エネルギー」コースを履修推奨モデルとして提示しています。二つ

のモデルを中心に、学習の進度に応じて学びの方向性や適応性を考え、個性を伸長し、興味や希望に沿った知識や技能を体得できるような様々な選択科目を開講します。

日々刻々と状況が変化する現代社会に対応する上では、広い視野でリーダーシップを発揮しながら積極的に問題を解決するための力が必要とされます。そこで応用化学科では、入学初年次より「問題発見・解決型」のゼミナール・演習科目を設けています。また、低年次からのキャリア教育にも力を入れています。将来の展望を整理しながら学修内容を踏まえて、四年次の卒業研究や卒業論文、就職活動を迎えられるようなカリキュラムとしています。

グローバル化の主要ツールである英語科目は、全学必修である英語コミュニケーション科目に加え、本学科の専門科目において、科学技術系英語の系統的な学修を意図しています。初歩的な科学技術系分野のボキャブラリーやテクニカル・タームの修得（化学英語基礎）から始まり、表現法（化学英語）などを通して総合力を培い、最後に科学技術系英文文献の講読（英文講読）によって、実践的な科学技術英語に触れる機会を設けています。これらにより、卒業研究等の実践科目ではもちろん、本学卒業後の実社会生活において、国際的な自然科学・技術情報をスムーズに収集できるカリキュラムを構成しています。

『学修成果の評価方法』

応用化学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

医学部

【医学科】

医学部医学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

「豊かな人間性・社会性を備え、知識・技能・創造性に秀でた『良医』の育成」を目指し、アウトカム・ベースド型カリキュラムに基づき、6つのコンピテンスを掲げます。

- (1) 豊かな人間性：温かで柔軟な包容力を持ち、それを表現できる。
- (2) 社会的役割の認識：医師の社会的役割を認識し、生涯実践できる。
- (3) 論理的・創造的思考力：科学的問題を発見し、論理的に分析することができる。
- (4) 応用可能な医学的知識：正常な構造・機能や病態を理解し、病気の診断・治療のための知識を有し応用できる。
- (5) 総合的医療実践技能：患者個人を尊重し、診断・治療につながる臨床能力を持ち実践できる。
- (6) グローバルな視点：自分の置かれた環境にグローバルな視点から柔軟に対応できる。

また、本学のカリキュラムにおける医学教育の質保証は、文部科学省の定める医学教育モデルコア・カリキュラムに則しており、モデルコア・カリキュラムは、最初の準備教育、全課程で修得するA. 医師として求められる基本的な資質・能力、B. 社会と医学・医療、の他に、課程の前半で修得するC.D.E.F. からなる臨床前医学教育と後半で研修するG. 臨床実習で構成されています。そして、診療参加型臨床実習を始める前には、共用試験（Computer Based Testing (CBT) と Objective Structured Clinical Examination (OSCE)）に合格することを条件としていて、卒業時には医師国家試験を受験し、国家資格取得を目指します。なお、カリキュラムは、世界医学教育連盟の国際基準（認証基準）に準拠したガイドラインにも沿って作成されており、(1)使命と教育成果、(2)教育プログラム、(3)学生評価、(4)学生、(5)教員、(6)教育資源、(7)プログラム評価、(8)統轄および管理運営、(9)継続的改良の9項目で評価できるように策定しています。そして、すべての科目に学習

成果・到達度を設定し、卒業時に身につけるべき能力を教育目標ごとに系統立て、カリキュラム・マップや科目毎パフォーマンスレベルに明示して、教育を受ける学生や教育を実施する教員が本学の医学教育全容が理解しやすいよう示しました。

また、多職種連携教育についても、臨床現場を体験している5年次に看護学科との連携プログラムを設置して、より実践的な教育を展開します。大学や学部の教育目標を根幹として、医学教育モデルコア・カリキュラムや分野別認証基準（国際基準）といった、客観的水準をクリアした教育課程の編成を行っています。

『学修成果の評価方法』

医学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をととして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

具体的には、毎年度末に進級判定を設定しており、当該年の学修成果・到達度を評価するために、知識の習熟度を測る筆記試験や口頭試問、態度・技能を確認する実技試験、体験をまとめ自身の学びを整理するレポートの活用など、科目の特性に合わせた手法を用いて評価を実施します。特に4年次においては、全国の医学部・医科大学で実施される2つの共用試験(Computer Based Testing (CBT)とObjective Structured Clinical Examination (OSCE))を導入し、より客観的な知識・態度・技能の評価を行い、最終学年においても総合試験とPost-Clinical Clerkship OSCEを実施して、卒業時の到達度の確認を行います。

【看護学科】

医学部看護学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

教養科目で得た知識や自ら考える力などを発展させ、高度な専門知識を効果的に身につけて行くために、区分Ⅳ主専攻科目に必修科目100単位、選択科目6単位を配置しています。科目の構成は、6つの区分「生活/人間/健康」「地域/社会/環境」「日常生活支援」「療養生活支援」「健康維持増進支援」「看護の統合」に分類し、下記の力を身につけることを目標にしています。

1. 温かな人間性を育む
慈愛に満ちた、思いやりの心を培う。
2. コミュニケーション力の育成
さまざまな健康レベルの人と関わることができる、幅広い教養を備え、相手を尊重したコミュニケーションがとれる。人が生活するあらゆる場で看護を提供することから、保健医療福祉等の多職種協働が必要である。その実現のため、自他を知り、円滑なコミュニケーションがとれる。
3. 看護専門職としての役割認識の育成
看護職をめざす者として、アイデンティティの確立を目指す。専門職としての社会的役割と、多職種との連携の重要性について考える看護理論。
4. 看護実践力の育成
看護実践力を高め、人間と社会を幅広く理解するために、近接領域（医学、社会学、心理学等）にある他分野の知識を応用して、根拠に基づく技術を身に着ける。モデル教材、模擬患者等を活用した臨場感のある体験型の学習や、また隣接する医学部附属病院の看護師と本学教員との連携による現場直結の実技指導を通じて現場の医療ニーズに即した看護実践力を獲得できる。
5. 国際的視野の育成
国際的視野を身につけ、4年間を通して段階的な看護英語を習得する。海外の看護事情を学び、諸外国の看護学生・看護師らとの交流体験を通して、グローバル社会において多様な人々と協働できる国際的な視野を養う。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

看護学科独自の学修成果の評価としては、看護基礎実習2終了時、7セメスタ実習ガイダンス時、全実習終了時に「臨地実習における看護基礎技術項目とその達成基準」表を用いて、実習中の経験レベルについて自己評価をしています。

海洋学部

【海洋理工学科 海洋理工学専攻】

海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本専攻では、海洋に関する科学的な基礎知識を基に、人と海とが共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成します。入学直後に大学教育へと円滑に橋渡しする科目として「入門ゼミナールA、B」を、海を知る科目として「海洋学」、「海洋社会科学」、「駿河湾学」、「海洋実習1」の必修科目を開講します。また、自然科学の教養科目として数学、物理学、化学、生物学、地学に関する12の選択科目を開講します。加えて海洋理工学の基礎知識として、「地球科学」、「環境科学」など14の選択科目を設置しています。

次段階の学科専門科目では、海を学びの核としつつ、地球環境の現状や未来を総括的に把握できる能力を醸成します。そのためには、自然科学的な視点とともに、社会科学的な眼差しを兼ね備える必要があります。本学科においては、海と人との関係性を捉えることを基本とし、「海洋を科学する」「資源・エネルギーの科学」「海洋での活動力」の3つの学修体系を設置しています。

まず、「海洋を科学する」系で開講する「地球物理学」、「海洋化学」、「生物海洋学」、「海洋気象学」といった地球システムの中でも中核をなす海洋科学を中心とした科目群や「資源・エネルギーの科学」系で開講する「海洋資源学」、「海洋地質学」など固体としての地球科学に関する科目群は、地球環境の現状を把握し環境問題のメカニズムを理解することを目的としています。

次に、「海洋を科学する」系で開講する「海洋共生論」、「海洋管理論」、「沿岸環境論」といった科目群や「資源・エネルギーの科学」系で開講する「沿岸開発論」、「海洋資源管理論」といった科目は、海洋の持続的な利用を可能とするために、人と海洋の共生のあり方を理解することを目的としています。

さらに、「資源・エネルギーの科学」系で開講する「海洋エネルギー工学」、「海洋土木環境工学」「海底資源開発学」といった科目群や「海洋での活動力」系で開講する「システム設計」、「ロボット制御基礎」、「水中ロボット工学」、「海洋構造工学」、「海洋流体工学」、「洋上システム工学」、「海洋計測工学」といった科目群は、海洋分野で「つくる」技術者として必要な知識を習得することを目的としています。

修得した知識を深めるために、各学修体系において「海洋物理学実験」、「海洋化学実験」、「海洋資源学実験」、「海洋エネルギー工学実験」、「メカトロニクス実験」、「ロボットプログラミング演習」、「海洋工学実験」といった実験・演習科目を開講します。加えて「海洋リモートセンシング学」、「数値解析・シミュレーション」など海洋を効率的に解析するために必要な技術に関する科目群を開講します。現代の科学・技術を学ぶにあたって英語は極めて重要であるため、専門課程で「海洋理工学英語A」、「海洋理工学英語B」を開講します。

座学、実験・演習より得られた知識や技術を学生自らの主体的な取り組みを通じて総合的に理解・活用することを目的として「海洋実習3」、「海洋フィールド実習」といったフ

ィールド科目を、卒業研究科目として、6、7セメスターに「海洋理工学ゼミナール」、「海洋理工学研究1」を少人数ゼミナールとして開講し、最終8セメスターで卒業研究を取りまとめる「海洋理工学研究2」を配置します。

高等学校教諭および中学校教諭の一種免許状（理科）に関連して理科教材論、理科教育法1、理科教育法2、理科教育実践論の4科目を配置します。また、測量士補資格に関連して、測量学、測量学実習の2科目を配置します。

『学修成果の評価方法』

海洋理工学科海洋理工学専攻のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等を通して教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【海洋理工学科 航海学専攻】

学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本専攻では、海に関する科学的な基礎知識、船を運航・管理するために必要な海事に関する基礎知識、さらに海技士としての専門分野での応用的知識を養うために、学科専門科目として初年次より海技士関連科目の「航海学1」、「運用学1」、「運用通信実習1」などを設置し、次年度から海技士関連科目の「航海学2」、「航海計器学1・2」、「航海力学」、「船用機関概論」、「航海学演習1・2・3」、「航海計器学実験」、「運用学演習1」、「航海気象学」、練習船望星丸を用いた1ヶ月間の乗船実習「短期乗船実習」など、および専門科目の「無線工学」、「船用電気機器」など、さらに学科総合科目の「海洋実習3」を設置しています。

また、海技従事者としての専門知識と技術を総合的に活用し、具体的な問題に対する対処・解決できる力を養うために、海技士関連科目の「航海学3」、「運用通信実習2」、「運用学2」、「運用学演習2」、「海事法令」、「海運実務論」、合わせて6ヶ月間の乗船実習となる「乗船実習A」、三級海技士（航海）の免許試験に必要な「乗船履歴」を得るため卒業後に履修する6ヶ月間の「乗船実習B」などを設け、および専門科目の「国際海事法」、「船舶管理概論」、「船舶保険論」、「港湾工学概論」、「海難論」、「海上交通工学概論」などを設けています。

さらに、グローバル時代に対応できるコミュニケーション力を持ちリーダーシップを発揮できる力を養うために、専門科目として初年次より「海事英語ゼミナール」の必修科目、および海技士関連科目の「海事英語1・2」、「物流英語」などや、専門科目の「物流論」、「海運経済論」などを設置しています。総仕上げとして総合科目の「海事研究1・2」を行ない、海運界や海事関連産業で活躍できる力を養っていきます。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【水産学科】

海洋学部水産学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本学科のカリキュラムでは、初年次に「科学表現論」で科学的な思考及び表現方法を学びます。また、導入科目に当たる「水産通論」および「入門ゼミナール」により、水産学の基礎を学び、2年次以降の学修の方向性を考えさせます。また、関連する技術の基礎を

身につけさせるための実験科目として、「生物学実験」と「化学実験」を履修させます。そのほかにも、水産学科として必要な基礎知識に関する科目群を学科目「水棲生物の基礎知識」や「水産学の基礎知識」として開講しています。

食品科学コースでは、「水産食品学総論」や「水産食品学実習」などの基礎科目を学びながら、「水産利用学」、「食品栄養学」、「食品衛生学」、「食品製造学」などを通して、生物生産科学コースでは、「水産増殖学」、「漁業資源学」、「保全生態学」などで水生生物の増える仕組み、水圏生態系、環境との関連を学び、「魚病学総論・各論」や「水産餌料・栄養学」などを通して、水生生物を資源として持続的に有効利用するための実務的な応用知識を修得するとともに、汎用的技能である論理的思考力を養っていきます。

さらに実践力を身につけるために、食品科学コースでは、「食品化学実験」、「微生物学実験」および「食品製造学実習」といった独自性の高い専門系実験・実習の3科目を、生物生産科学コースでは、「魚類学実験」や「資源生物学実験」などの実験7科目を開講しています。これらの実験や実習科目を通して、能動的に学習しつつ実践力を習得していきます。また、「海洋実習3」により、水生生物資源の持続的利用のための知識・技術を修得し、チームで働く力を高めて、汎用的技能を身につけていきます。

最終年次には、総仕上げとして、卒業研究科目に取り組みます。研究の考え方や解析方法、科学論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを、教員から個別に指導を受けます。これらの卒業研究科目は、単に知識や技術の修得だけが目的ではなく、様々な活動を学生同士で行いながら、社会貢献度の高い計画を自ら考えて立案し、チームワークを駆使して実行できる高い社会性を持った態度と志向性を身に付けさせます。またサマーセッションに HACCP 実務管理論があります。HACCP 実務管理論では食品工場における衛生管理の実践的な思考を身につけ、HACCP 実務管理者の資格を得ることができます。

『学修成果の評価方法』

水産学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

【海洋生物学科】

海洋学部海洋生物学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

初年次教育科目として、海洋生物学科の教育目標を理解し、4年間の大学生活を自覚的かつ計画的に過ごすための必修科目「入門ゼミナールA」「入門ゼミナールB」を開講している。また、「海洋生物学概論」を通して海の生物に広い見識を持たせる。

科学的な知識の礎として＜水棲生物の基礎知識＞、＜海洋生物学の基礎＞の分野において、「魚類学」「海洋生態学」「細胞生物学」などを開講し、次いで専門性を高める分野として＜海の生命の科学＞を設け、「海棲哺乳類学」「ベントスの世界」「プランクトンの世界」「深海生物学」など多彩な専門科目を学ばせ、多様な海洋生物の生態や行動を理解させる。また、＜ヒトと環境＞分野では、「群集生態学」「環境化学」「分子生態学」「水質学実験」「臨海実習」などの授業や実験実習を履修し、海洋生物の保護と管理に関わる問題点、さまざまな技術、情報収集と分析法などを能動的に修得・学修することにより、「知る・書く・伝える」といった汎用的技能を養うことができるようになっている。さらに＜行動とコミュニケーション＞分野では、「海洋動物の行動科学」「動物とコミュニケーション」などの科目によって当学科の特異性を象徴させている。3年次から「海洋生物総合演習」を開講し、学科内の各教員・研究室の研究の概要を把握することにより、4年次科目「海洋生物学研究1」「海洋生物学研究2」の準備に資する。こうした一連のカリキュラムを通して、積極的に新しい知識を吸収し、将来を見据えて社会のために貢献する社会的責任感や志向性を養うとともに、研究の集大成として課せられる「海洋生物学研究

1) 「海洋生物学研究2」における卒業論文のまとめや発表によって、会得した種々の情報リテラシー能力を強化・定着させる。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、ルーブリック等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っている。そしてその集計結果はFD活動等をととして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげている。

人文学部

【人文学科】

人文学部人文学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施する。

『教育課程・学修成果』

【カリキュラム・ポリシー】を実現するため、以下の科目区分（学科目）と必修・選択・選択必修をその目的別に設定している。

人文学科では、地域社会と人の関わりについての人文的基礎知識および具体的に社会的状況と関連づける思考力を養うために、専門の基礎科目、発展科目、応用科目、フィールドワーク演習科目、ゼミナール科目を設けている。

- 人文基礎科目

哲学、文学、歴史・考古学、地理・文化人類学を基軸とした人間性への深遠なる問いかけを相対的、総合的に理解していく視点の育成を目指し、人文学の基礎知識の理解を深める科目として、初年次より「総合人文学概論」の必修科目、「人文思想」、「人類学」、「考古学」、「ことばと論理」「人間と環境」などの選択科目を設置している。

- 人文発展科目

人文学の基礎知識に加えて、将来生じるであろう技術の進歩、問題や課題解を把握し、現代文明の持つ問題について自らを取り巻く社会的状況と関連づけて具体的に理解できる思考力を養うための科目である。そのために静岡キャンパスの地域的特色を学ぶ「駿河湾学」を必修科目として、また人文学を発展的に捉える力を養う「グローバル時代の人間学」、「文化と現代メディア」、「多文化の共生」、「生と死の文化史」などを選択科目として、現代の社会的状況、未来社会の創造を考察する科目である。

- 人文応用科目

本科目は、グローバルな考え方で、将来に向けてマネジメントしていく力の育成、柔軟な視点の育成を目指し、社会における多様な取組みを理解し分析することを通して論理的思考力、問題発見と解決能力を修得することを目的としている。そこで、地域において持続可能な社会の実現に向けて必要となる情報の論理的な思考力・分析力を養う学科目＜地域マネジメント＞、多様な価値観を共有し、社会の一員として責任と役割を全うするために必要となるコミュニケーション能力を養うための＜グローバル・コミュニケーション＞、発想力を養い、地域の魅力をグローバルに発信できる表現力を修得するための＜クリエイティブ・カルチャー＞の3領域を設置している。

＜地域マネジメント＞領域では、地域産業との連携を進める学修科目として「観光人類学」、「地域観光論」、「地域環境論」、「コミュニティ創造論」などの専門科目を設置し、事例研究を通して情報を論理的に分析していく力を養う。

＜グローバル・コミュニケーション＞領域では、国際化に応じた異文化の理解、コミュニケーション方法の学修科目として「世界の文化とグローバリズム」「生活様式論」、「インバウンド・コミュニケーション」、「国際海洋論」、「国際研修」

などの専門科目を設置し、国際社会のなかの日本を理解し、国際交流の実践力を養う。

＜クリエイティブ・カルチャー＞領域では、市民参画のもと地域資源の発掘と表現力を高める学修科目として「言語表現論」、「身体論」、「ミュージアム論」、「海洋考古学」などの専門科目を設置し、持続可能な社会に貢献する発想力を養う。

- フィールドワーク演習科目

「フィールドワーク演習A・B・C・D」を設置して、学生が社会的取組みの現場で特定の事例に臨み、能動的に問題を発見し、解決していく力、実践力を養う。

- ゼミナール科目

2年次から開始される少人数で運営される「基礎ゼミナール1・2」、「ゼミナール1・2」「卒業研究1・2」の必修科目 12 単位の修得により、これまでの学びを踏まえ、学生自身がグローバルな視点をもって「人間とは何か」を自ら考え、社会で実践していく力を身につけることを目指す。

『学修成果の評価方法』

人文学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っている。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげている。

文理融合学部

【経営学科】

文理融合学部経営学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

1990 年代から始まったグローバル資本主義の時代において、情報ツールは企業経営にとって、必要不可欠なツールとなっている。このような情報ツールの適切な使用法を学ぶことは経営学科の教育課程・学修課程において肝要であるという認識のもと、学部共通科目として、情報系の科目群を初年次教育において設定している。経営学のより一層の理解のために、その学問的基礎であり、あるいは関連する分野でもある経済学、政治学、社会学等の社会科学の基本的科目群を、学部共通科目として設定して、初年次教育において学べるようにしている。これにより、文理融合の複合的視点、マネジメント力、問題を解決するための基盤を育成する。

「企業経営科目」では、初年次に「経営学」、「経営管理論」等の基礎的科目を徹底的に学ぶ。その土台の上で、主として2年次以降に、企業経営分野の高度な応用科目を学ぶ。この応用科目を通して、経営組織及び経営戦略等に関わるレベルの高い経営学的知識・ツールを獲得する。企業経営分野の基礎を学んだ上で、一方で、同じく主として2年次以降に、その応用としての「スポーツビジネス科目」を学んだり、「アグリビジネス科目」を学んだりすることができる。

経営学科では、企業が収益を上げるにはどうすればよいのかを主として学ぶが、21 世紀型の経営では、収益面だけではなく、社会的人権の尊重、地球環境への配慮、生物多様性の保護が大事である。社会面、環境面に配慮した文理融合的視点が求められている。このような視点に立った科目、例えば、企業経営分野の「ビジネス倫理学」、アグリビジネス分野の「地域生物資源論」等の科目を3年次等に用意している。

経営学科の学科科目は、「企業経営科目」、「スポーツビジネス科目」、「アグリビジネス科目」、「ゼミナール科目」群から構成されている。それぞれの科目に、シラバス等で学修の到達目標が明示されており、どのような力を修得するかを学生は理解することができる。ゼミナールは、初年次教育として、入門ゼミナールがあり、高校から大学への移行がスムーズに行えるような科目を配置している。この入門ゼミナールは、教養教育科目とし

て配置しているが、専門学科の教員が担当する。

以上の学びをとおして、複合的な視点から経済的利益だけでなく、社会利益と環境的利益を考える専門的知識・技術を身につける。

3年次から4年次にかけての「ゼミナール1・2」、「卒業研究1・2」は、専門課程の集大成として位置付けられ、最終的かつ総合的な学修の成果が評価される。これらの学修を通して、理論と実践の融合を目指し、能動的・主体的に自ら経営手法を考え、他者と協働しながら、文理融合的な複眼的視点で、企業・社会・国家経営に果敢に取り組む能力を養成する。

『学修成果の評価方法』

ディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【地域社会学科】

文理融合学部地域社会学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

地域社会学科で学ぶ学科目は、「地域ソリューション科目」、「理工系基礎科目」、「人文社会系基礎科目」、「地域社会基礎科目」、「地域観光科目」、「心理・広報メディア科目」、「ゼミナール科目」から構成される。観光、心理・広報メディアに関わる分野の科目については、基礎的科目から応用と専門性の高い科目まで、それぞれの学科目をバランス良く一貫して体系的に学べる教育課程となっている。

初年次には、学びの基礎として文理融合学部の学部共通科目である「地域ソリューション科目」の「情報リテラシー」、「情報処理入門」、「阿蘇の自然と農業」、「九州の文化と観光」等に加え、文理融合の礎を築くための「理工系基礎科目」として「コンピュータ概論」、「プログラミング入門」、「微積分学」、「人文社会系基礎科目」として「社会学概論」、「心理学概論」、「経営学概論」、「経済学概論」等を学科の基礎科目として学ぶ。これらの学科目の科目は2年次まで開講され、文理融合の複合的視点、マネジメント力、問題を解決するための基盤を育成する。

これに加えて、観光、心理・広報メディアの各分野のスタートとしての基礎的知識を養うため「観光学概論」、「観光地域づくり論」、「メディア社会論」、「社会心理学」等を学科の専門科目として学ぶ。また、論理的思考法、レポートの作成の仕方、プレゼンテーションの仕方を「入門ゼミナール」を通して身に付けるように指導する。さらに、1・2年次においては、観光分野では実際の旅行業務に関連する旅行業務科目を学んで将来の観光関連の資格取得に備え、心理・広報メディア分野では社会心理の基本概念や情報発信力の基礎を養うための実習科目を学ぶ。

2年次にかけて、「地域社会基礎科目」で地域社会の理解とその調査法の基礎を専門的に学ぶ。「地域観光科目」では実際の旅行業務に関連する旅行業務科目を学んで将来の観光関連の資格取得に備え、「心理・広報メディア科目」では社会心理の基本概念や情報発信力の基礎を養うための実習科目を学ぶ。つづいて3年次にかけて、「地域観光科目」では、最先端の観光に関わるマーケティングや経営、政策等について学ぶことで、時代の変化に対応した能力を養うとともに、観光研修で観光と異文化について現地で学び、グローバルな思考も養う。「心理・広報メディア科目」では、社会心理と臨床心理の両面から心理に関する項目や映像、Web、広告等のより専門性の高い知識と技術を学ぶ。また、「心理・広報メディア科目」も「地域観光科目」の観光研修系科目と連携して、現地の資源や異文化を題材として実践力を養う。2年次から3年次の学びにより、専門知識・技術による「総合的な視点」をもって問題解決に取り組む力を育成する。

1・2年次に開講される「地域ソリューション科目」、「理工系基礎科目」、「人文社会系基礎科目」、2・3年次で開講される「地域観光科目」と「心理・広報メディア科目」の

各種専門科目を初年次から継続的に学ぶことで、文理融合の複眼的視点による各分野の専門知識と技術を修得する。

3・4年次に開講される「専門ゼミナール1」、「専門ゼミナール2」、「卒業研究1」、「卒業研究2」では、学修の最終段階として自らの学びの成果を論文や作品の形で完成させる過程を通じて、「持続的な視点」をもって活動を継続していく力を備え、「高度情報化社会における持続可能な近未来地域づくり」をどのようにデザインしていくかという創造力を養うとともに、近未来の地域づくりをプロデュース・マネジメントしていこうとする姿勢を涵養する。

『学修成果の評価方法』

地域社会学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【人間情報工学科】

文理融合学部人間情報工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

人間情報工学科の学科目は、「地域ソリューション科目」、「理工系基礎科目」、「人文社会系基礎科目」、「工業科教育科目」、「電気電子工学系基礎科目」、「知能情報系科目」、「人間環境系科目」、「医療工学系科目」、「ゼミナール科目」から構成されている。この教育課程では、情報工学と医用工学を教育の柱とし、それらの基礎から応用までの科目がバランスよく体系的に配置されている。

初年次には、文理融合の複眼的な視点とマネジメント力、問題解決のための基盤を育成するために、「地域ソリューション科目」、「人文社会系基礎科目」、「理工系基礎科目」で、自然・文化・環境・情報処理・データ解析・人工知能について幅広く学ぶ。これらの学科目は2年次まで開講され、文理融合学部としての基盤を構築する。これに加え、「電気電子工学系基礎科目」で専門の基礎を学ぶ。さらに、1・2年次では、各種実験・実習科目を配置し、実際の現象の観察、機器の製作や取り扱い等を通して基礎知識の定着を図る。なお、臨床工学技士を目指す学生に対しては、「医療工学系科目」の基礎的なものを開講しており、例えば、「医用生体工学概論」や「医学概論」等で、医療に携わる者としての心構えや、資格取得に向けた意識付けを行う。

専門性の高い科目は2・3年次を中心に配置されており、基礎的科目で得た知識と技術を活かして、「知能情報系科目」、「人間環境系科目」、「医療工学系科目」の各専門分野の学科目についてより深く学び、人（および生体）と環境に関する情報を収集・分析・応用できる高度な専門知識と技術力を育成する。

3・4年次に開講される「ゼミナール」、「卒業研究1」、「卒業研究2」では、学修の最終段階として、高度な知識と技術を融合させ、「生活の利便性・快適性」、「健康の維持・増進」、「自然の保護・保全」の3つの視点から理想的な地方の暮らしを考え、それを具現化する工学的なシステムを構築できる倫理観と能力を養成する。

『学修成果の評価方法』

人間情報工学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

農学部

【農学科】

農学部農学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本学科では、専門学修へ円滑な橋渡しを行うため「学部共通科目」を通じて、学部や学科の教育課程や学術研究に対する理解、キャリア意識の形成、実験科学の基礎の修得、情報に関するリテラシーの養成、農学的視野の拡大と農学的基礎知識や技術を応用する力の養成を意図しています。あわせて「入門ゼミナール A・B」で、大学での専門学習に向けた基本姿勢と基本技術を学び、クラスの仲間との集い力を培います。

その上で、教育分野として食用作物・園芸作物の特性や栽培、遺伝育種学や病害虫防除に加えて環境や土壌肥料に関する分野を設け、作物に関する幅広い知識の修得と、環境に大きな負荷をかけない持続可能な農業の必要性についての理解を図ります。これらの学問領域については、1 年次開講の「自然科学関連科目」を基礎として、1、2 年次では専門科目の導入分野として位置付けられる「学科基礎科目」が開講されます。さらに、2、3 年次では先端の情報を交えながらそれぞれの分野を深く探求できる「学科応用科目」を履修します。また、実学を重視する立場から、「学科基礎科目」及び「学科応用科目」の一環として、土壌、植物及び昆虫を対象とする農学実験・農学実習を履修し、自らの体験を通じて各専門分野の知識や技術をより深く理解し、課題を解決する能力を養成します。特に3 年次で履修する「農学特別実験実習 1・2」では、研究室ごとの少人数教育で先端の専門的な知識と技能を習得します。

また、3 年次及び4 年次においては、研究室ごとの少人数教育で「学科総合科目」である「農学英语購読 A・B」を履修し、農学分野の英語文献を講読します。

最終年次である4 年次では、3 年次までに習得した知識や技術を基礎として、1 年を通じて「学科総合科目」である卒業研究等に積極的に挑み、課題の設定、目的、材料と方法、結果や考察のとりまとめ等、仲間と切磋琢磨しながら総合力を習得します。最終的には卒業研究の成果を分かりやすく発表するとともに残された課題について、自らの考えを分かりやすく表現できる力を身に付け、卒業後にどのような課題にも対応できる問題解決能力と向上心や協調性を併せ持つ人材の育成に資する人物となるよう教育目標を設定しています。

なお、教員免許状の取得を目指す学生は「教職科目」も履修します。

『学修成果の評価方法』

農学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPA による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等をとおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

【動物科学科】

農学部動物科学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本学科では、「学部共通科目」を通じて、学部や学科の教育課程や学術研究に対する理解、キャリア意識の形成、実験科学の基礎の修得、情報に関するリテラシーの養成、農学的視野の拡大と農学的基礎知識や技術を応用する力の養成を意図しています。

本学科では、「動物生命科学関連科目」により動物の体内で生じている現象やそのメカニズムについて学び、その知識を生命現象の解明に役立てていく力を培います。また、「動物飼育・生産科学関連科目」を通じて動物の改良や飼育方法を科学的に学ぶとともに、畜産物の適正な生産について創造する力を養成します。加えて、これらの知識と理解を基に「動物フィールド実習関連科目」を通じて、実際に動物を扱い、適正に飼育するための理論と技術を実践的に身に付けます。さらに、生産された畜産物をより価値を高め、安全に加工するための理論と技術を「食品科学関連科目」を通じて修得します。

一方、上記の科目群で学んだ内容を基礎に、「人と動物の関係学関連科目」を通じて、伴侶動物、野生動物、実験動物、動物園動物等、家畜以外の動物についての知識も深め、これらの動物と人との新しい関係を創造し実践する能力を養成します。

これらの科目群と平行し、初年次から4年次までを通じて段階的に開講される「応用動物科学総合科目」を通じて、動物科学の社会的意義を理解した上で科目群間の相互的かつ体系的関連性を考究するとともに、自主的学習能力や問題解決能力を醸成し、社会に役立つ理論や技術を創造し実践する力を総合的に養成します。

本学科の教育課程は、4年間を通じた繋がりのある学習経験が積めるよう段階的に体系化され、「自ら考え」、「周囲と協力して取り組み」、「新しいことにチャレンジ」、「1つのことを最初から最後まで成し遂げる」ことを意図したアクティブラーニングを可能な限り活用し、批評的、論理的、創造的、省察的、実践的に思考し活動するための力を身に付ける教育を実施します。

『学修成果の評価方法』

動物科学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【食生命科学科】

農学部食生命科学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本学科では、「学部共通科目」を通じて、学部や学科の教育課程や学術研究に対する理解、実験科学の基礎の修得、情報に関するリテラシーの養成、農学的視野の拡大と農学的基礎知識や技術を応用する力の養成を意図としています。

本学科では、「食品科学関連科目」により、食品がどのようにして作られ、食べ物の成分が人の健康とどのように関係して影響を与えるのかを科学的に学び、食品についてライフサイエンスの視点から考える力を培います。また、「生命科学関連科目」を通じて、生物（動物・植物・微生物）の生命現象について、化学的、生態学的、分子生物学的に基礎から応用までを学び、生命現象を科学的に理解できる基礎力を養成します。

これらの知識と理解を基に「食生命科学基礎科目」においては、食健康科学・予防医学分野、発酵・食品加工学分野、生命科学分野の各実験を通し、専門的な実験理論や分析技術を実践的に身に付けます。また、実際に肉加工品、乳加工品、農産加工品等の食品製造に関する実習を通して加工技術を学び、食品製造の基礎となる食品科学についての理解を深めます。

一方、上記の科目群と並行して、「自然科学関連科目」では低学年からの学習により、自然科学を学び、科学的思考力の基礎を身に付けることで、生命現象を扱う授業の理解を深めることにつなげていきます。また、「農学分野関連科目」を通して幅広い農学的知識を学ぶことにより、生物生産から食品へ、食品から健康へといった本学科の教育の流れをより体系化することを可能とします。

さらに、これらの科目群に加え、高学年から段階的に開講される「食生命科学総合科目」では、最新のバイオテクノロジー技術の修得を通し、食品科学と生命科学における専門知識と新しい技術の理解を深め、それらの内容を社会に役立つ理論や技術力として総合的に応用できる能力を養成します。

『学修成果の評価方法』

食生命科学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

国際文化学部

【地域創造学科】

国際文化学部地域創造学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本学科の専門教育では、学部・学科のディプロマ・ポリシーを実現するために、社会・経済コース、健康スポーツコース、デザイン・建築コースの3コースを設置します。

- 初年次教育

本学科では、学科での学修を円滑に進められるよう初年次教育に相当する「入門ゼミナールA・B」を開講し、学科のディプロマ・ポリシーに対する理解促進と文章作成、図書館利用といった学修に必要な要素に対する理解を図ります。

- 学部共通科目

学部共通科目として、「国際関係論」、「スポーツ文化」、「デザイン文化史」といった学科の分野を超えた授業科目を開講することに加え、学部が設置されている北海道という地域から国際文化を学ぶ目的から、「アイヌの文化」を同じく学部共通科目として開講します。さらに、学部独自のキャリア教育科目として、「インターンシップ」を増設し、環境適応力や人間関係構築力を育成する一環として、キャリア教育を通じた学びを強化します。

- 専門教育

学科の専門教育としては、上記3コースに共通で本学科で学ぶ上で必要な基礎的知識を修得する目的で、「地域創造学科基幹科目」を設置し、政治学、経済学、社会学に関する講義を選択必修科目として開講します。

3つのコースでは、それぞれ社会・経済、健康スポーツ、地域とデザインの関わりに関する専門分野の講義科目(選択科目)を開講し、基幹科目の学修を通じて培った知識の応用力を養います。

本学科の専門教育には、3つのコース共通に「実践科目」を開講し、フィールドワークとインターンシップを単位化し、学部の教育方針である「フィールド指向の実践的教育」を展開します。

本学科の専門教育は、3年次から4年次にかけて毎学期開講される「ゼミナール科目」において集大成することになります。ゼミナールの研究成果は「卒業研究」にまとめ、その卒業研究は、卒研発表会を実施し、ディプロマ・ポリシーに基づいて最終的かつ総合的に評価します。

『学修成果の評価方法』

地域創造学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【国際コミュニケーション学科】

国際文化学部国際コミュニケーション学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

本学科の専門教育では、学部・学科のディプロマ・ポリシーを実現するために、外国語キャリアコースと国際理解コースの2コースを設置します。

- 初年次教育

本学科では、学科での学修を円滑に進められるよう初年次教育に相当する「入門ゼミナールA・B」を開講し、初年次1年間をかけて、学科のディプロマ・ポリシー

に対する理解促進と文章作成、図書館利用といった学修に必要な要素に対する理解を図ります。

- 学部共通科目

学部共通科目として、「国際関係論」、「スポーツ文化」、「デザイン文化史」といった学科の分野を超えた授業科目を開講することに加え、学部が設置されている北海道という地域から国際文化を学ぶ目的から、「アイヌの文化」を同じく学部共通科目として開講します。さらに、学部独自のキャリア教育科目として、「インターンシップ」を増設し、環境適応力や人間関係構築力を育成する一環として、キャリア教育を通じた学びを強化します。

- 専門教育

本学科の専門教育では、上記2コース共通で、英語運用能力育成の基礎として、TOEIC や TOEFL 試験対策にも対応した「英語スキル科目」を開講し、英語4機能(聞く、話す、読む、書く)に関連する授業科目を学科全体の選択必修科目として開講します。

外国語キャリアコースでは、「英語応用科目」と「コミュニケーション科目」(いずれも選択科目)を学修することにより、英語を使って仕事を成し遂げる力を育成します。加えて、北海道と往来の多い中国、韓国、ロシアの言語を「各国語」科目として開講します。

国際理解コースでは、英語以外の外国語運用能力の育成に加え、異文化理解力を育成するために「国際地域系科目」を開講します。

本学科の専門教育には、2つのコース共通に「フィールド系科目」を開講し、本学部のディプロマ・ポリシーである国境なき社会人育成の実践的教育に当たるフィールドワーク、パブリックワーク、アカデミックコーチングを単位化し、学部の教育方針である「フィールド指向の実践的教育」を展開します。

本学科の専門教育は、必修科目「ゼミナール」と「卒業研究」において集大成します。3年次のゼミナールでの研究成果を4年次に卒業研究へと発展させ、卒研発表会を実施し、ディプロマ・ポリシーに基づき、学修成果を総合的に評価します。

『学修成果の評価方法』

国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

生物学部

【生物学科】

生物学部生物学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

生物学部は、陸上と海洋の生物を対象とし、実験系分野とフィールド系分野をともに有しています。そして、生命・自然に関する文理融合の学際的知識と専門知識・技術を主体的・複眼的に活用して、課題に自ら取り組み解決する能力の育成を目指します。学部共通科目はこのうち「文理融合の学際的知識」の養成に主に関わり、教養教育として「生命倫理」「科学英語」を選択科目として開講し、さらに「統計・データ分析法」といった理系のリメディアル科目も置いています。キャリア教育としての「インターンシップ」は、大学のキャリア支援部局との協働により実施されます。その他、生物学部共通に主専攻科目として、「生物学」「化学」「物理学」「数学」等の理系の基盤となる講義科目と実験科目、情報、教職関係科目も開講しています。また初年次教育としての「入門ゼミナールA」「入門ゼミナールB」では、大学での学習環境・習慣に早く慣れ、大学独特の学修方法を

知る内容となっています。

生物学科では、分子・細胞レベルから個体群・生態系レベルに至る広範な生物学と生物に関する広範な領域の知識と技術を習得するために、専門教育のカリキュラムを生命科学系と自然生態系に体系化して構成し、各自の学習過程を認識しやすく配置しています。また、「卒業研究1」「卒業研究2」そして各学年での演習やゼミナールの科目により学修成果の確認をすることができます。このように生物学科では4年間を通じて、能動的学修につながる科目体系を構築しています。

【生命科学系】は、分子生物学、細胞科学、バイオテクノロジー等の分野の科目で構成され、それらの専門知識を修得する講義科目と実験系の分析技術を修得する実験科目が設定されています。講義科目は「生体物質の化学」「細胞生物学」「遺伝子とタンパク質の科学」「分子生物学」「遺伝子工学」「微生物学」「動物細胞科学」「食品科学」などを配置し、生物学の基礎と応用を学習します。実験科目は2年次に「生物学専門実験1」「生物学専門実験2」で実験の基本技術を修得した後、学生の興味に応じて、「生化学実験」「分子遺伝・分子生物実験」「環境科学実験」を履修することで、より高い専門性を身につけます。

【自然生態系】は、生態系を構成する動物、植物などの役割や生活、その生息分布や行動生態などについてフィールド中心の実践的な学習を行います。現在、色々な動物や植物の減少と絶滅が各地で危惧され、生物多様性保全の重要性が謳われています。自然と人間の調和のとれた共存の姿が求められていますが、それは、生物それぞれの種の生態や生活を調べることから始まります。講義科目には「北海道の野生生物」「基礎生態学」「北海道の環境と保全」などの科目で基礎知識を確実なものとし、「動物生態学」「植物系統分類学」「野生生物調査法」などの科目で広い分野の知識を得、実習科目では、2年次に「生物学専門実験1」「生物学専門実験2」で調査の基本技術を修得した後、「分子系統学解析実習」「野生生物調査実習」「亜熱帯生態系フィールド実習」「亜寒帯生態系フィールド実習」などの科目で、自然の中での多様な動植物生態について調査研究での取り扱いについて学びます。

生物学科では、これらの科目についての学修順序、科目学修分野、学修時期（推奨セメスター）などについての指標をカリキュラムマップとして提示しています。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

【海洋生物科学科】

生物学部海洋生物科学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

生物学部は、陸上と海洋の生物を対象とし、実験系分野とフィールド系分野をともに有しています。そして、生命・自然に関する文理融合の学際的知識と専門知識・技術を主体的・複眼的に活用して、課題に自ら取り組み解決する能力の育成を目指します。学部共通科目はこのうち「文理融合の学際的知識」の養成に主にに関わり、教養教育として「生命倫理」「科学英語」「統計・データ分析法」を開講します。キャリア教育としての「インターンシップ」は、大学のキャリア支援部局との協働により実施されます。その他に主専攻科目として学部共通に、「生物学」「化学」「物理学」「数学」等の理系の基盤となる講義科目と実験科目、教職関係科目も開講しています。また初年次教育としての「入門ゼミナールA」「入門ゼミナールB」では、大学での学習環境・習慣に早く慣れ、大学独特の学修方法を知る内容となっています。

海洋生物科学科では、「海を知り、海を活かす」ため、北海道の豊かな自然を利用した教育が展開されます。①海洋や河川の生物について知り、②海洋や河川の生態系と環境に

について調べ、③海洋や河川の水産資源を維持し増やし、④水産資源を利用するための内容です。その知識と技術を習得するために、専門教育のカリキュラムを環境・生態科学系と水産科学系に体系化して構成し、各自の学習過程を認識しやすく配置しています。また、両系に共通基礎科目として「海洋生物科学フィールド実習」「海洋生物の調査・分析法」「理系のための文章表現」などを設置し、共通発展科目として「卒業研究入門」「水産・海洋の職業」などを、研究発展分野として「ゼミナール」「卒業研究」などを設置しています。2つの系は相互に関連・融合し、水産業に将来携わる場合にも水圏生態系や水圏環境に関する知識を活かして活躍できる人材の養成を展望しています。

【環境・生態科学系（海を知る）】は、海や河川・湖沼の生態系について学ぶとともに、水の化学成分や波・流れなどの環境を調べる方法を修得するように構成され、それらの専門知識を修得する講義科目と実験系の技術を修得する実験科目が設定されています。基礎分野としては「海洋物理」「海洋化学」「海洋生態学」「河川生態学」「亜熱帯海洋フィールド実習」「亜寒帯海洋フィールド実習」などを配置し、発展科目としては「生物海洋学」「浮遊生物学」「生物多様性学」「海洋堆積学」「沿岸環境学」「浮遊生物学実験」「河川生態学実験」「海洋化学実験」「沿岸環境学実験」などを開講し、海洋環境・生態系の専門性を身につけます。また、「水族館学」を開講し、博物館や水族館などの展示施設で活躍できる人材を育成します。

【水産科学系】は、水産生物のからだの構造や仕組み、進化と体系とともに漁場造成や種苗生産、資源管理など、水産生物の増殖や管理方法を学びます。また、水産物の加工法や流通についても学び、海を活かす技術を培います。基礎分野としては「魚類学基礎」「水産生物学」「大型海洋動物学」「野外調査実習（フィッシング）」などを配置し、発展分野としては「魚類体系学」「魚類生理・生化学」「海洋哺乳類学」「底生生物学」「水産資源学」「水産増殖学」「食品流通・管理学」「魚類体系学実験」「水産生物学実験」「魚類生理・生化学実験」「大型海洋動物学実験」「水産資源学実験」などを開講し、水産生物や水産技術、食品流通の専門性を身につけます。

海洋生物科学科では、これらの科目についての学修順序、科目学修分野、学修時期（推奨セメスター）などについての指標をカリキュラムマップとして提示しています。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：各学部学科ページに記載

<https://www.u-tokai.ac.jp/education-research/undergraduate-department/>)

（概要）

文学部

【文明学科】

『求める学生像』

文学部文明学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

人類の歴史と文化の多様性を踏まえつつ、自らの問題意識に即して現代社会の諸問題を的確に捉え、論理的に分析・考察し、様々な表現形式を通じて積極的に発信していく能力をもつことが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

現代社会の変動を見極めながら、独自の観点を持ち、また現代社会に存する多様な価値観を尊重しながら積極的にコミュニケーションをはかり、主体的に社会と関わっていく態度をしめすことが望ましい。

【歴史学科 日本史専攻】

『求める学生像』

文学部歴史学科日本史専攻の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科では、文系の学問を学ぶ上で必要な論理的な思考力を身につけるとともに、自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

日本史上のさまざまな歴史事象を体系的に理解し、論理的に思考するために、人文科学や社会科学などの広範な知識を総合的に思考して判断し、その成果を適切な方法で表現する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

歴史的な視点で現代社会の課題を捉え、よりよい社会の構築に関与するために、多様な価値観を尊重し、豊かな人間関係と協調性とを育みながら、学修や社会活動などに主体的に取り組む態度が期待できること。

【歴史学科 西洋史専攻】

『求める学生像』

文学部歴史学科西洋史専攻の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）

の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及びそれらの発信ができることが望ましい。特に、現在の社会や科学技術がいかなる歴史的過程を経て形成されたかという思考に基づいて発信できることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的な人間関係を構築できること、物事に対して主体的に取り組む態度、及び失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする忍耐力をもつことが望ましい。

【歴史学科 考古学専攻】

『求める学生像』

文学部歴史学科考古学専攻の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校までに学ぶ基礎的な文法を習得し、そのうえで高校段階までの十分な文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことを望みます。

国語では、高校での国語の履修を通して、高校段階までの十分な文章理解力、文章表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことを望みます。

社会では、高校での社会（日本史、世界史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることを望みます。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることを望みます。

(2) 思考力・判断力・表現力

自らの先入観にとらわれず、知識や思考の幅を広げることに旺盛な意欲を持ち、論理的な思考による問題解決能力の向上に努力を惜しまない人であることを望みます。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

人間を理解しようとする広い視野を持ち、他者との対話に積極的であること、また、自己に対しては自省的であり、忍耐力と社会性を兼ね備えること、こうした人材像に共鳴する人であることを望みます。

【日本文学科】

『求める学生像』

文学部日本文学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

国語では、高校の国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。読書習慣を持っていることが望ましく、主体的に日本語・日本文学に日頃より親しむ姿勢が望まれる。

英語では、高校の英語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケ

ーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

日本語・日本文学を論理的に分析・考察するために、日本文化全般や現代社会における様々な問題を総合的に思考し判断する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

日本語・日本文学に対し様々な角度から考察・分析し、学びにおいても他者と協力し、学んだ成果を積極的に他者に対して発信することへの意欲を期待できること。

【英語文化コミュニケーション学科】

『求める学生像』

文学部英語文化コミュニケーション学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語力の文章理解力、表現力、コミュニケーション力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

世界に存在する多様な文化や価値観を自ら主体的に学び、また自分の考えや判断を自らの言葉で表現し、他者に伝わるように構成し発信するための工夫や努力を主体的に行えることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

英語圏の文化を含め、世界に存在する多様な文化や価値観の違いを尊重する開かれた態度を持ち、友好的な人間関係を構築できること、物事に対して主体的に取り組む態度、及び失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする忍耐力をもつことが望ましい。

文化社会学部

【アジア学科】

『求める学生像』

文化社会学部アジア学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人物。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人物。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

国語については、高校での履修を通して基本的な読解力と文章作成能力を養っておくことが望ましい。

社会については、高校での履修を通して、歴史の見方や世界の地理について基礎的な知識を身につけるほか、政治・経済、倫理、現代社会への関心を深めておくことが望ましい。

英語については、高校での履修を通して、基礎的な文法はもちろんのこと、積極的にコミュニケーションを図っていく姿勢を身につけておくことが望ましい。

数学・理科については、高校での履修を通して合理的、論理的な思考、判断の大切さについて理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

論理的にものごとを考え判断し、豊かに表現していくことが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

とくにアジアについて学ぶことを前提として、多様な価値観を理解し、友好的な人間関係のもとで協力して困難な課題に対して果敢に挑戦していくことが期待できること。

【ヨーロッパ・アメリカ学科】

『求める学生像』

文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。とりわけ、世界史については、高校の世界史の履修を通じてヨーロッパとアメリカの歴史の知識を身につけておくことが望ましい。

数学及び理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

ヨーロッパ・アメリカに関する歴史・文化・社会に対して幅広い関心を持ち、それらに関する知識を応用して、ものごとを判断し、表現することが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

グローバルな志向性を持ちながら、積極的にものごとに挑戦し、多様な価値観を持つ人々との共生の道を探ることが期待できること。

【北欧学科】

『求める学生像』

文化社会学部北欧学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現

代社会)の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

広い視野と柔軟な発想力、批判的考察力を身につけるために、ものごとを総合的に思考し判断をくだす力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

めざすべき共生社会の一員として多様な価値観を受容し、自らの生き方や社会との関わり方を主体的に構想することが期待できること。

【文芸創作学科】

『求める学生像』

文化社会学部文芸創作学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文系の知識・技能を総合して応用できること、特に文学を含む芸術全般に対する深い理解を有してそれらを表現することが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的な人間関係を築くことができること、それらの力を優れた文学を含む芸術作品に接することで会得することが期待できること。

【広報メディア学科】

『求める学生像』

文化社会学部広報メディア学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

メッセージの社会的価値（政治的・経済的・文化的価値など）を理解するために、さまざまなメディアを比較検討して意見の多様性を総合的に見極める力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

メディアの違いや立場の多様性を理解し、他者との対話やコミュニケーションを大切にしながら、問題意識を持って主体的に取り組むことが期待できること。

【心理・社会学科】

『求める学生像』

文化社会学部心理・社会学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での地理歴史および公民の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

現代社会の仕組みとそこで生きる人間の課題を理解するために、心理学、社会心理学、社会学などの各専門分野の知識を総合的に思考し、自らの問題意識に即して判断する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

現代社会と人間の課題に主体的に取り組み、多様な価値観や立場・役割を理解して、共生という社会関係の構築に積極的に貢献しようとする姿勢が期待できること。

教養学部

【人間環境学科】

『求める学生像』

教養学部人間環境学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校の英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校の国語の科目の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

理科では、高校での理科（生物、化学、物理、地学）の科目の中から選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

人間を取り巻く環境について基本的知識を理解し、持続可能な社会に向けて SDGs

に関連する広範な知識を総合的に習得し、思考し判断する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して働く態度

多様な価値観を理解し、良好な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする事が期待できること。

【芸術学科】

『求める学生像』

教養学部芸術学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語科目の履修を通して、英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語科目の履修を通して、日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

芸術については、音楽か美術かデザインの少なくとも一つの専門内容に関する基礎的な知識や実践能力を身につけておくことが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

身体を通した実体験から思考しようとする意欲(身体指向)。

現代社会で求められる芸術の役割を、常に模索し判断しようとする意欲(社会指向)。

自身の成果を、他者に、社会に呈示(表現)しようとする意欲(発表指向)。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

自身の適性を自覚し、それに合った専門能力を自ら磨く意欲を持ちながらも、芸術の他の分野領域にも興味を持ち理解し、他分野の仲間達とも協働して創造しようとする姿勢。

児童教育学部

【児童教育学科】

『求める学生像』

児童教育学部児童教育学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校の英語の科目の履修をととして英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修をととして日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学（1A、2B）及び理科（生物、化学、物理）の中から選び、自然科学的な知識

を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらを発信できることが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、良好な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする事が期待できること。

体育学部

【体育学科】

『求める学生像』

体育学部体育学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語あるいは、数学のいずれかについては、次のことが望まれます。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

また、体育学科では、体育・スポーツ指導に必要な基礎的な実技能力を身につけておくことが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

体育・スポーツに関する諸問題を人文社会科学、自然科学の学問を用いて理解するために、文系・理系に偏ることない知識を持ち、柔軟な思考力と総合的な判断力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

身体運動の実践と体育・スポーツ科学の探求に関して、多様な価値観と自分自身の役割を理解し、様々な人々や組織と協調して主体的に取り組むことが期待できること。

【競技スポーツ学科】

『求める学生像』

体育学部競技スポーツ学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語あるいは、数学のいずれかについては、次のことが望まれます。

国語では、高校での履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

また、競技スポーツ学科においてその専門性をより高めるために、基礎的な運動技能を有していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

競技スポーツを通じて、自己の競技力向上に留まらず、アスリート、コーチ、トレーナーの広範な知識や技能を総合的に思考し判断できる素養を持ち、スポーツ界をリードできる表現力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

競技スポーツを学ぶ者として、多様な価値観や他者との関係性を理解し、自らの活動を通して主体的に社会に貢献しようとする意欲と能力が期待できること。

【武道学科】

『求める学生像』

体育学部武道学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語あるいは、数学のいずれかについては、次のことが望まれます。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

また、武道学科では、学科の専門内容に関する実技能力を身につけておくことが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

体育・スポーツ科学、武道に関する諸問題について、広い視野から総合的に物事を思考し判断する力、また筋道を立てて自己の考えを表現する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

体育・スポーツや武道の実践を通して多様な価値観を容認し合い、その活動に対して意欲的に取り組んだり、失敗や挫折を乗り越えて目標達成のために努力したりする力が期待できること。

【生涯スポーツ学科】

『求める学生像』

体育学部生涯スポーツ学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語あるいは、数学のいずれかについては、次のことが望まれます。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

特に生涯スポーツ学科では、生涯スポーツ社会の実現や健康づくり運動など学科の専門内容に関する基礎的実技能力を身につけておくことが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

生涯スポーツを通じて目指す健康で安全な社会の姿と諸問題を理解するために、柔軟な思考力と総合的な判断力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

体育・スポーツ科学を学ぶ者として、価値観の多様性を受容し、生涯スポーツに関わる諸問題の解決に主体的に取り組む態度が期待できること。

【スポーツ・レジャーマネジメント学科】

『求める学生像』

体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人材及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語あるいは、数学のいずれかにおいては、次のことが望まれます。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

特に、スポーツ・レジャーマネジメント学科においては、その専門性をより高めるために総合的な英語力を有していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、総合的かつ科学的思考による経験を通じた判断力、及び、具体的に伝達できる発信力が期待できること。

また、個々人のライフスタイルに必要なスポーツ&レジャーをマネジメントすることによるクオリティ・オブ・ライフの向上に対する興味・関心を持ち、新たな知識・技能を積極的に実践できる力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を容認して友好な人間関係を築くことができ、その活動に対して効果的なマネジメントを図ることに努め、挑戦的に取り組むことができ、さらに活動時に生じる失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようと努力が期待できること。

健康学部

【健康マネジメント学科】

『求める学生像』

健康学部健康マネジメント学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校の英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが求められます。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが求められます。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済など）の科目の中から選択し、個々の項目の内容を理解していることが求められます。

数学と理科は、健康の総合性を理解する上で必要な自然科学的な知識として数学

(数学Ⅰ・数学Ⅱなど)及び理科(生物・化学など)を幅広く理解していることが求められます。

(2) 思考力・判断力・表現力

文系の知識・技能と理系の知識・技能のどちらかに偏ることなく学ぶことによって、健康と社会について、柔軟に思考・判断し、自らの考えを発信できることが求められます。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

様々な国や地域の文化から多様な価値観を理解する姿勢、目標達成のために良好な人間関係を築きながら挑戦的に取り組む姿勢が求められます。また失敗や挫折を乗り越えながら、自ら学ぶ意欲も求められます。

法学部

【法律学科】

『求める学生像』

法学部法律学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での地歴・公民の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能を総合して応用できること及びそれらの発信ができることが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観に寛容であり、インクルーシブな人間関係を築き、失敗や挫折を恐れず物事に挑戦しようとする意欲を有していること。

政治経済学部

【政治学科】

『求める学生像』

政治経済学部政治学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校(あるいはそれと同等レベル)での科目履修を通じて、文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校(あるいはそれと同等レベル)での科目履修を通じて、日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会の中から数科目）を通じて、政治、経済に関する内容の基礎を理解していることが望ましい。

数学および理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

政治・行政・国際社会で発生する様々な課題に対して自分なりに考え、どのような解決策が望ましいかを文系・理系の知識・技能を総合して判断し、適切に表現できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

グローバル社会における諸問題を解決するために、自ら積極的に物事に対して取り組み、多様な価値観を理解・共有して友好な人間関係を構築できること、および目標を実現するために継続的に努力すること。

【経済学科】

『求める学生像』

政治経済学部経済学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修を通じて、文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修を通じて、日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会の中から数科目）を通じて、政治、経済に関する内容の基礎を理解していることが望ましい。

数学および理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

経済現象や経済問題に関連した社会で発生する様々な課題に対して自分なりに考え、どのような解決策が望ましいかを文系・理系の知識・技能を総合して判断し、適切に表現できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

経済問題を解決するために、自ら積極的に物事に対して取り組み、多様な価値観を理解・共有して友好な人間関係を構築できること、および目標を実現するために継続的に努力すること。

経営学部

【経営学科】

『求める学生像』

経営学部経営学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校(あるいはそれと同等レベル)での科目履修を通じて、文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校(あるいはそれと同等レベル)での科目履修を通じて、日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校(あるいはそれと同等レベル)での科目履修(世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会の中から数科目)を通じて、政治、経済、経営に関する内容の基礎を理解していることが望ましい。

数学および理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

社会で発生する様々な課題に対して自分なりに考え、どのような解決策が望ましいかを文系・理系の知識・技能を総合して判断し、適切に表現できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

自ら積極的に物事に対して取り組み、多様な価値観を理解・共有して友好な人間関係を構築できること、および目標を実現するために継続的に努力すること。

国際学部

【国際学科】

『求める学生像』

国際学部国際学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校(あるいはそれと同等レベル)での科目履修を通じて、文章理解力、表現力、コミュニケーション力の基礎を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校(あるいはそれと同等レベル)での科目履修を通じて、日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション力の基礎を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校(あるいはそれと同等レベル)での科目履修(世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会)科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

世界の様々な文化や多様な価値観に対する許容力をもち、他の人の意見に耳を傾けるとともに自分の考えを表現できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

新しいことへの挑戦を恐れずに自ら積極的に物事に対して取り組み、多様な価値観を理解・共有して人間関係を構築できること、また目標を実現するために継続的に努力できること。

観光学部

【観光学科】

『求める学生像』

観光学部観光学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

日本および世界を取り巻く社会環境は日進月歩で変化しています。そのため、高校までの社会科学教育に加え、国内外の政治・経済などの時事問題に関心を持つことが大切です。また、グローバル化に対応した語学力（特に英語）および国際感覚を身につけることに積極的であることが求められます。

英語については、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけていることが望ましい。

国語については、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけていることが望ましい。

社会については、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から複数の教科を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、社会科学系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、社会科学系の知識・技能のみならず自然科学系および人文科学系の知識・技能を統合して応用できること、およびそれらの知識・技能を的確に発信できる能力が必要です。そのためにも多角的視点で考え、自ら判断して、第三者が理解できるようにわかりやすく表現する力を期待します。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、他者を認め、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする、社会の変化に柔軟に対応するしなやかさを持つことなどが期待できる人物であることが求められます。

情報通信学部

【情報通信学科】

『求める学生像』

情報通信学部情報通信学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して基礎的な英語の文章理解力、文章表現力、会話能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを利用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の科目の中から選択した科目について、その各項目の内容を理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

情報通信学の知識や技術を活用するだけでなく、文理融合の観点から、人文・社会科学系の知識・技能も総合して応用できること、および、それらの発信ができることが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

情報通信システムの開発、実装には、多くの過程があり、かつ多くの専門領域の

人々との協働作業が必要となる。情報通信学科ではプロジェクト実習でこれらの学修を進めるが、その際、多様な価値観を理解し、友好な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする事が期待できることが求められる。

理学部

【数学科】

『求める学生像』

理学部数学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

数学については、数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学Cを全て履修していることが必須である。さらにこれらの履修を通して計算方法や証明方法を習得するだけでなくそれらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

英語については、高校での英語の科目の履修を通して英語を使った文章読解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

理科については、「物理基礎・物理」または「化学基礎・化学」または「生物基礎・生物」または「地学基礎・地学」の少なくとも1つを履修しており、自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

国語及び社会については、標準的な知識を幅広く習得していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

代数学・幾何学・解析学・統計学の広範な知識を使い、総合的に思考し判断する能力を身につけることが期待できる素養があること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

数学的な視点から社会や自然の諸問題を考えるだけでなく、様々な価値観や立場・役割を理解し、物事に対して主体的に取り組むことが期待できること。

【情報数理学科】

『求める学生像』

理学部情報数理学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらの発信ができることが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好な人間関係を築くことができること、物事に対して

挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする
ことが期待できること。

【物理学科】

『求める学生像』

理学部物理学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学及び理科では、得意分野と不得意分野があまりなく幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

物理学では論理的に自然現象を理解することが重要である。1つの自然現象を様々な角度から論理的に考えることができる思考力、思考の結果として得られた答えが正しいかどうかを論理的に見極める判断力、自分の思考過程や結論を論理的にわかりやすく他者に伝える表現力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

実験などでは学生同士や学生と教員とのコミュニケーションも大切で、多様な価値観や立場・役割を理解し、物事に対して他者と協力しながら主体的に取り組むことが期待できること。

【化学科】

『求める学生像』

理学部化学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましいです。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましいです。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましいです。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましいです。

(2) 思考力・判断力・表現力

化学の知識を学び、物事に対する観察や洞察へ応用する力を養うこと、学んだ化学の理解や知識を基にして社会における問題を発見して解決することが期待できることです。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

化学を学ぶことを通じて、自分の考えを基にしながら相手の意見を必要に応じて取り入れて自らの意見をまとめあげること、社会で協調して生きる力を涵養することが期待できることです。

【情報科学科】

『求める学生像』

情報理工学部情報科学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

現代社会における情報科学の様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有している。

英語では、高校での英語の履修を通して英文法、文章読解、基礎的な英単語や熟語、リスニングを身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な読解力、表現力、文化的な知識を幅広く身につけていることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

数学や理科などの高校の科目を通して論理的思考能力を身につけておくことが望ましい。また、歴史や地理、倫理など高校の社会科目を通して物事の良し悪しを判断する力、国語や英語などを通して文章を正しく理解し実験で得た結果や自分の考えを正確に他者に伝えられる表現力があることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

高校のクラブ活動や委員会活動、ボランティア活動などを通して、他者の考えを聞き、また他者に自分の考えを伝え、ともに1つの目標達成に向けて協力しようとする態度を身につけておくことが望ましい。

【コンピュータ応用工学科】

『求める学生像』

情報理工学部コンピュータ応用工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

物事の原理や仕組みを論理的に思考する力、物事の良し悪しが判断できる力、それら自分の考えを相手に伝えられる表現力があることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

グループワークなどにおいて、他者の考えを聞いて理解し、他者に自分の考えを伝え、ともに一つの目標達成に向かって協力しようとする態度があることが望ましい。

【情報メディア学科】

『求める学生像』

情報理工学部情報メディア学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

物事を論理的に志向する力、物事の良し悪しが判断できる力、自分の考えを相手に伝えられる表現力があることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

他人とグループワークを行なう際などに、相手に自分の考えを伝え、また相手の考えを聞き、ともに1つの目標に協力しようとする態度があることが望ましい。

建築都市学部

【建築学科】

『求める学生像』

建築都市学部建築学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくこと。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくこと。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していること。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していること。

(2) 思考力・判断力・表現力

都市・建築空間創出のためには、文理融合の視点が必要。建築の専門知識のみならず、文系・理系の広範な知識を総合的に思考し判断する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観や立場・役割を理解し、自分と自分以外の人及び社会システムと健全な関係を築くことができ、都市・建築空間創出の活動に主体的に取り組むことが期待できること。

【土木工学科】

『求める学生像』

建築都市学部土木工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくこと。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくこと。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していること。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していること。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、土木技術に関係する理系と文系（経済学、社会学等）それぞれの知識や技能を総合して応用できること、及び、それらを表現できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

社会基盤整備に必要な市民との円滑な合意形成等のためにも多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くコミュニケーションができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする事。

工学部

【航空宇宙学科 航空宇宙学専攻】

『求める学生像』

工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（特に物理）について、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

これらに加え、コンピュータ・スマートデバイスを利用した基礎的な文書・資料作成や情報検索方法を身につけておくことが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

航空・宇宙に関連する様々な技術課題やその背景となる社会的問題の構造を理解するために、自然科学や社会科学などの広範な知識を総合的に思考し判断する力を持つことが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

総合工学である航空工学・宇宙工学においては世界とのかかわりが特に強く、多様な価値観や立場・役割を理解し、自分と自分以外の人及び社会システムと健全な関係を築くことが求められる。それを十分に理解しつつ、必要となるスキルの獲得・向上に努め、物事に対して主体的に取り組むことが期待できる人材が望ましい。

【航空宇宙学科 航空操縦学専攻】

『求める学生像』

工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻の教育目標を理解し、この目標を達成するために自

ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を十分に身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解しておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

航空技術からヒューマンファクターにおよぶ幅広い領域を理解するために、自然科学や社会科学などの広範な知識を総合的に思考し判断すると共に適切に表現する力を持つことが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観や立場・役割を理解し、自分と自分以外の人及び社会システムと健全な関係を築くことができ、また、目標に向かって確固とした意志をもって主体的に取り組み、かつ、チームでの協調的取り組みに積極的になることが望ましい。

【機械工学科】

『求める学生像』

工学部機械工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

高校卒業時における基礎的な学力が期待できること。

数学では、これまでに学んできている数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、これまでに学んできている理科（物理、化学、生物）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。特に、物理を選択していることが望ましい。

英語では、これまでに学んできている英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

機械工学の専門知識を理解するために、自然科学や科学技術などの広範な知識を総合的に思考し判断する力が期待できること。また、自らの考えを他者に的確に伝えられる表現力が期待できることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観や立場・役割を理解し、自分と他者及び社会システムと健全な関係を築くことができ、異なった分野の他者とも連携しながら、物事に対して主体的に取り組むことが期待できること。自ら問題を発見して課題を創出し、その課題に対して最後まで粘り強く取り組む姿勢が期待できることが望ましい。

【機械システム工学科】

『求める学生像』

工学部機械システム工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意

欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から物理を中心に数科目を選択し、個々の項目の内容のみならず、それらの繋がりを理解していることが望ましい。

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な読解と表現（コミュニケーション）能力と、文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

機械システム工学の専門知識を理解するために、数学や物理などの自然科学の知識やそれらを活用した科学技術などの知識を基に総合的に思考し判断する力が期待できること。また、他者に自らの考えを的確に伝えることができる表現力を持つことが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

機械システム工学に対して強い関心と学びに対する意欲があることが望ましい。また、様々な価値観、立場、役割を理解し、多様な人々と協働し、主体的に物事に取り組むことができることが望ましい。

【電気電子工学科】

『求める学生像』

工学部電気電子工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

電気工学、電子工学、情報・通信工学の基本的な知識を理解するために、自然科学の広範な知識を総合的に思考し判断する力が期待できることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

社会の一員として誠実に行動でき、目的に応じて必要な情報を取得し多様な考えを取り入れ、それを基に自分の考えをまとめ、目標に向かって主体的に取り組むことが期待できる人材が望ましい。

【医工学科】

『求める学生像』

工学部医工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

科学的根拠に基づく生体医工学の理解に必要な論理的思考力と判断力を持ち、医学と工学の境界領域を意識して学ぶために努力できる人材が望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

医工学科の教育内容は多様な周辺分野と関連するため、みずから進んで情報収集し、さまざまな人々と交流できる積極性を持つ人材が望ましい。

【生物工学科】

『求める学生像』

工学部生物工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

外国語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を履修し、個々の項目の内容のみならず、それらの繋がりを理解していることが望ましい。

国語及び社会科では、理系の学問を学ぶ上で定量的な議論や説明に必要となる読解力及び表現（コミュニケーション）能力と、文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

社会における生物学の役割を理解するために、培った知識・技能を活用し、自然科学や社会科学などの広範な知識を含め総合的に思考して判断し、さらには様々な問題に対する解決方法を模索できる人材が望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観やそれぞれの立場・役割を理解し尊重するとともに、他者や異なる社会システムと健全な関係を築くことができ、物事に対して積極的にかつ主体的に取り組むことが期待できる人材が望ましい。

【応用化学科】

『求める学生像』

工学部応用化学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。

ディプロマ・ポリシーで求められている能力を身に付けられる基礎学力を有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

外国語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から化学を中心

に数科目を選択し、個々の項目の内容のみならず、それらの繋がりを理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で定量的な議論や説明に必要となる読解と表現（コミュニケーション）能力と、文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

自然科学や社会科学、工業技術、環境・社会問題の構造を理解するために、学んだ広範な知識や技能を活用し総合的に思考して判断し、その解決方法を模索できることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観やそれぞれの立場・役割を理解し尊重するとともに、他者や異なる社会システムと健全な関係を築くことができ、物事に対して積極的にかつ主体的に取り組み、多様な人々と協働して学ぶ態度を持つことが望ましい。

医学部

【医学科】

強い使命感をもち、医学科の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

『求める学生像』

医学部医学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

他者の意見を傾聴でき、自身の知識・体験を通じて共感でき、相手を尊重しながら自身の考えを発信できる能力を身につけていることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

周囲と協調しながら、目標に向かって継続した努力や挑戦する姿勢を持てることが望ましい。

【看護学科】

『求める学生像』

医学部看護学科は、本学科の教育目的である「さまざまな健康レベルの人が、あらゆる生活の場で、その人らしく過ごすことを支援する看護が実践でき、温かな人間性をもつ専門職の育成」に共感し、自ら学ぶ意欲を持った人材を求めます。

『看護学科の入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

国語、数学、理科、社会の科目の知識を幅広く理解していることが望まれる。

国語及び英語では、高校での国語及び英語の履修を通して文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、そ

れらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の科目の中から複数科目を履修し、選択した科目の内容を理解していることが望ましい。

社会では、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

既に学び得た知識や技能を通して、社会に起こるさまざまなことに興味を持ち、考えを深め判断し、相手を尊重しながら自分の考えを発信できる能力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多くの学習を通して表現力を身につけ、多様な価値観や立場・役割を理解し、さまざまな人々と協調し、物事に対して主体的に取り組むことが期待できること。

海洋学部

【海洋理工学科 海洋理工学専攻】

『求める学生像』

海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましいです。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましいです。

英語では、高校での英語の科目の履修を通して文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましいです。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましいです。

(2) 思考力・判断力・表現力

海洋の社会的課題、海洋の環境問題など多様な事象を理解するために、自然科学や社会科学などの広範な知識を総合的に思考し判断しようとする力を有することを期待しています。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

海洋資源開発や環境アセスメント・コンサルタント、海洋土木、造船業界等で活躍するために必要な能力の修得を通して、多様な価値観や立場・役割を理解し、自分と自分以外の人および社会システムと健全な関係を築くことが可能で、物事に対して主体的に取り組む姿勢を有することを期待しています。

【海洋理工学科 航海学専攻】

『求める学生像』

海洋学部海洋理工学科航海学専攻の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、

それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

英語では、高校での英語の科目の履修を通して文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の科目の履修を通して、日本語文章の精確な読解力、論理的文章構成能力、多様な表現力を身に付けておくことが望ましい。

その他の科目においては、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的・社会的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

海運界、海事関連産業が抱える多様な諸問題を理解するために、自然科学や人文社会学などの広範な知識を総合的に思考し判断する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

海運界や海事関連産業で海技従事者として活躍するために必要な能力の修得を通して、多様な価値観や立場・役割を理解し、自分と自分以外の人及び社会システムと健全な関係を築くことができ、物事に対して主体的に取り組むことが期待できること。

【水産学科】

『求める学生像』

海洋学部水産学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科科目（物理、化学、生物、地学）の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語では、読解、文章作成を行う上での文構成の理解技能と表現力を身に付けておくことが望ましい。

社会では、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

水生生物を生物資源として持続的に活用するために、多様な水生生物についての科学的な基礎知識と水生生物の保護・育成・食品への利活用、水圏環境の保全などの広範な科学の知識を総合的に思考し判断・表現できる力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観や立場・役割を理解し、自らが社会の一員であることを認識し、水圏環境システムや食品が有するさまざまな課題に対して主体的に取り組むことが期待できること。

【海洋生物学科】

『求める学生像』

海洋学部海洋生物学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解したうえで、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

環境・社会問題の構造を理解するために、自然科学や社会科学などの広範な知識を総合的に思考し判断する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

種々に変動し、多様さが増す価値観のもと、それぞれの立場や役割を理解し、自分、他者および社会システムと健全な関係を構築でき、主体的に物事に取り組む姿勢を有することが望ましい。

人文学部

【人文学科】

『求める学生像』

人文学部人文学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して、英語の文章理解力、表現力といったコミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力といったコミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

人文学の観点から、知識や技能を総合して応用でき、それらを発信できることが、期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

文理融合学部

【経営学科】

『求める学生像』

文理融合学部経営学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

国際ビジネスのシーンで活躍できることも想定して、英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

経営学科は社会科学系の文系学科であるので、国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。特に漢字の読み書きの習得が重要である。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。できれば経営学科の基礎は経済学、政治学であるので、政治・経済、あるいは現代社会の学習をしておくことが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。特に地球環境問題への理解が必要である。

(2) 思考力・判断力・表現力

現代社会の仕組み、特に経済や経営の仕組みを理解した上で、どのような経済、経営が望ましいのか、という価値判断をする志向性を身に付けておくことが必要である。経済や経営において、経済的収益一辺倒ではなく、社会的人権の尊重、地球環境保護への配慮がなされているのかを問う姿勢、つまり現実と理想という2つの観点で考え、判断し、表現することが望まれる。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

俯瞰的で複眼的視点で、企業の社会的責任を常に意識しながら、能動的・主体的に物事に対して取組み、多様な人々と健全な関係を築き、他者と協働して学ぶことが期待できること。

【地域社会学科】

『求める学生像』

文理融合学部地域社会学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。特に漢字の読み書きの練習を十分にしておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。さらに、書籍、テレビやネットのメディア、新聞等を通して、国内外の政治・経済、国際関係、文化や各種メディアの表現方法の違いについて常に考える習慣を身に付けておくことが望ましい。

数学及び理科では、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。特に、地球環境問題への関心を持つことが望ましい。

情報では、パソコンの基本操作と ICT 関連の基本用語を理解するとともに、最新の情報通信機器やネットワークサービス等の動向への関心を持つことが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して地域づくりに応用できること及びそれらを表現できることが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

寛容性を持って友好な人間関係を築くことができること、バランス感覚をもちながら、物事に対して挑戦的に取り組むこと及び失敗や挫折を乗り越えて、よりよい地域社会の実現に資するような目標を実現することが期待できること。

【人間情報工学科】

『求める学生像』

文理融合学部人間情報工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

地方の暮らしと健康に関わる問題を様々な視点から捉え、その構造を理解するために、文系と理系の調和のとれた知識をもとに総合的に思考し判断できる力が期待できること。また、問題の理解に至る一連の過程を他者に的確に伝える表現力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解できる寛容性を有し、自身と社会の良好で健全な関係を築くことができると期待できること。また、社会の複雑な問題の解決に主体的に取り組むことが期待できること。

農学部

【農学科】

『求める学生像』

農学部農学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から複数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

生命や環境に関心を持ち、農業や社会の問題解決に取り組むために、自然科学や社会科学等の多様な知識を総合的に思考し判断する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観や立場・役割を理解し、自分と自分以外の人及び社会システムと健全な関係を築くことができ、物事に対して主体的に取り組むことが期待できること。

【動物科学科】

『求める学生像』

農学部動物科学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

動物生産から畜産物加工利用までの一連の過程、最新の動物生命科学、人と動物との関係を理解するために、自然科学や社会科学等の広範な知識を総合的に思考し判断する力が期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

文理融合的な柔軟で幅広い視野で社会を俯瞰し、多様な価値観や立場・役割を理解し、自らの意見を持って、動物科学に対して主体的に取り組むことが期待できること。

【食生命科学科】

『求める学生像』

農学部食生命科学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文系と理系の知識・技能を統合した文理融合的な視野に立って食の重要性や生命の尊さについて考え、自らの意思をもって判断し、自らの表現方法で発信できることが求められます。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

食の重要性や生命の尊さについて自ら学ぶ意欲をもち、多様な価値観をもっている人々と良好な関係を保ちながら、失敗や挫折を乗り越えて目標を達成しようとする姿勢が求められます。

【地域創造学科】

『求める学生像』

国際文化学部地域創造学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

1) 英語について

- ① 高校における英語科目の履修を通じて、英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。
- ② 英検、TOEIC, TOEFL, GTEC などの外部試験を受験していることが望ましい。

2) 国語について

- ① 高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。
- ② 作文・小論文作成のトレーニングを積んでおくことが望ましい。

3) 社会について

- ① 社会では、高校での社会の科目（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）を幅広く理解していることが望まれる。
- ② 新聞の国際欄を読んで記事の内容を理解できることが望まれる。

4) 数学及び理科について

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

1) 論理的思考力について

中学校の数学で学んだ図形の証明問題（合同、相似）を用い、「前提—論拠—結論」という論理的思考のパターンを理解しておくことが望ましい。

2) 判断力について

自身の住む地域が直面している問題を特定し、それに対する解決方法を考察するトレーニングを積んでおくことが望ましい。

3) 表現力について

新聞の社説を書き写し、論説文の構成や表現パターンを理解しておくことが望まれる。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

1) ボランティア活動について

学校内や地域のボランティア活動に積極的に参加し、社会の課題に対して当事者意識を身に付けておくことが望ましい。

2) リーダーシップとマネジメントについて

リーダーシップとマネジメントに必要な要素を理解しておくことが望ましい。

【国際コミュニケーション学科】

『求める学生像』

国際文化学部国際コミュニケーション学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

1) 英語について

- ① 高校における英語科目の履修を通じて、英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

- ② 英検、TOEIC、TOEFL、GTECなどの外部試験を受験していることが望ましい
- 2) 国語について
- ① 高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。
- ② 作文・小論文作成のトレーニングを積んでおくことが望ましい。
- 3) 社会について
- ① 社会では、高校での社会の科目（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）を幅広く理解していることが望まれる。
- ② 新聞の国際欄を読んで記事の内容を理解できることが望まれる。
- 4) 数学及び理科について
- 数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。
- (2) 思考力・判断力・表現力
- 1) 論理的思考力について
- 中学校の数学で学んだ図形の証明問題（合同、相似）を用い、「前提—論拠—結論」という論理的思考のパターンを理解しておくことが望ましい。
- 2) 判断力について
- 国際間での解決が必要な問題を特定し、それに対する解決策を考察するトレーニングを積んでおくことが望ましい。
- 3) 表現力について
- 英語で日記を付け、自身の日常生活を英語で表現するトレーニングを積んでおくことが望ましい。
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- 1) ボランティア活動について
- 学校内や地域のボランティア活動に積極的に参加し、社会の課題に対して当事者意識を身に付けておくことが望ましい。
- 2) 国際交流活動への参加について
- 学校内や地域で開催される国際交流のイベントに積極的に参加し、国籍や文化を異にする人々と相互に理解し合える経験を有することが望ましい。
- 展する姿勢を身につけておくことが望ましい。

生物学部

【生物学科】

生物学部生物学科の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

『求める学生像』

生物学部生物学科で定めている学位授与のために求められている能力を身につけることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での生物、化学分野の科目履修を通して学科の専門内容に関する項目を理解していることが望ましい。

国語では、高校での国語の科目の履修を通して日本語の運用に習熟し、読み聞きた日本語の内容を的確に理解し、また表現したいことを精確に記述し話せることが望ましい。

数学、社会、理科等の生物以外の科目の知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

生物学の基礎知識を基に自然・環境・生命のあり方を総合的に理解し、さらに、自らの理解を外部に発信する意欲を持つことが望ましい。また、文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

自らの興味を他者と共有し、物事に対して挑戦的に取り組むことや、多様な価値観を理解し、友好的な人間関係を築くことにより目標を実現しようとする意識を持っていることが望ましい。

【海洋生物科学科】

生物学部海洋生物科学科の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

『求める学生像』

生物学部海洋生物科学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での物理、化学、生物の科目の履修を通して学科の専門内容に関する項目を理解していることが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

また、海洋生物科学科では、数学、社会、地学等の生物以外の科目の知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

海洋生物と環境生態系を理解するため、自然科学分野の広範な知識を総合的に思考し判断する力が期待できること、及び、文理融合の観点から文系及び理系の知識・技能を総合的に応用し、それらを表現できることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観や立場・役割を理解し、友好的な人間関係を築くことができること、物事に対して主体的に取り組めること、及び、豊かな世界観と倫理観を備え、海洋環境と人間活動の調和に貢献しようとする意識を持っていることが望ましい。

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	6 人	－					6 人
文学部	－	22 人	11 人	2 人	0 人	0 人	35 人
文化社会学部	－	27 人	20 人	5 人	0 人	0 人	52 人
教養学部	－	15 人	13 人	0 人	2 人	0 人	30 人
児童教育学部	－	12 人	6 人	3 人	1 人	0 人	22 人
体育学部	－	28 人	17 人	7 人	1 人	0 人	53 人
健康学部	－	7 人	8 人	2 人	4 人	0 人	21 人
法学部	－	13 人	6 人	4 人	0 人	0 人	23 人
政治経済学部	－	13 人	7 人	7 人	0 人	0 人	27 人
経営学部	－	9 人	2 人	5 人	0 人	0 人	16 人
国際学部	－	9 人	6 人	2 人	0 人	0 人	17 人
観光学部	－	9 人	6 人	2 人	0 人	0 人	17 人
情報通信学部	－	14 人	7 人	3 人	0 人	0 人	24 人
理学部	－	33 人	10 人	1 人	0 人	0 人	44 人
情報理工学部	－	18 人	7 人	4 人	0 人	0 人	29 人
建築都市学部	－	14 人	11 人	3 人	1 人	0 人	29 人
工学部	－	50 人	25 人	11 人	2 人	0 人	88 人
医学部医学科	－	115 人	88 人	128 人	234 人	0 人	565 人
医学部看護学科	－	8 人	8 人	10 人	7 人	0 人	33 人
海洋学部	－	33 人	18 人	3 人	2 人	0 人	56 人
人文学部	－	6 人	5 人	4 人	0 人	0 人	15 人
文理融合学部	－	22 人	17 人	5 人	1 人	0 人	45 人
農学部	－	15 人	9 人	6 人	1 人	0 人	31 人
国際文化学部	－	16 人	4 人	2 人	2 人	0 人	24 人
生物学部	－	16 人	5 人	2 人	1 人	0 人	24 人
教養部	－	29 人	30 人	18 人	2 人	0 人	79 人
附置研究所	－	25 人	10 人	7 人	12 人	35 人	89 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		645 人					645 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページ TOP ＞ 教育・研究 ＞ 研究支援・体制 ＞ 研究活動・ライセンス検索 ＞ 教員研究活動情報の検索 https://tokaihyoka-kokai.tsc.u-tokai.ac.jp/search/index.html?lang=ja&template=templatel					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	370 人	436 人	117.8%	1480 人	1658 人	112.0%	若干名	0 人
文化社会学部	450 人	525 人	116.7%	1800 人	1970 人	109.4%	若干名	0 人
教養学部	190 人	204 人	107.4%	760 人	810 人	106.6%	若干名	1 人
児童教育学部	150 人	167 人	111.3%	600 人	609 人	101.5%	若干名	0 人
体育学部	540 人	592 人	109.6%	2160 人	2261 人	104.7%	若干名	1 人
健康学部	200 人	224 人	112.0%	800 人	809 人	101.1%	若干名	0 人
法学部	300 人	352 人	117.3%	1200 人	1323 人	110.3%	若干名	0 人
政治経済学部	400 人	478 人	119.5%	1600 人	1784 人	111.5%	若干名	0 人
経営学部 (湘南・品川キャンパス)	230 人	246 人	107.0%	920 人	1000 人	108.7%	若干名	0 人
国際学部	200 人	234 人	117.0%	800 人	853 人	106.6%	若干名	2 人
観光学部	200 人	228 人	114.0%	800 人	902 人	112.8%	若干名	0 人
情報通信学部	240 人	264 人	110.0%	960 人	1100 人	114.6%	若干名	2 人
理学部	320 人	368 人	115.0%	1280 人	1357 人	106.0%	若干名	1 人
情報理工学部	300 人	292 人	97.3%	1200 人	1337 人	111.4%	若干名	0 人
建築都市学部	340 人	346 人	101.8%	1360 人	1406 人	103.4%	若干名	1 人
工学部	820 人	871 人	106.2%	3280 人	3590 人	109.5%	若干名	0 人
医学部医学科	118 人	123 人	104.2%	708 人	741 人	104.7%	0 人	0 人
医学部看護学科	95 人	111 人	116.8%	380 人	400 人	105.3%	若干名	0 人
海洋学部	350 人	336 人	96.0%	1400 人	1398 人	99.9%	若干名	0 人
人文学部	180 人	162 人	90.0%	720 人	612 人	85.0%	若干名	0 人
経営学部 (熊本キャンパス)	0 人	0 人	%	0 人	34 人	%	0 人	0 人
基盤工学部	0 人	0 人	%	0 人	11 人	%	0 人	0 人
文理融合学部	300 人	275 人	91.7%	1200 人	1119 人	93.3%	若干名	9 人
農学部	230 人	213 人	92.6%	920 人	791 人	86.0%	若干名	2 人
国際文化学部	190 人	183 人	96.3%	760 人	753 人	99.1%	若干名	0 人
生物学部	150 人	154 人	102.7%	600 人	624 人	104.0%	若干名	0 人
合計	6863 人	7384 人	107.6%	27688 人	29252 人	105.6%	若干名	19 人

(備考)

経営学部（熊本キャンパス）と基盤工学部は学生募集停止のため入学者なし

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	327 人 (100%)	8 人 (2.4%)	260 人 (79.5%)	59 人 (18.0%)
文化社会学部	434 人 (100%)	14 人 (3.2%)	347 人 (80.0%)	73 人 (16.8%)
教養学部	311 人 (100%)	13 人 (4.2%)	251 人 (80.7%)	47 人 (15.1%)
体育学部	448 人 (100%)	15 人 (3.3%)	389 人 (86.8%)	44 人 (9.8%)
健康学部	186 人 (100%)	11 人 (5.9%)	158 人 (84.9%)	17 人 (9.1%)
法学部	274 人 (100%)	5 人 (1.8%)	224 人 (81.8%)	45 人 (16.4%)
政治経済学部	454 人 (100%)	13 人 (2.9%)	394 人 (86.8%)	47 人 (10.4%)
観光学部	219 人 (100%)	2 人 (0.9%)	207 人 (94.5%)	10 人 (4.6%)
情報通信学部	300 人 (100%)	25 人 (8.3%)	251 人 (83.7%)	24 人 (8.0%)
理学部	287 人 (100%)	54 人 (18.8%)	202 人 (70.4%)	31 人 (10.8%)
情報理工学部	186 人 (100%)	36 人 (19.4%)	131 人 (70.4%)	19 人 (10.2%)
工学部	1163 人 (100%)	260 人 (22.4%)	771 人 (66.3%)	132 人 (11.3%)
医学部医学科	94 人 (100%)	0 人 (0.0%)	93 人 (98.9%)	1 人 (1.1%)
医学部看護学科	83 人 (100%)	2 人 (2.4%)	79 人 (95.2%)	2 人 (2.4%)
海洋学部	440 人 (100%)	47 人 (10.7%)	351 人 (79.8%)	42 人 (9.5%)
経営学部 (熊本キャンパス)	207 人 (100%)	2 人 (1.0%)	176 人 (85.0%)	29 人 (14.0%)
基盤工学部	91 人 (100%)	2 人 (2.2%)	78 人 (85.7%)	11 人 (12.1%)
農学部	150 人 (100%)	13 人 (8.7%)	128 人 (85.3%)	9 人 (6.0%)
国際文化学部	216 人 (100%)	1 人 (0.5%)	182 人 (84.3%)	33 人 (15.3%)
生物学部	125 人 (100%)	17 人 (13.6%)	93 人 (74.4%)	15 人 (12.0%)
合計	5995 人 (100%)	540 人 (9.0%)	4765 人 (79.5%)	690 人 (11.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 児童教育学部、経営学部(湘南・品川キャンパス)、国際学部、建築都市学部、人文学部、文理融合学部は2022年度設置のため卒業生なし。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 本学では、教育課程年度ならびに開講授業科目毎にシラバスを作成・公表している。シラバスの内容は、学科目、科目キーワード、科目と関連する実務経験、アクティブラーニング科目、地域志向による学修内容、他科目との関係、科目の要旨・概要、実務経験に基づく学修内容、アクティブラーニングによる学修内容、地域志向による学修内容、大学全体レベルの DP、学位プログラムレベルの DP、本科目の学修成果目標（ラーニングアウトカム）、成績評価の基準・方法、課題・試験・レポート等のフィードバック方法、履修上の注意点、教科書、参考図書・その他の教材、授業スケジュールである。 シラバスは、担当教員がシラバスデータベースシステム上で上記項目を入力後、科目管理者が点検・承認するというプロセスを経て公開される。 公表時期については、当該授業科目開講前に本学ホームページへ掲載し、広く周知している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要） 各科目の成績評価の客観性や厳格性を担保するために、シラバスに成績評価の基準が明記され、適性に成績評価がなされている。 また、学修成果の評価のひとつとして GPA 制を導入しており、修得単位数と合わせて、学修の評価基準となっている。 本学は、創立者松前重義の示した建学の精神を受け継ぎ「明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てること」を目指している。そのために、大学として、教育目標と学位授与方針及び育成する人材像（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）として明確に設定している。 ディプロマ・ポリシーの内容は次の通りである。 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解し、文理融合の幅広い教養を身につけ、学則に定める修了要件を満たすとともに、自らの考えをもち、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく自主性や創造性を身につけたと認められるものに学位を授与する。 学位授与方針を、本学の学修をととして身につけるべき社会的実践力「4つの力（12 構
--

成要素)」は下記のとおりである。

＜自ら考える力＞

対象を見据え、その本質を掘り下げ、可能性を広げる力（学習力、思考力、探求力）

＜集い力＞

多様な人々の中で生き、その集団の形成・維持に寄与する力（関係構築力、コミュニケーション力、アイデンティティ獲得）

＜挑み力＞

困難な問題に主体的に向き合い、解決・達成に向け踏み出す力（問題発見力、構想力、行動力）

＜成し遂げ力＞

目標達成の途中で生じる失敗や挫折を乗り越えて、目標に近づく力（セルフマネジメント、継続力、改善・修正力）

なお、卒業要件については、学則並びに授業要覧に、卒業単位数を修得し、所定の試験に合格すること等が明示されている。学部及び大学での卒業判定会議を行っており、卒業判定を適切に行うための措置がなされて、適切な学位授与が行われている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	文明学科	124 単位	有・無	単位
	歴史学科	124 単位	有・無	単位
	日本文学科	124 単位	有・無	単位
	英語文化コミュニケーション学科	124 単位	有・無	単位
文化社会学部	アジア学科	124 単位	有・無	単位
	ヨーロッパ・アメリカ学科	124 単位	有・無	単位
	北欧学科	124 単位	有・無	単位
	文芸創作学科	124 単位	有・無	単位
	広報メディア学科	124 単位	有・無	単位
	心理・社会学科	124 単位	有・無	単位
教養学部	人間環境学科	124 単位	有・無	単位
	芸術学科	124 単位	有・無	単位
児童教育学部	児童教育学科	124 単位	有・無	単位
体育学部	体育学科	124 単位	有・無	単位
	競技スポーツ学科	124 単位	有・無	単位
	武道学科	124 単位	有・無	単位
	生涯スポーツ学科	124 単位	有・無	単位
	スポーツ・レジャーマネジメント学科	124 単位	有・無	単位
健康学部	健康マネジメント学科	124 単位	有・無	単位
法学部	法律学科	124 単位	有・無	単位
政治経済学部	政治学科	124 単位	有・無	単位
	経済学科	124 単位	有・無	単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	単位
国際学部	国際学科	124 単位	有・無	単位
観光学部	観光学科	124 単位	有・無	単位

情報通信学部	情報通信学科	124 単位	有・無	単位
理学部	数学科	124 単位	有・無	単位
	情報数理学科	124 単位	有・無	単位
	物理学科	124 単位	有・無	単位
	化学科	124 単位	有・無	単位
情報理工学部	情報科学科	124 単位	有・無	単位
	コンピュータ応用 工学科	124 単位	有・無	単位
	情報メディア学科	124 単位	有・無	単位
建築都市学部	建築学科	124 単位	有・無	単位
	土木工学科	124 単位	有・無	単位
工学部	航空宇宙学科	124 単位	有・無	単位
	機械工学科	124 単位	有・無	単位
	機械システム工学科	124 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	124 単位	有・無	単位
	医工学科	124 単位	有・無	単位
	生物工学科	124 単位	有・無	単位
	応用化学科	124 単位	有・無	単位
医学部	医学科	193 単位	有・無	単位
	看護学科	124 単位	有・無	単位
海洋学部	海洋理工学科	124 単位	有・無	単位
	水産学科	124 単位	有・無	単位
	海洋生物学科	124 単位	有・無	単位
人文学部	人文学科	124 単位	有・無	単位
文理融合学部	経営学科	124 単位	有・無	単位
	地域社会学科	124 単位	有・無	単位
	人間情報工学科	124 単位	有・無	単位
農学部	農学科	124 単位	有・無	単位
	動物科学科	124 単位	有・無	単位
	食生命科学科	124 単位	有・無	単位
国際文化学部	地域創造学科	124 単位	有・無	単位
	国際コミュニケーション学科	124 単位	有・無	単位
生物学部	生物学科	124 単位	有・無	単位
	海洋生物科学科	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/>

<https://www.u-tokai.ac.jp/education-research/tokai-university-library/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	文明学科	1, 216, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	歴史学科				
	日本文学科				
	英語文化コミュニケーション学科				
文化社会学部	アジア学科	1, 216, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	ヨーロッパ・アメリカ学科				
	北欧学科				
	文芸創作学科				
	広報メディア学科				
	心理・社会学科				
教養学部	人間環境学科	1, 269, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	芸術学科				
児童教育学部	児童教育学科	1, 269, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
体育学部	体育学科	1, 269, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	生涯スポーツ学科は、1 年次と 2 年次に実習費が別途かかります。（参考：2024 年度は 1 年次 42, 000 円、2 年次 55, 000 円） その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	競技スポーツ学科				
	武道学科				
	生涯スポーツ学科				
	スポーツ・レジャーマネジメント学科				
健康学部	健康マネジメント学科	1, 269, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
法学部	法律学科	1, 216, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
政治経済学部	政治学科	1, 227, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	経済学科				
経営学部	経営学科	1, 227, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
国際学部	国際学科	1, 227, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
観光学部	観光学科	1, 227, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
情報通信学部	情報通信学科	1, 354, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円

理学部	数学科		1, 354, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	情報数理学科					
	物理学科					
	化学科					
情報理工学部	情報科学科		1, 354, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	コンピュータ応用工学科					
	情報メディア学科					
建築都市学部	建築学科		1, 354, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	土木工学科					
工学部	航空宇宙学科 (航空操縦学専攻)		1, 655, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	2〜3 年次に、留学中における授業料（参考：2024 年度は約 \$ 114, 414）、渡航費、生活費、燃料費などが別途かかります。 その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	航空宇宙学科 (航空宇宙学専攻)		1, 354, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	機械工学科					
	機械システム工学科					
	電気電子工学科					
	医工学科					
	生物工学科					
	応用化学科					
医学部	医学科	1 年	2, 148, 000 円	1, 000, 000 円	3, 302, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円 ・教育運営費 632, 000 円 ・教育充実費 520, 000 円 ・施設設備費 2, 100, 000 円
		2 年	2, 148, 000 円		3, 622, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円 ・教育運営費 632, 000 円 ・教育充実費 840, 000 円 ・施設設備費 2, 100, 000 円
		3 年				
		4 年				
		5 年				
		6 年				
	看護学科		1, 379, 000 円	200, 000 円	50, 000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25, 000 円
	海洋学部	海洋理工学科		1, 354, 000 円	200, 000 円	131, 000 円
水産学科						

	海洋生物学科					・実習実技費 81,000 円
人文学部	人文学科		1,216,000 円	200,000 円	50,000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25,000 円
文理融合 学部	経営学科		950,000 円	200,000 円	50,000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25,000 円
	地域社会学科					
	人間情報工学科					
農学部	農学科		1,345,000 円	200,000 円	50,000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25,000 円
	動物科学科					
	食生命科学科					
国際文化 学部	地域創造学科		1,107,000 円	200,000 円	50,000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25,000 円
	国際コミュニケーション学科					
生物学部	生物学科		1,234,000 円	200,000 円	50,000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25,000 円
	海洋生物科学科	1 年	1,234,000 円	200,000 円	90,000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25,000 円 ・教育実習費 40,000 円
		2 年	1,234,000 円		91,000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25,000 円 ・教育実習費 41,000 円
		3 年	1,234,000 円		50,000 円	その他欄計上費用 ・休学在籍料 1 学期につき 25,000 円
		4 年				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1. 修学に関する支援体制を、指導教員制度を基本として構築し、成績不振の学生、休学及び退学希望の学生等の早期把握に努め、適切な指導助言を行う。 2. 障がいのある学生については、「東海大学の障がい学生支援に関する取り組みの基本方針」に基づき支援を行う。 3. 各種奨学金制度の充実を図り、経済的困窮により修学の継続が困難な学生に対して、修学機会継続のための支援を行う。 4. 海外留学、キャンパス間留学、チャレンジプロジェクト等の正課内外の取組みに対して、奨学金及び支援金等の経済的支援を行う。 5. 大学院生の学修・研究活動を支援するために、各種奨学金制度及び、研究補助金制度等の充実を図る。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 各キャンパスのカレッジオフィスのキャリア就職担当では、就職活動を行う 3 年次・4 年次の学生や大学院生のみならず、入学早々の段階から学年に応じて学生 1 人ひとりの就職・進路に関して、きめ細かい様々なサポートを行う。

これまで実施してきた「学生の就職指導も教育の一環」の精神と実績を活かし、学生の就職支援のほか、将来に向けたキャリアデザインの支援が本学の柱であると考えている。全学部設置されたキャリア就職委員会、教務担当、校友会、ご父母で構成される後援会、同窓会と連携し、より良い学生の希望する進路が実現できるよう、様々なプログラムを用意している。具体的には、キャリア教育プログラム（低学年次生用、高学年次生用）、専門スタッフによる個別進路および就職相談、東海 JOB-LEAGUE などの独自の職業体験プログラム、就職ガイダンス、資格取得等の就職活動支援講座など様々なプログラムを学内で開催している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

健康推進室は、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生および教職員が心身共に健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートしている。健康推進室には東海大学病院の医師をはじめ、学生、教職員のそれぞれに担当保健師がおり、様々な保健サービスを提供している。

主な業務内容として、定期健診、特別健診（クラブ健診、体育学部特別健診、放射線取扱者健診、派遣留学生健診）などの健康診断や、応急手当などの救急処置、病気相談、医療機関の紹介などがある。授業期間内には東海大学病院の内科系（曜日ごとに消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎・代謝内科と入れ替わり）と精神科の担当医師が常駐し、健康推進室内で診察も受けられる。学生や教職員の心身の悩み相談にも、気軽に応じている。

また、学生に身近な健康問題を取り上げて、「健康教育」も積極的に行っている。アルコール、タバコ、肥満、食生活、性感染症、救急蘇生法などをテーマに、健康推進室主催の「健康教室」を開催している。学生や教職員、地域住民なども対象に、各自の健康管理の意識を高めることが目的である。これらの開催情報は、健康推進室のウェブサイトでも掲載し、毎回多くの方が参加している。

そのほか、病気休学者・復学者へのフォローや、ご父母からの健康電話相談も受け付けている。気軽に利用できるセルフチェックコーナーも設置し、血圧や体重、視力、体脂肪の測定、アルコールパッチテストなどのヘルスチェックも行っている。

このように、健康推進室では、医師・保健師・事務スタッフが一丸となって、学生の健康管理をサポートし、保健サービスを提供している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/information/public-information/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

○ 総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

文理融合型カリキュラムの充実を図るため、全学必修科目「現代教養科目」があります。中でも、パブリック・アチーブメント型教育として、「シティズンシップ（現代社会と市民）」「シティズンシップ（社会参画の意義）」「地域理解」「国際理解」の4科目を配置し、多様な分野の知識を活かすための実践力の修得や、市民としての教養につながる導入的な授業を行っています。

その他、「他学部他学科履修」を推奨し、指定科目群から16単位以上を修得した場合に「副専攻」として認める制度を通じて、体系的に文理横断した学びを進められるカリキュラムを編成しています。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F113310103233
学校名（〇〇大学 等）	東海大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人東海大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		2301人（ 90 ）人	1893人（ 97 ）人	1893人（ 97 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	1179人	949人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅱ区分	568人	456人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅲ区分	313人	249人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	151人	142人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	90人	97人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				12人（ 0 ）人
合計（年間）				1905人（ 97 ）人
（備考） 支援区分外者は人数に含めていません。				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	33人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	80人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	66人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	-	人	人
GPA等が下位4分の1	331人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	331人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。